

ORIGAMI

TANTEIDAN

折紙探偵団

M A G A Z I N E

定価 **635円**
(本体605円)

クローズアップ Close-up

折り紙の科学・数学・教育研究集会、 10回を重ねる

The 10th Meeting of JOAS-OSME

前川 淳

Maekawa Jun

千羽鶴折形 再訪 "Senbazuru Orikata" Revisited

「桑名の千羽鶴」問題

Issues on Senbazuru and Kuwana City

岡村昌夫

Okamura Masao

折り図 Diagrams

パンダ

Giant Panda

川畑文昭

Kawahata Fumiaki

展開図折りに挑戦! Crease Pattern Challenge!

ミミズク

Horned Owl

谷田尚之

Yada Naoyuki



つまみおり Information

2011 OrigamiUSAコンベンションレポート

The 2011 OrigamiUSA Convention Report

通巻 **128** 号

日本折紙学会 (JOAS) の理念

The Purpose of Japan Origami Academic Society

第一章 名称と目的

第一条 会の名称

1. 本会の名称は日本折紙学会とする。
2. 本会の英語での名称は、Japan Origami Academic Societyとする。
3. 本会の略称は、JOASとする。

第二条 会の目的

1. 本会は、折り紙の専門研究と折り紙の普及の促進、ならびに、それらを通しての広く国内、外の折り紙愛好家との交流の促進を目的とする。
2. 第一項の折り紙の専門研究とは、折り紙の創作、折り紙の創作技術の研究、折り紙に関する批評・評論、数学研究、教育研究、歴史・書誌研究、知的財産権等の研究、工学・商業デザインの研究等を意味する。
3. 第一項の折り紙の普及とは、折り紙の社会的認知度の向上活動、折り紙愛好者層の拡大活動、折り紙に関する人材の育成と発掘等を意味する。

規約第1章より抜粋

Chapter 1: Name and Purpose

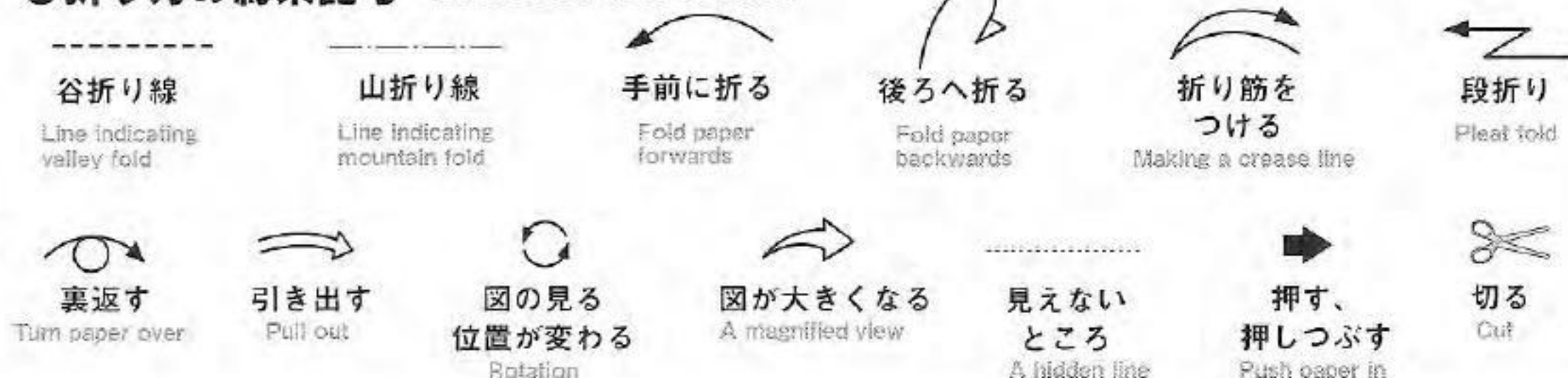
Article 1: Name

1. This society is to be called Nihon Origami Gakkai in Japanese.
2. This society is to be called Japan Origami Academic Society in English.
3. The abbreviated name of this society is JOAS.

Article 2: Purpose

1. The purpose of JOAS is to promote studies of origami, diffusion of origami, and both domestic and international association of all origami-lovers.
2. The studies of origami mentioned above includes designing, designing techniques, criticism, mathematical studies, educational studies, history, bibliography, studies of the intellectual property rights, studies of industrial and commercial design, and so on.
3. The diffusion of origami mentioned above includes widening appreciation of origami, expansion of the community of origami-lovers, scouting and rearing the origami talent, and so on.

●折り方の約束記号 SYMBOLS FOR FOLDING



ミミズク
Horned Owl

作: 谷田尚之 (P.34)

by Yada Naoyuki (P.34)

■どの方向から見回してもしっかりと感じられる体積。鳥類のなかでもフクロウやミミズクには特に求められる要素です。この表現には展開図折りたたみ以降の加工作業が重要。破れにくい紙を使い、何度も修正・模索しながら理想の完成形を目指しましょう。

(解説: 北條高史) Comments : Hojyo Takashi



Horned Owl: Yada Naoyuki

クローズアップ / Close-up

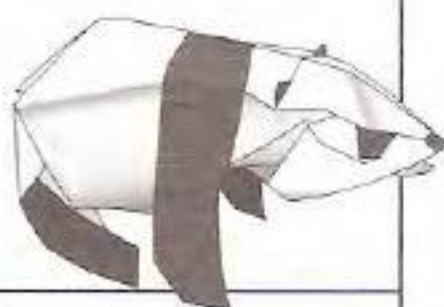
- P.11 折り紙の科学・数学・
教育研究集会、
10回を重ねる**
The 10th Meeting of JOAS-OSME

前川 淳
Maekawa Jun

折り図 / Diagrams and Crease Pattern

- P.22 パンダ**
Giant Panda

川畑文昭
Kawahata Fumiaki



- P.34 展開図折りに挑戦!**
Crease Pattern Challenge!

ミミズク
Horned Owl

谷田尚之
Yada Naoyuki

カラーページ / Color

- P.20 オリガミ・フォトギャラリー**
Origami Photo Gallery

解説・北條高史
Comments: Hojyo Takashi

折り図 / Thematic Series with Diagrams

- P.4 うず組みの世界**
The Spiral Module Series
アルマジロ
An Armadillo

川崎敏和
Kawasaki Toshikazu

- P.8 おりがみ我楽多市**
Origami Odds and Ends
鼻付きメガネ
Costume Glasses

やまぐち真
Yamaguchi Makoto

読み物 / Articles

- P.14 『千羽鶴折形』再訪**
"Senbazuru Orikata" Revisited
「桑名の千羽鶴」問題
Issues on Senbazuru and Kuwana City

岡村昌夫
Okamura Masao

- P.16 折紙図書館の本棚から**
From the Bookshelves of the JOAS Library
『紙とおりがみ』
ORIGAMI AND OTHER PAPER CRAFTS

北條高史
Hojyo Takashi

- P.18 気軽にはじめる 22.5 度系創作法**
Creating Models Based on 22.5° for Novices
分子のいろいろ
Varieties and Interpretations of Molecules

小松英夫
Komatsu Hideo

- P.35 ペーパーフォルダーの横顔**
Paper Folders on File
萩原 元
Hagiwara Gen

コラム / Columns

- P.7 折り紙の周辺**
Origami and Its Neighbors

布施知子
Fuse Tomoko

- P.32 おりすじ**
Orisuzi ("Fold-Creases")

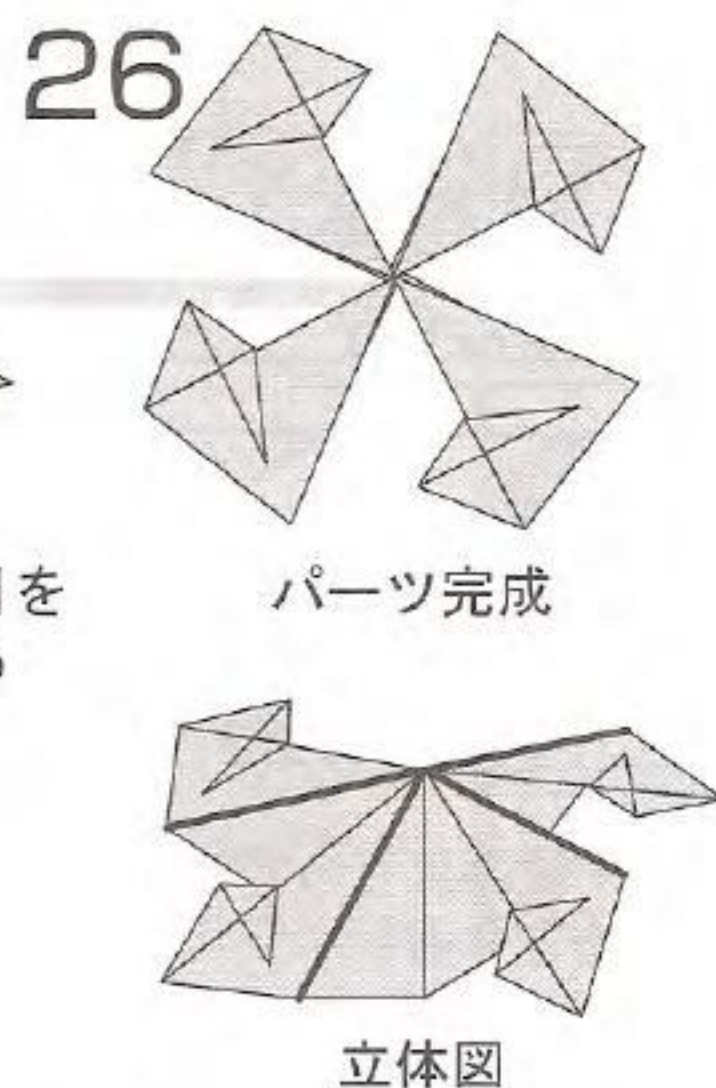
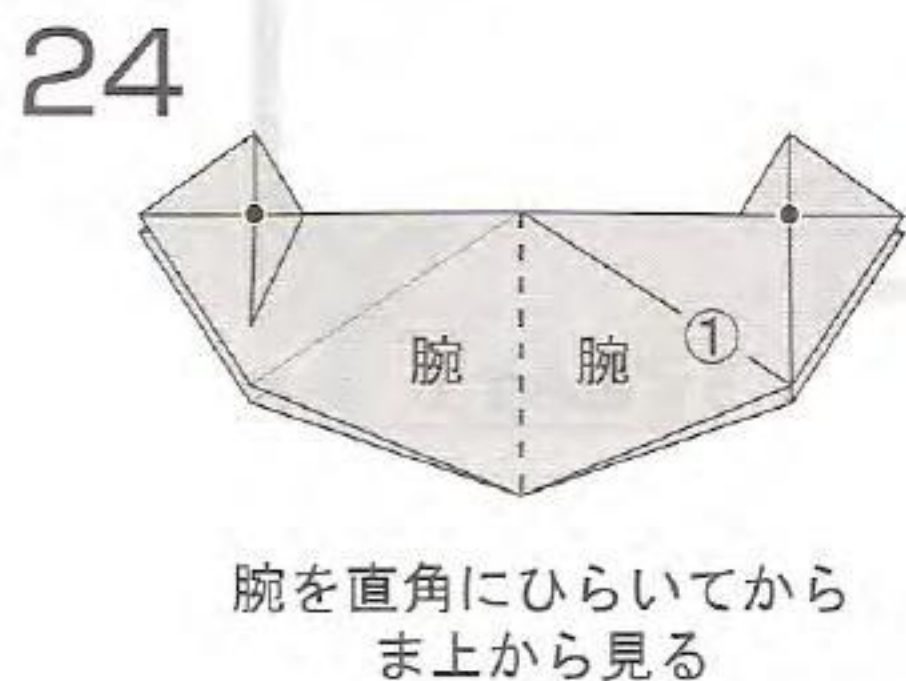
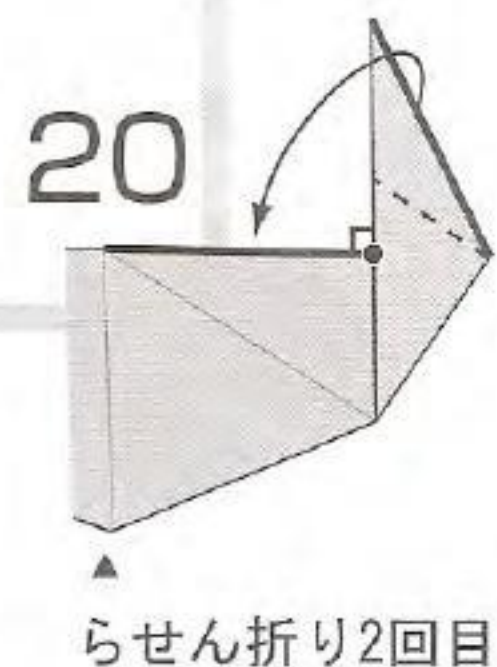
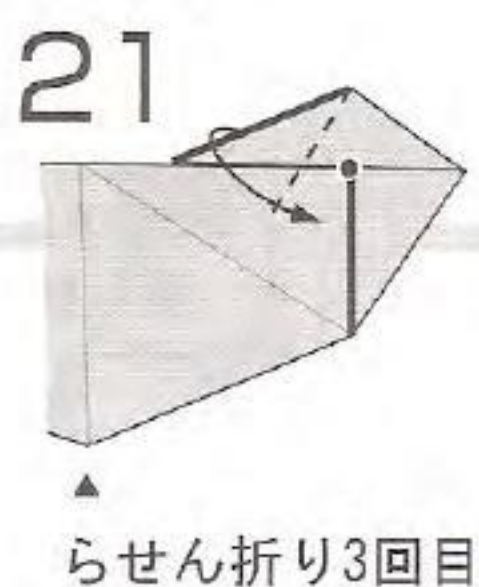
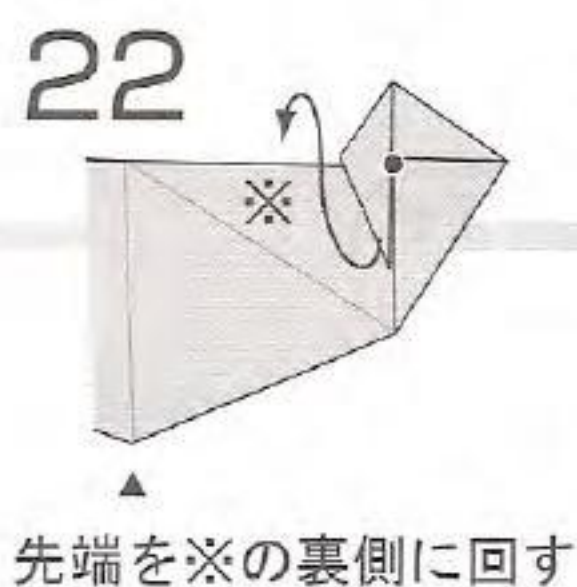
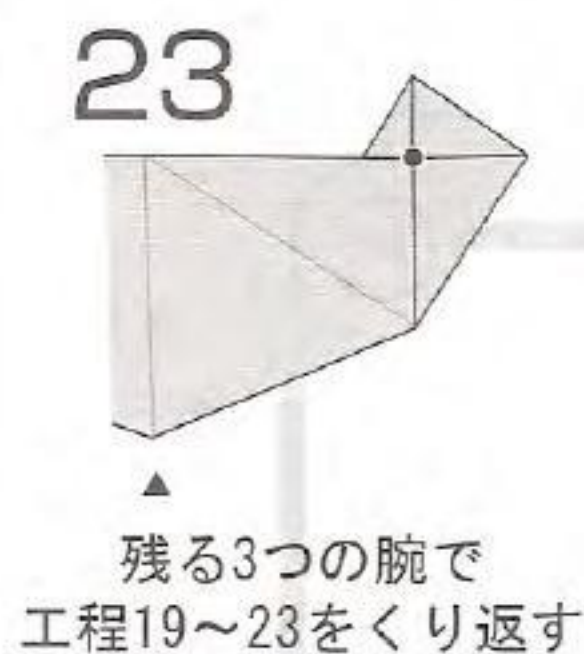
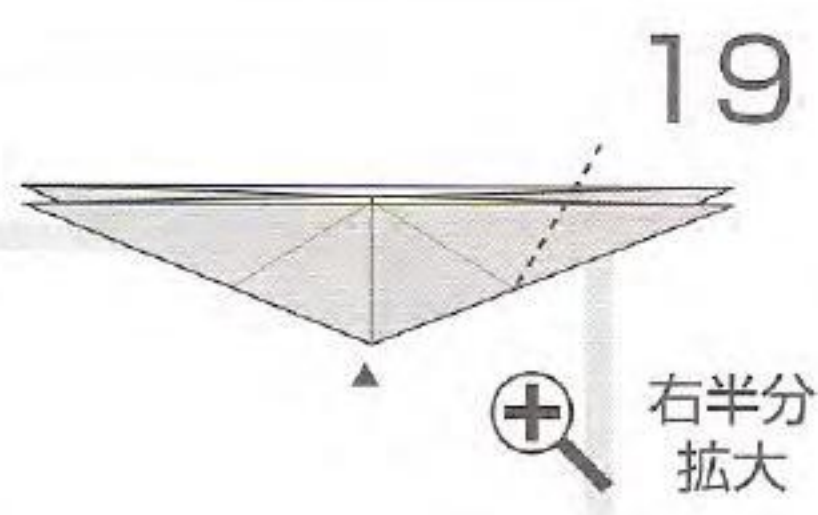
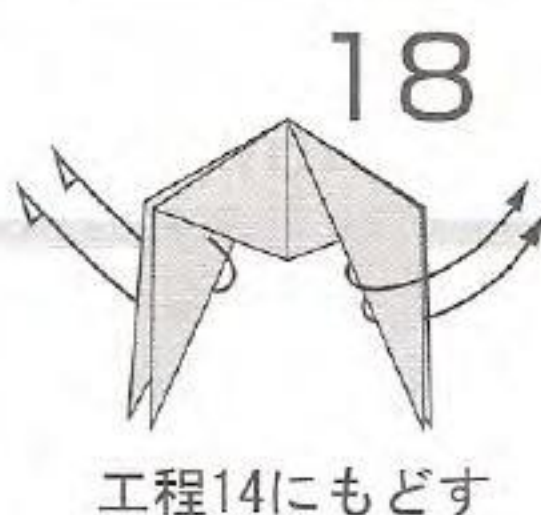
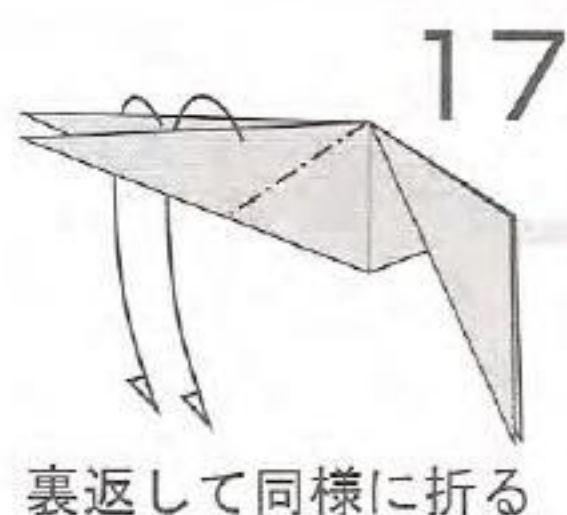
福島明星
Fukushima Akiho

- P.33 折紙三昧**
Origami-Zanmai (This Origami and That)

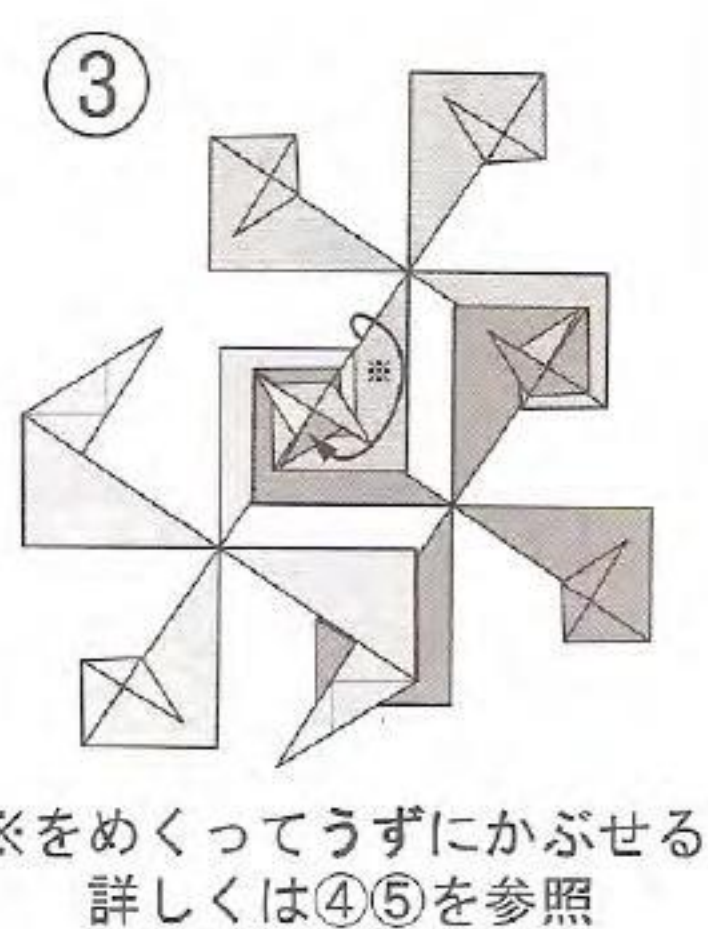
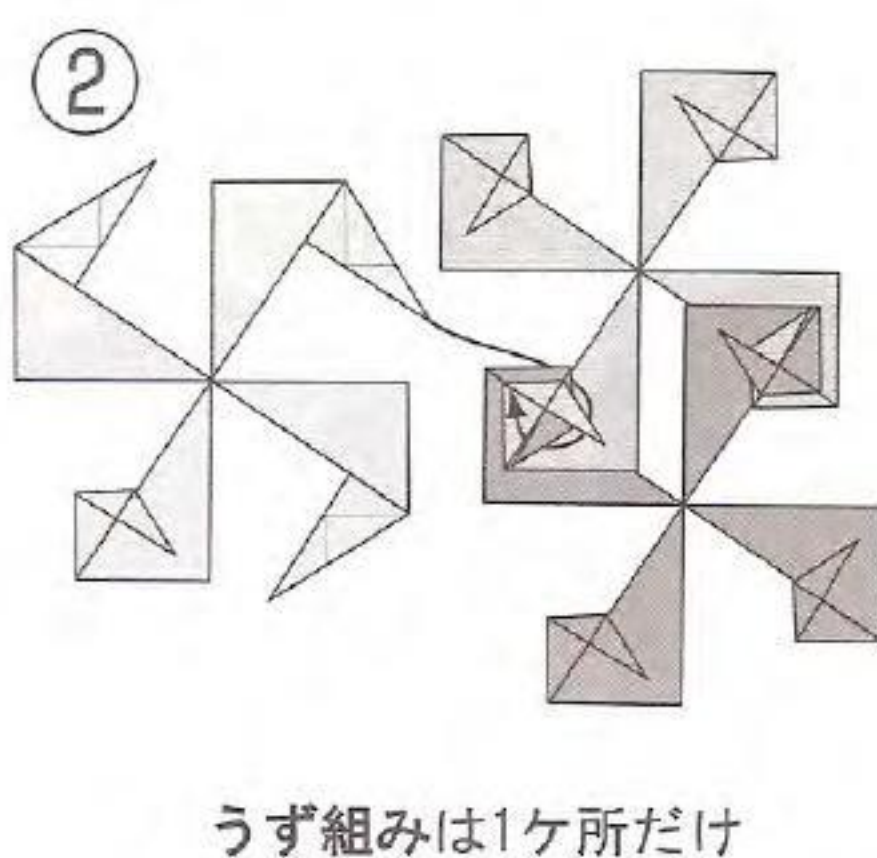
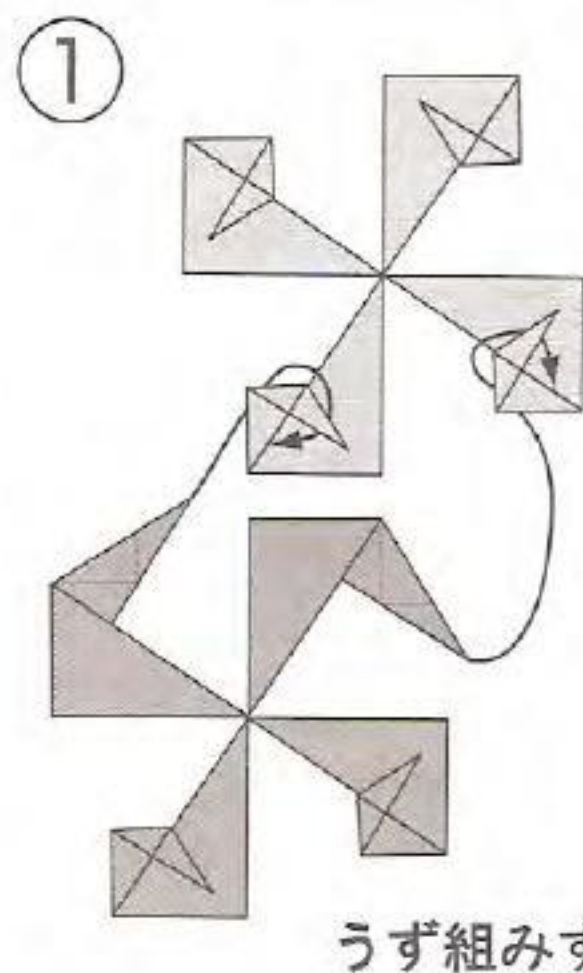
西川誠司
Nishikawa Seiji

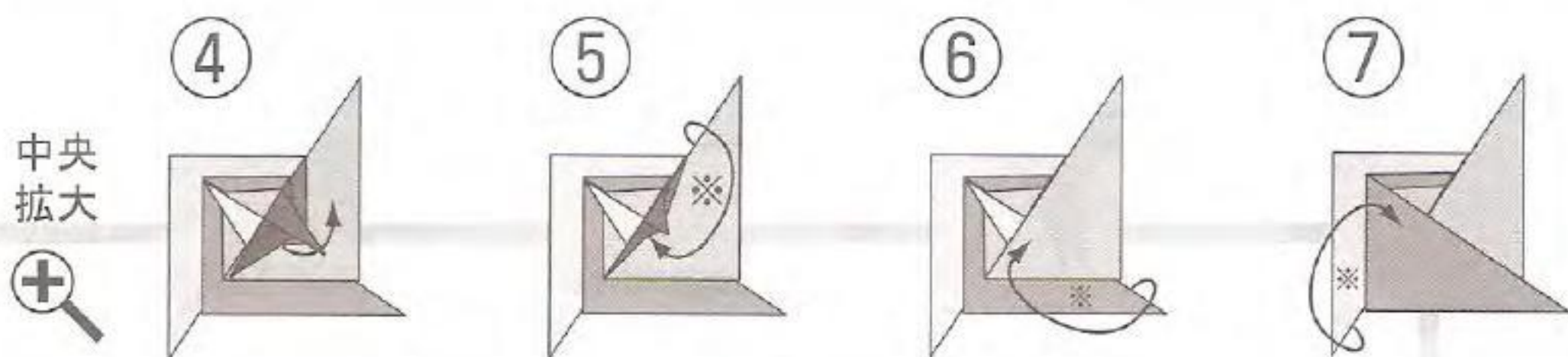
情報 / Information

- P.36 つまみおり** Rabbit Ear
2011 OrigamiUSAコンベンションレポート
The 2011 OrigamiUSA Convention Report



パーツを6個組む パーツ6個で正8面体にします。





中央
拡大
+

濃い部分を起こしてからかぶせる

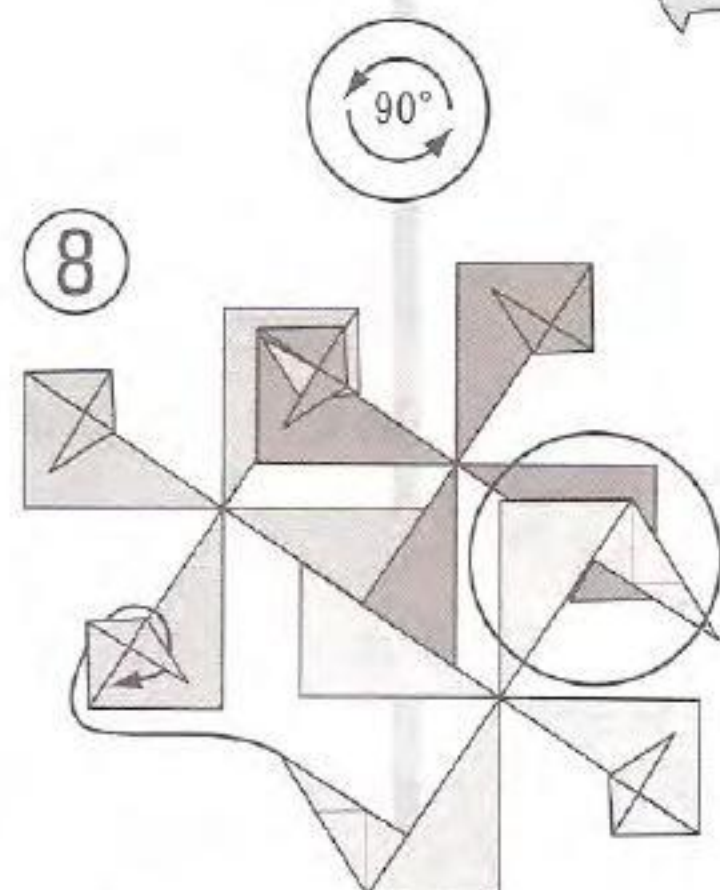
④～⑦をうず隠しという



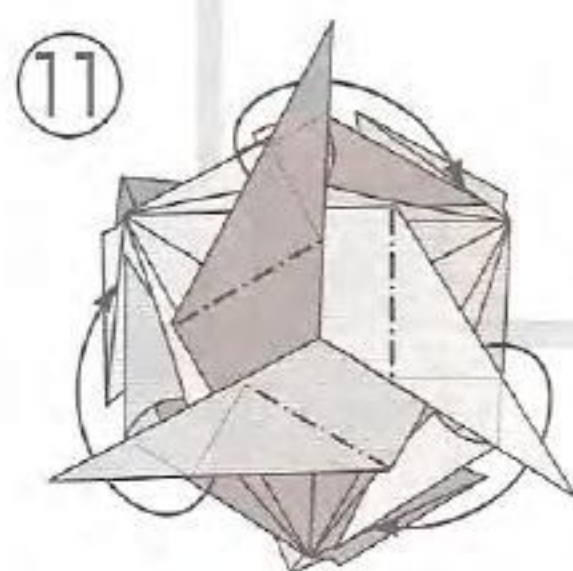
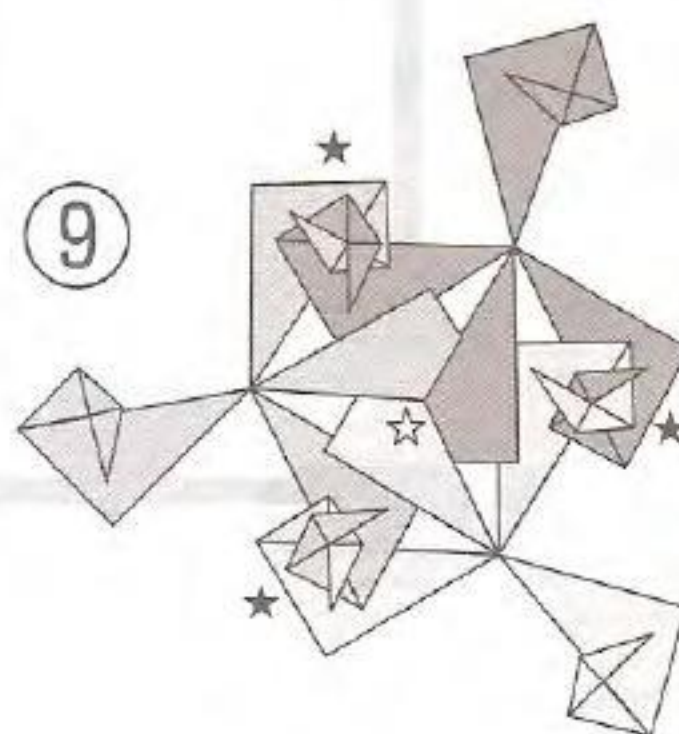
枠の中は①～⑨で
組んだ部分だよ

うず留めを
ほどいてから
組んでね

うず組みよりうず隠しを
優先させる



うず組みする 丸枠内も組む



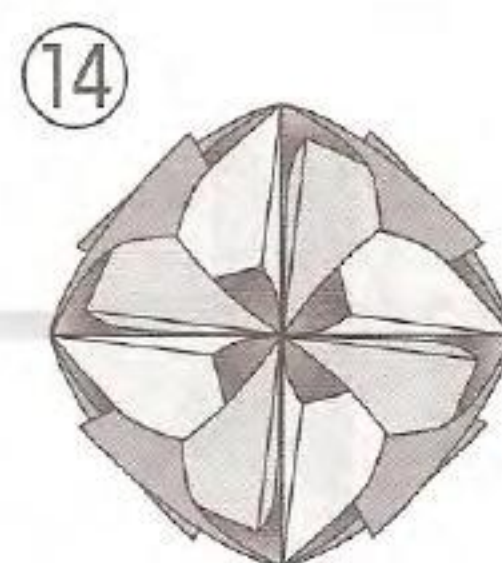
最後の腕3本を
うず組みする



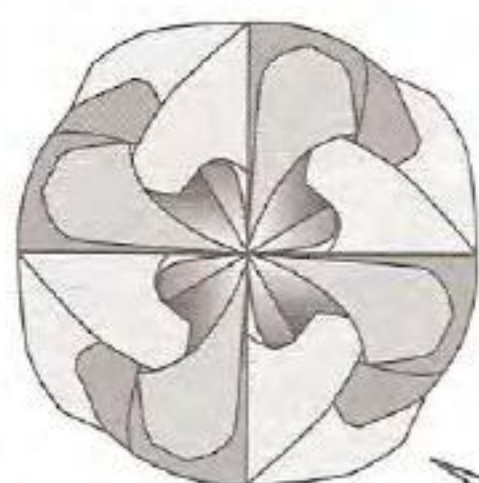
紙が破れないように
丁寧にうず隠しする



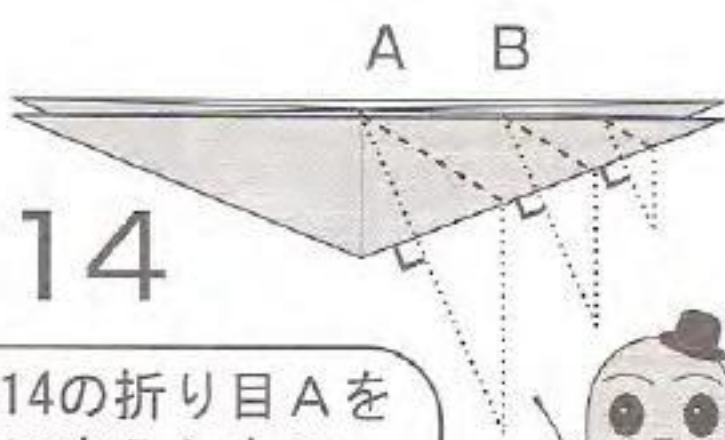
完成



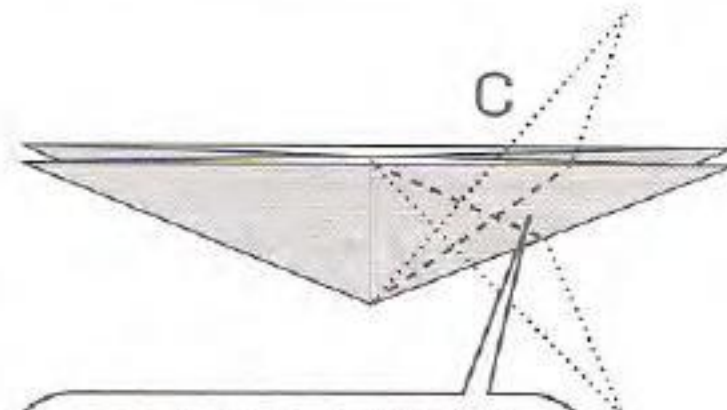
別方向から
見たところ



14



工程14の折り目Aを
Bに変えたもの
ゆるく組み合わさる



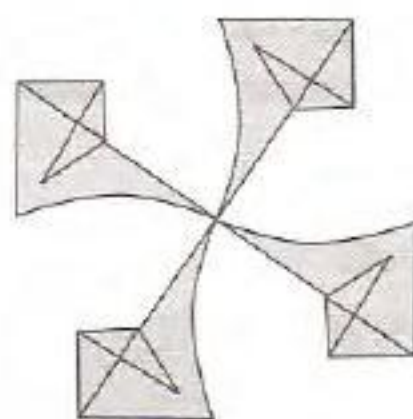
Cのように反対側に
折ることもできる



24



工程24で曲線の折り目
つけておくと球に近づく



触感はアルマジロが上だが
こっちの方が刺激的じゃ。
鎧玉と名づける。

折り紙の 周辺

第48回
エコ活動
Ecological Activity

Origami and
Its Neighbors

布施知子 Fuse Tomoko

家の南斜面にひろがる林の木を、地元の顔見知りの親方にたのんで数十本切ってもらった。車道にまでおおいかぶさって、積雪や大雨大風になると危険なほどに伸びてきたためだ。作業員6人ほどで2日半かかった。倒す方向を定めて木にかけたワイヤーを、旧式のブルドーザーで引きながら切っていった。ネコがちょっかいを出すかと心配したが、ネコが

近づけないほどあらあらしく危険な力仕事だった。家のまわりはさっぱりして、庭と畑の日あたりがよくなった。

昼休みに親方が茶の間に顔を出していった。「奥さんは折り紙をしてるってだが、どんな折り紙してるだいね。見せてもらえないか」

ちょっと驚かそうと思い、平織りの大作を見せると、ふーん、と眺めて、こう言われた。「ずいぶん手のこんだ事してるだね。まあ、なんでも金になりやいいさ」

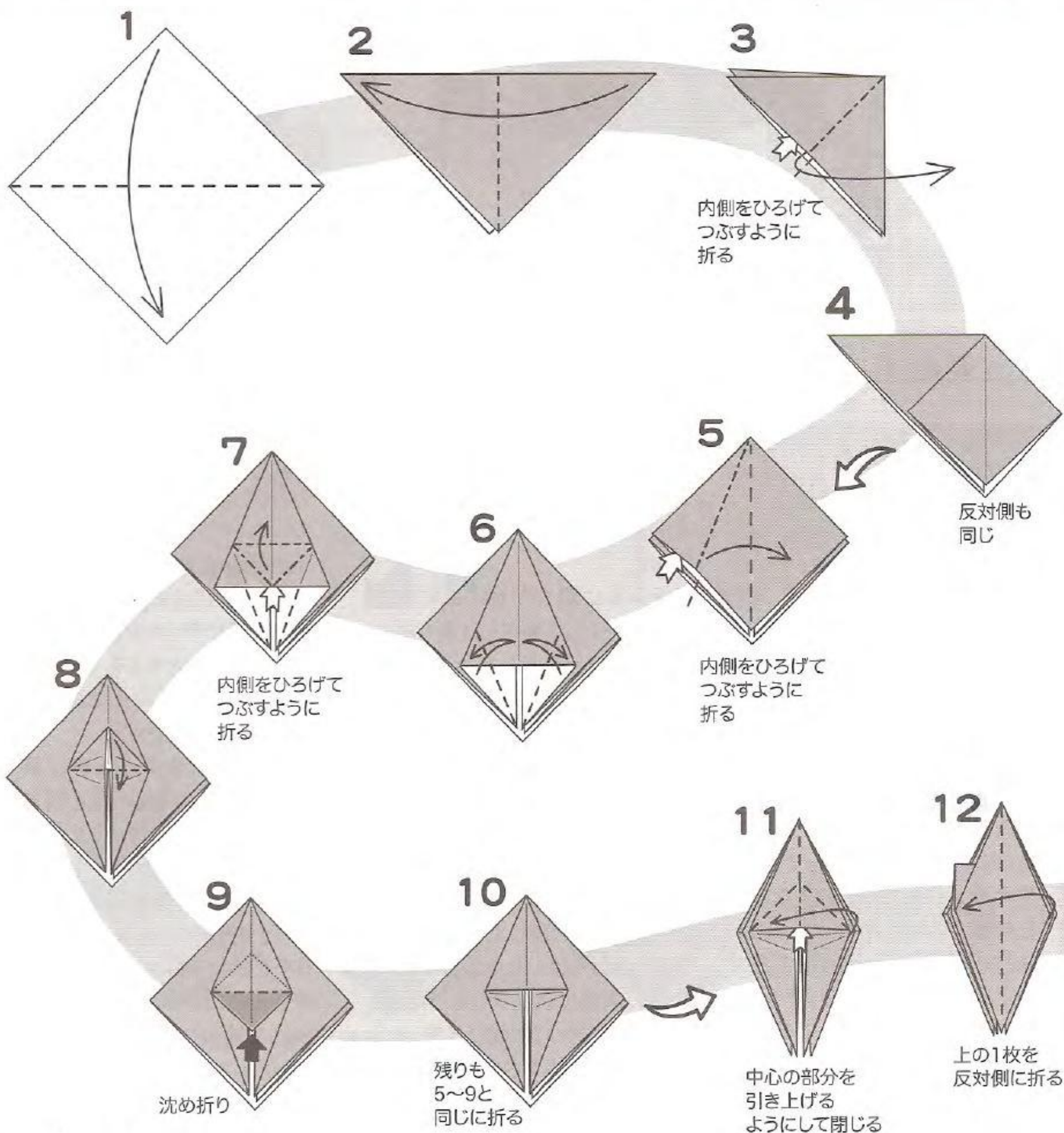
我家に来る車がスイッチバックをする、ちょっと開けた所は牧場跡で、30年近くほったらかしで草木が茂り、原野に戻りつつあった。親方はこの作業の1週間ほど前、そこにミズキやキリの木をつきだして骨だけ残る牛舎の鉄骨を取りに来

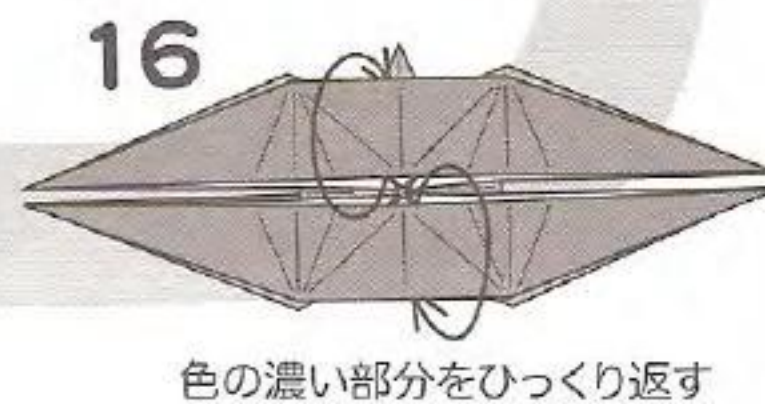
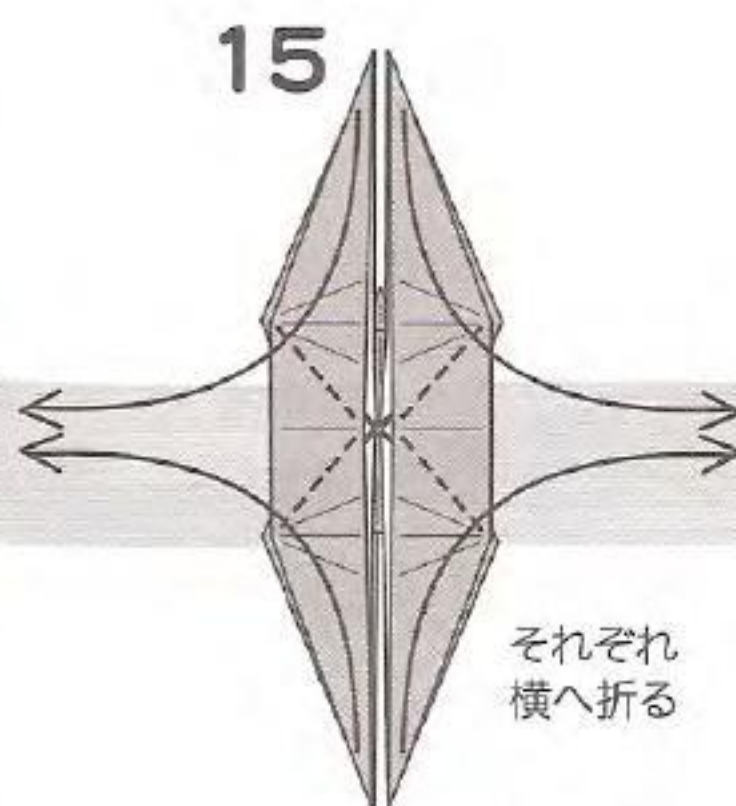
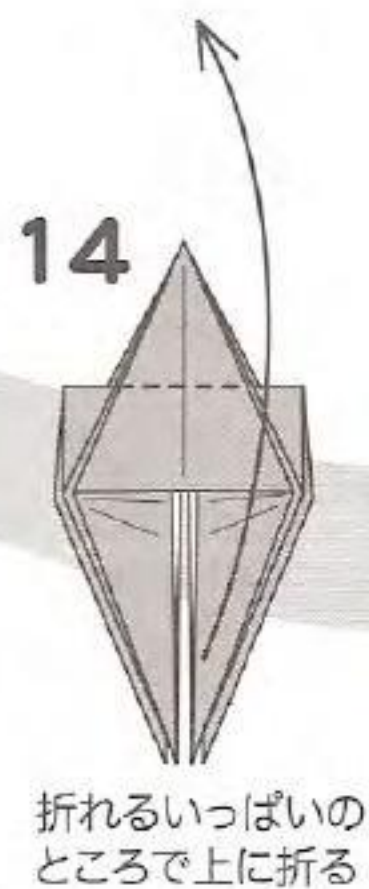
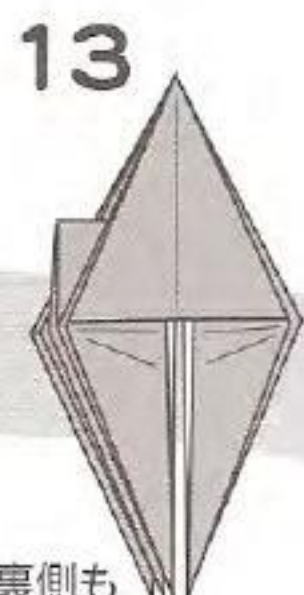
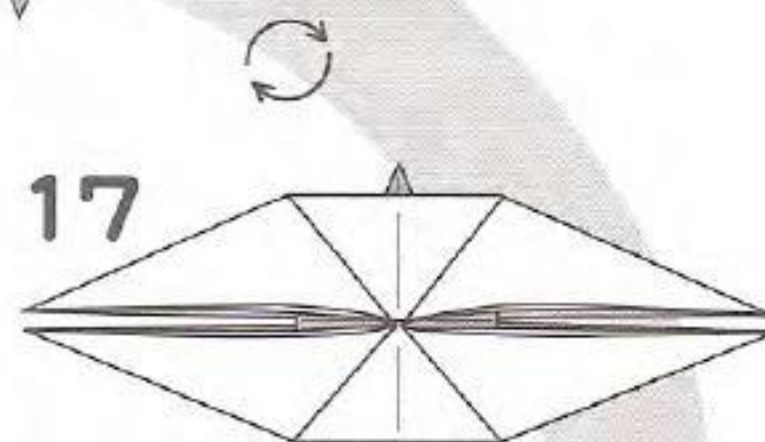
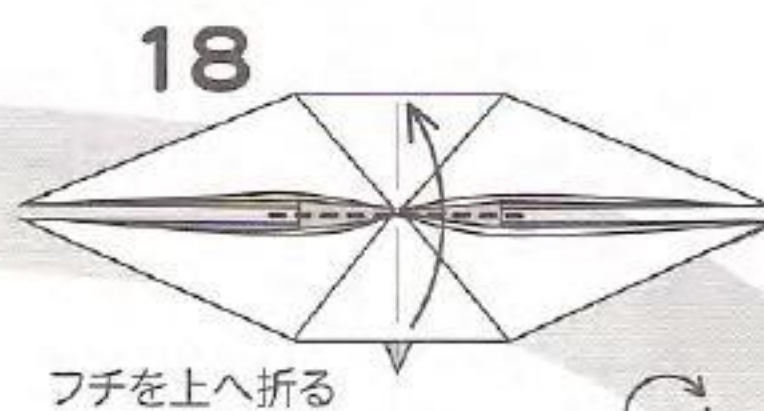
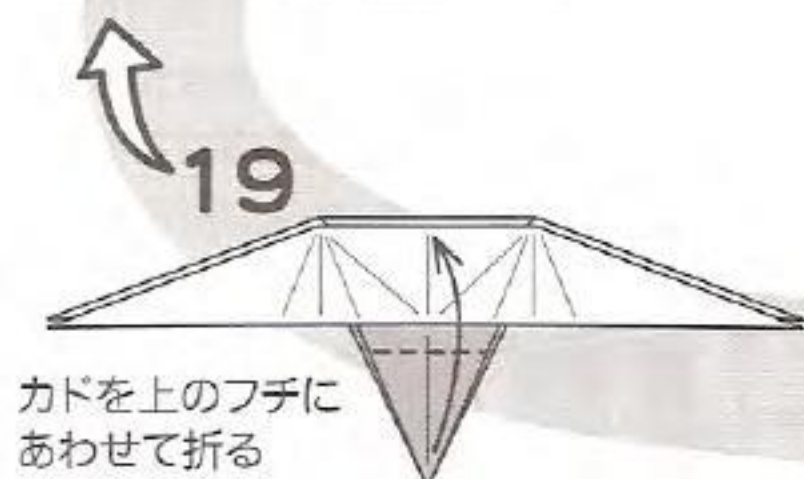
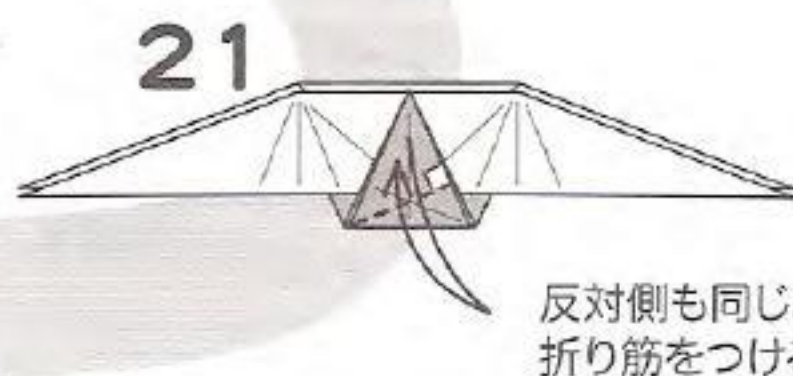
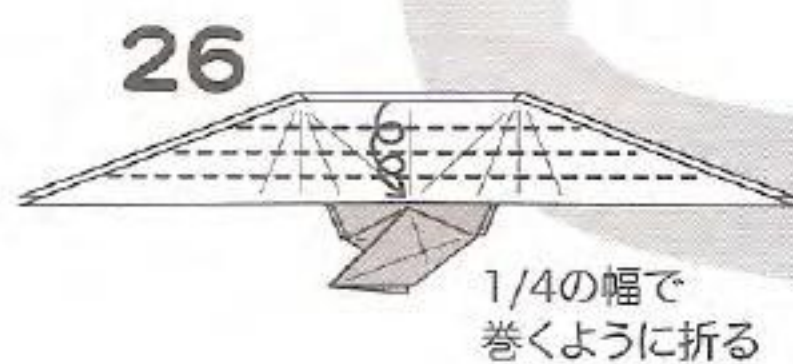
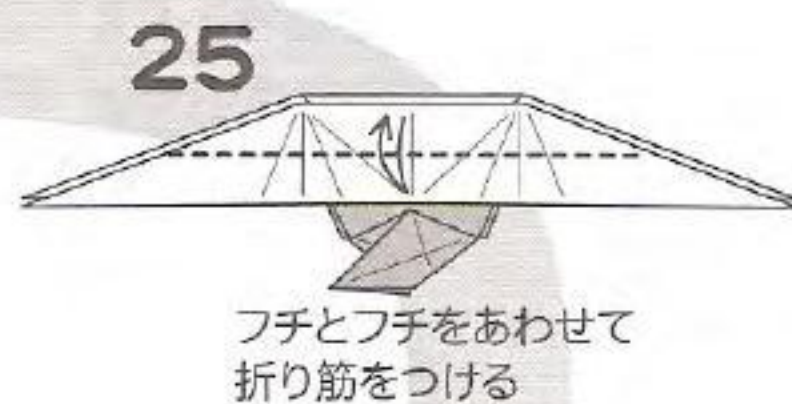
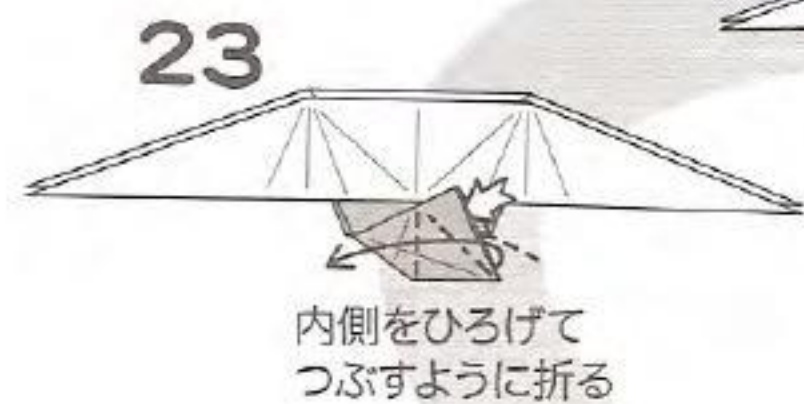
た。中国語が飛び交って、3人の作業員は中国人だった。人のいないこんな山奥で、それは不思議な光景だった。男ひとり、女ふたりのたくましい作業員は、様子を見に行った私とタロ氏に「こんにちは」とまぶしく明るい笑顔をむけた。「みんな働き者だよ」と親方は言った。

斜面の木を切る仕事が終わったとき、親方は「なにかあればもっていくよ。そこのブリキなんかも」と言った。車庫の屋根に使えと、郵便屋さんかがどっさり持って来た再利用のブリキを使いきれずに、20年近く野ざらしに積んでおいたものだ。「はい、助かります」と私たちは言った。

親方は自然にエコをしている。

使用する用紙の一边に対して、レンズ部分の右端から左端までの幅は3分の1より少し小さい程です。レンズ部分の幅を15cmのサイズに作ろうとするなら、一边の長さが45cmよりも少し大きいくらいの紙が必要になります。また実際に装着するものとして作る場合は、大きさ・重さに耐えるよう紙の厚みなどに配慮しなければならないと思います。(尾川)





裏側も
11~12と
同じに折る

28

ぐらい折り

29

垂直に折り上げる

30

ヒダをめくる
次の図は立体になる

27

折れるいっぱい
ところで垂直に折る

31

カドをすき間に
差し込む

32

ヒダを戻す

33

反対側も27~32と
同じように折る

34

下にあるカドを
上に出す

40

できあがり
レンズや鼻の形を
変えてもいいでしょう

35

内側をひろげて
つぶすように折る

39

ツルの部分を折って立てる
鼻の部分を立体的に整える

36

37

1/3の幅で
巻くように折る

38

折り紙の科学・数学・教育研究集会、 10回を重ねる

The 10th Meeting of JOAS-OSME

前川 淳

Maekawa Jun

◇研究集会のこれまでの歩み

2006年12月に、第1回の折り紙の科学・数学・教育研究集会を開催してから5年間、年に2回、夏至のころと冬至のころに開催してきた同集会は、7月3日の会で10回を数えることになった。

開催のきっかけは、2006年9月、ロバート・ラング氏をチェアマンとして、カリフォルニア工科大学で開催された、第4回折り紙の科学国際会議（折り紙の科学・数学・教育国際会議：The Fourth International Meeting on Origami in Science, Mathematics, and Education）である。不定期に開催されるこの国際会議において高揚した多くの研究者・愛好家・作家の研究熱を冷ますことなく、その交流を促進したい、そのために定期的な集まりがあってもよい、…そう考えて生まれたのが、この研究集会である。「折り紙の科学・数学・教育研究集会」という、長い会の名前も、この国際会議の名前をそのまま借用したものだ（なお、第1回と第2回国際会議の正式名称は若干異なる）。

2006年は、折よく、日本折紙学会が会合を持つことのできるJOASホールという施設を開いた時でもあった。

その会が、年2回のペースで5年継続したわけである。毎回3-40人の小規模な集まりの積み重ねだが、内容は充実していた。他の学会に比べても、これだけ参加者が集中して発表を聞き、質問が活発な会というのは珍しいかもしれない。

ひとくちに折り紙の研究と言っても、テーマは、数学、工学、歴史、教育など、多岐にわたる。参加者も、数学者、工学者、教師、学生、折り紙愛好家、作家など、さまざまである。興味が分散してしまっても不思議はない。しかし、ここには、驚くほどの求心力がある。専門外の分野であっても、参加者は、自分の興味に結びつくものがどこかにある、と思って聴いているのだろう。アマチュアと専門家の垣根も低い。高度な数学やコンピュータサイエンスの話題などもあるが、テーマが折り紙であることで、専門外のひとでも理解のきっかけはあるのだ。聴講者に訊いてみても、この会は、「眠くならない」会なのである。

これまでの発表者は25人、発表数は60である。常連が多いが、徐々に発表者の広がりもでてきている。最も多い発表分野は、折り畳みのシミュレーションや折り紙作品の設計などにおいて、コンピュータを専門的に用いた研究である。これは、昨年2010年、シンガポールで開催された第5回折り紙の科学国際会

議の発表テーマとも一致する傾向である。じっさい、この10年間ほど、折り紙とコンピュータの結びつきは強くなってきている。

なお、その第5回折り紙の科学国際会議の論文集は、つい最近『Origami⁵ Fifth International Meeting of Origami Science, Mathematics, and Education』

（Patsy Wang-Iverson, Robert J. Lang, Mark Yim 編）として刊行されたばかりである。筆者もまだ詳しくは見ていないが、最近の折り紙の研究の広がりを見るのに最適の文献になっているはずである。

会に関しては、むしろ、反省や考えるべきこともある。まず、大きな話をする、こうした機会によって研究の速度があがる効果があり、それ自体は素晴らしいことなのだが、そうした場合、手作業で進められてきた折り紙コミュニティの成果が、アカデミックな世界に簡単にとりこまれてしまうのではないか、という懸念がある。これまで美術的工芸的な造形を主に活動してきた折り紙コミュニティにも、研究的なアプローチはあった。しかし、その研究成果の発信は、必ずしも上手ではなかった。折り紙の世界に多い「小さな発見」は、学術的に見た場合どう扱われるものなのだろう、という作家の率直な思いも聞いたことがある。むしろ、その「小さな発見」も貴重なものなのである。この会には、それらを掘り起こす意味もある。そうした話でいつも思い出すのは、今年度から日本折紙学会の会長になっ



研究集会の発表の様子（館知宏氏）

折り紙の科学・数学・教育研究集会、10回を重ねる

The 10th Meeting of JOAS-OSME

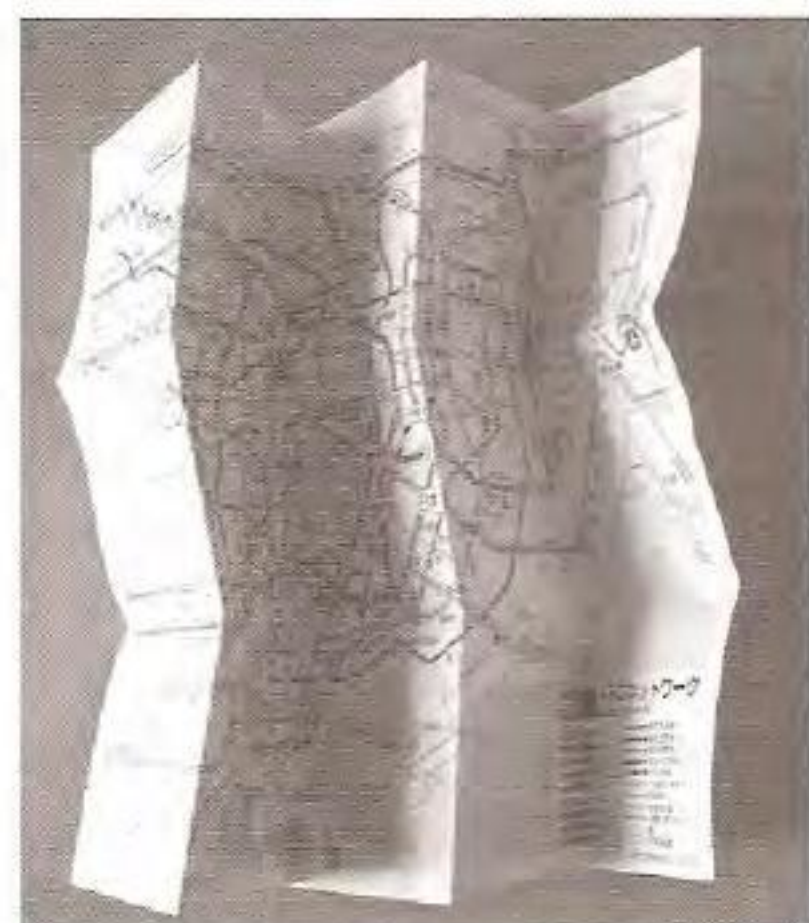
前川 淳
Maekawa Jun

ていただき、この研究集会でも精神的な支柱となっていて、宇宙工学者・三浦公亮氏の、次のような言葉である。

「学術的なものと、手を使うこと、日本折紙学会は、そのどちらにも偏らずに、学者と作家と愛好家が、垣根なしに歩むことを望みます。これまで多くの作家たちが、ほとんど直観をたよりに、素晴らしい仕事をやってきたことなども思い起こす必要があります」

裾野の広がり、美術的工芸的アプローチと、研究における学問的な確かさ、これらは、折り紙において対立するものではない。学問や研究を名乗るからには、厳密さが必要だが、それは、折り紙の楽しさ自由さ、裾野の広さと矛盾するものではないのだ。

会の運営上の反省点としては、次のようなこともある。まず、毎回東京で開催しているので、地方からの参加が難しいことがある。これは、今後、ネットの活用などもあるだろう。そして、



「メトロネットワーク」によるミウラ折り(三浦公亮氏)

成果を文書などにしてまとめていくことも重要である。これは、去る2011年5月に第1号が刊行された論文集『折り紙の科学』(<http://www.origami.gr.jp/OSME/Origami-no-Kagaku.html>)と、機関誌『折紙探偵団』の記事、会員特別配布資料などで一部が果たされているが、より一層の充実が必要である。また、そもそも国際会議からの刺激をきっかけとして生まれた会でもあり、海外への発信も必要である。2014年には、立石浩一氏をチェアマンとする、神戸女学院大学での第6回の国際会議も待っている。

◇第10回研究集会から

研究集会の内容の紹介として、第10回集会での発表を、以下にざっと見てみよう。面白そうだなと思ったひとは、ぜひ、聴講者、発表者、論文執筆者などとして、参加する側になってもらいたい。(<http://www.origami.gr.jp/OSME/index.html>も参照) 次回は、今年の12月の予定であり、論文も随時募集(<http://www.origami.gr.jp/OSME/CallForPapers.pdf>)している。

第10回折り紙の科学・数学・教育研究集会 発表タイトル 発表者

◇正三角形を構成要素にもつユニット折りのための立体編集システム 鶴田直也

◇A4一枚で折れる2°倍数の四面体ファミリー 梁海声

◇続・複数の箱を折れる展開図について 上原隆平

◇複数の正多面体を折れる展開図について 上原隆平

◇「メトロネットワーク」をカードサイズに折る 三浦公亮

◇曲面からなる立体形状の三角形パネルによる折り畳みに関する新しい計算方法の提案 深見祐士

◇曲面のエネルギーを考慮した可展面の曲がり方のシミュレーション 金沢隆史

◇平面曲線の折りを含む立体折り紙の対話的な設計システム 三谷純

◇曲線折りを用いた剛体折り紙構造 館知宏

◇折り紙著作権 判例研究 その1 西川誠司

◇ものづくり教育に役立つ幾何折り紙教材とテキストの開発 川崎敏和

◇乙号折畳防空カバーの再現報告 川崎敏和

三浦氏の発表「『メトロネットワーク』をカードサイズに折る」は、じっさいに手を動かすワークショップだが、紙の印刷情報を折り目の座標として用いるという、工学的なアイデアにもつながるものだった。この発表は実技だったが、ほかは、パソコンのスライドショーを使ったプレゼンテーションである。これまで、参加者によるディスカッション(第2回「明確に目安のある1本の直線をひく折り紙の操作」について)といった形式もあったが、発表の多くは、こうしたプレゼンテーションと質疑応答である。

今回目立っていたのも、コンピュータサイエンス関係の発表であった。その中でも、今回は、曲面と曲線の折り目に関する発表が数件あった。折り紙における曲面には、数学的に明らかに

○ 前川 淳(まえかわ・じゅん)
＝日本折紙学会評議員。最近は、
「不切正方形一枚折り」ではない
ものばかりをやっています。



なっていない問題もあり、今後、折り紙造形への波及・応用もあると思われるテーマだ。まだまだ未踏の部分の多い面白いテーマである。また、曲線・曲面の問題に限らず、今回の上原氏の発表のように、折り紙に関連する数学には、未解決の問題、手のつけられていない分野が多い。

西川氏の発表「折り紙著作権 判例研究 その1」は、一見、科学にも数学にも教育にも関係ないようだが、あらためて強調したいのは、ここでいう「科学」が自然科学に限られるものではない、ということである。著作権は、実務的な問題でありながら、折り紙の創作性をどう考えるかという「哲学」や倫理の問題でもあり、折り紙に関係するひとには等しく重要な話題になっている。そして、こうした人文科学的な研究が、主に理数系の研究に興味を持った参加者であっても、同じように強い興味をもって聞くことができるのが、この研究会の求心力なのである。

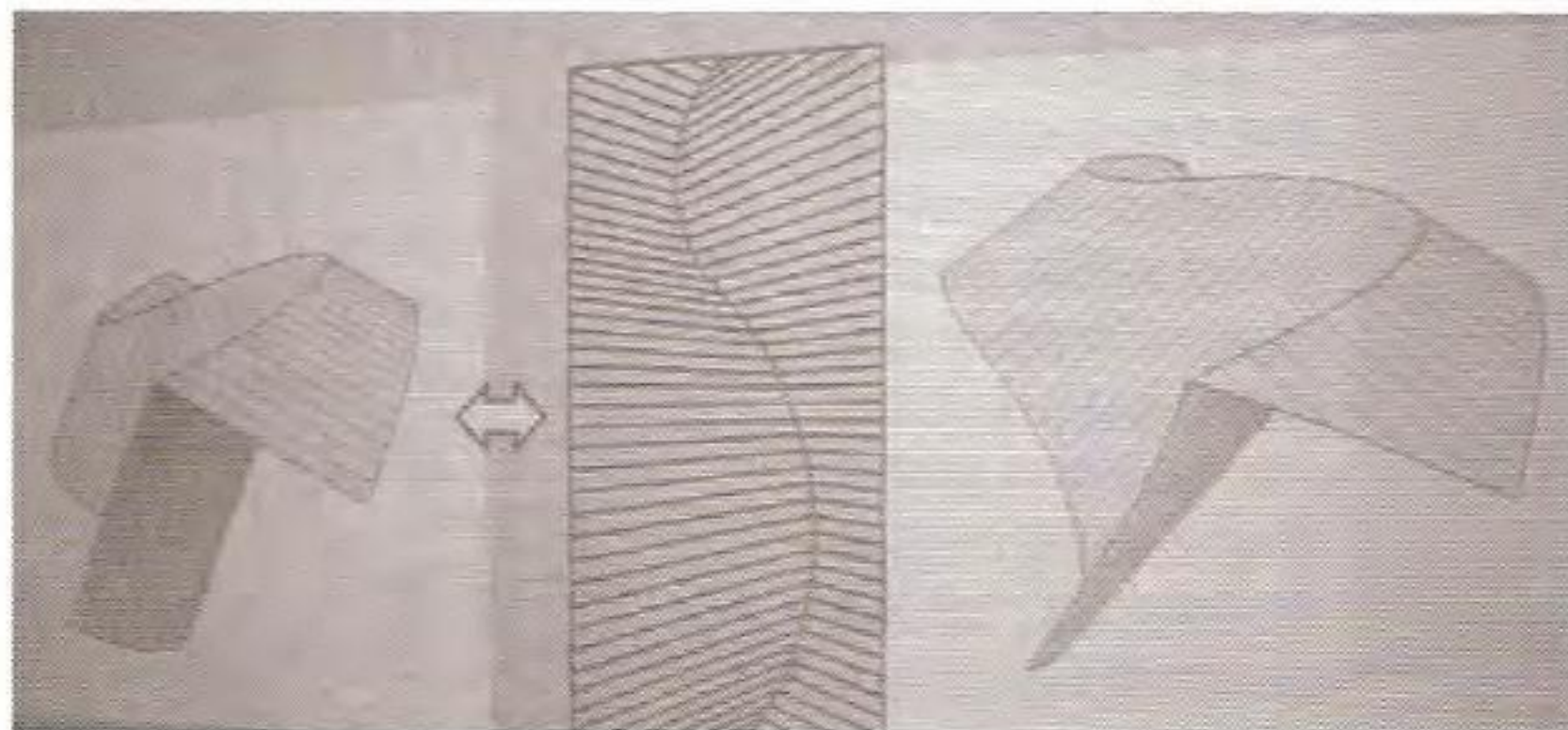
今回の12件の発表のうち、もっとも風変わりなテーマが、川崎敏和氏に

よる「乙号折畳防空カバーの再現報告」であった。これは、折り紙の研究の幅広さという意味でも興味深いので、すこし詳しく説明してみよう。ざっと次のような話である。

第二次世界大戦中の日本で、夜間の空襲の目標とならないために、電灯の灯りを外に漏らさない工夫があった。灯火管制と言われるものである。先だつての震災による停電でも、はからずも、多くのひとが真っ暗な街を経験したわけだが、ここで紹介されたのは、70年ほど前の、文字通りの「暗い歴史」が遺した製品である。当時、光の発散方向を狭く制限した電球なども開発されたようだが、川崎氏が再現したのは、蛇腹折りを使った電灯のカバーである。これが、当時も珍しいものであったのか、普及していたのかはよくわからない。今回の会には、戦中の記憶があるかたも参加されていたが、このようなものはまったく知らないということだった。ドラマなどでも、電球の笠に黒い布を掛ける描写はあるが、これは見たことがない。ともあ

れ、暗い歴史の遺物ではあるが、アイデアやその機能はとても興味深い。今後、さらなる研究のテーマにつながる可能性もあり、川崎氏も再現してみても気がつくことが多々あったと述べていた。むろん、その歴史を調べることにも意義がある。

こんなところにも、折り紙が隠れているのである。そして、研究の広がりがあるかもしれないと思わせる。折り紙の研究のタネは、折り紙作品のアイデアが尽きないのと同様に、簡単には尽きない。これからも、研究者・作家・愛好家の相互作用で、さまざまな面白い研究が生まれてくるだろう。研究集会は、その発展の一助として続けていきたい。



曲線・曲面折りの例(三谷純氏のプレゼンテーションから)

戦時中の電灯カバー(再現:川崎敏和氏)

『千羽鶴折形』再訪

"Senbazuru Oriката" Revisited

岡村昌夫

Okamura Masao

第4回 「桑名の千羽鶴」問題 Issues on Senbazuru and Kuwana City

平岡氏の功罪

『秘伝千羽鶴折形』の研究史上における初代桑名市立博物館長の故平岡潤氏の功績については、前回に詳述した通りで、ことに義道が折鶴名人であったという忘れられていた史実を証明する当時の資料、桑名藩儒広瀬蒙齋の『紙鶴記』を発掘してくれたことは特筆すべき出来事であった。東京の中西康夫さんからの問い合わせで『秘伝千羽鶴折形』や「鶴のつなぎ折り」の存在を初めて知った氏の驚きは察するに余り有るが、それからの功を急いだ感の否めない「活動」には無理があったと言わざるを得ない。

まず、魯縞庵の著作『千羽鶴折り方』と誤り伝えてしまったこと。これは、一部では現在まで桑名から発信され続けていて、外国にまで伝播してしまった。さらに、つなぎ折りの技法も魯縞庵の発明と誤解したまま、「桑名の千羽鶴」の名で市の無形文化財として登録してしまったこと。氏にとって不幸だったことは、その文化財としての正式認定の直前に急死されたことばかり

りではなく、「千羽鶴」発掘の経緯もろとも、短時間のうちに桑名市民から忘れられてしまったことであった。その結果の混乱ぶりに就いては、『季刊をる』15号(1996年冬号)に書いたのであるが、現在に至るもあまり改善されていないどころか、増幅されてもいるが、いわゆる「町おこし」の材料としての誇大広告などは世上に満ちているので、桑名市が「千羽鶴発祥の地」などという観光用の大看板を立てていても、目くじらを立てる積りは無い。しかし、承知の上の誇張でなく、市を挙げて信じきっているとしたら、王様が裸ですよと言って上げることも必要だろう。

公式ホームページ中の矛盾

現在の市の公式HPの英文部分には「This technique was the invention of ROKOAN GIDO (1759 - 1831). Gido published『Senbazuru Oriката』(Making the Thousand Cranes in Folded Paper).」などと、困った記述があるが、日本語版の方は改訂されていて、技法そのものを義道の発明とする誤りはそのままだが、「折形」と「折り方」を混同する誤りは無く、義道を著者とする表現を改め、主語を曖昧にしてあり、当地で伝承されて来たという作り話も無く、「桑名の千羽鶴」の標題は変えられないので苦勞しているものの、手を入れたことは評価できる。しかし依然として、自家撞着すなわち矛盾をはらんだ解説になっていることに気づいていない。

英文中に義道の生没年を(1759 - 1831)としてあるのは、指定文化財のページの記載と同じで、天保3年・73歳寂説であるが、日本語文では(1762 - 1834)とあり、天保5年・73歳寂説になっている。これなどは単純な改訂上のミスであろうが、事実を正確に認識していないためと思われる矛盾点もあるので、指摘しておこう。

「義道は、これらの連鶴の折形を完成させるのに18年という歳月を費やしており」というのは、1797年刊行の『千羽鶴折形』の作品とその元になったらしい『素雲鶴』に掲載されていたはずの100種の連鶴を作るのに18年費やしたというのだから、1762年生まれとする義道が、10代前半ごろから工夫に取りかからないと間に合いそうにない。しかも、それだけの天才折紙少年が、あれを工夫するのに18年もかかる筈がないということにも想像が及ばないらしい。

「18年」というのは、広瀬蒙齋の『紙鶴記』の「工夫に費やすこと十八年、全鶴初めて成る。」という記載によっているわけだが、1823年に桑名へ国替えで移って来た松平定永の家臣の蒙齋が、藩主の意向で新領地内の優れた人物を顕彰しようとした漢文の『紙鶴記』に、四半世紀も前の『千羽鶴折形』に掲載の「全部の鶴」の話を唐突に述べるのはいかにも不自然である。原文をよく読めば、「全鶴」というのは「全部の鶴」の意ではなく、文脈上、「足も付いた完全な姿の鶴」という意味であることが分かるのであるが、仮に「全部の鶴」だとしても、何を「全部」というのかも考えていない。折紙を知らない儒



桑名以外の千羽鶴の例(岡村制作) 備後の葛原勾当の遺品折紙。文政から天保の頃、京都で習得したと推定される。正方形の用紙に限定、余分は切り捨てるなど、義道とはスタンスが異なる。

○岡村昌夫（おかむら・まさお）＝1934年東京生まれ。折り紙の歴史研究家。日本折紙学会顧問。折り紙以外の主な趣味は能・歌舞伎を観ること。



学者が遙か後年になって書いた文章であることを無視して、しかも原漢文を飛ばし読みしては、正しい読解は出来ない。

前述したように、英文部分では、はっきりと『千羽鶴折形』を出版した（published）の主語を「Gido」と書いて、海外にまで誤解を振りまいているが、さらに、義道が地方史の有力な学者で、そちらの分野でも本を複数出版しているという、事実ではない説明がある。日本文の方でも、『桑府名勝志』（1798年刊）、『久波奈名所図会』（1802年刊）などと書いているから、義道の著書で出版されたのは『算鏡 一枚』（米や金銀などの相場早わかりの図表）だけで、他は全く刊行されなかったという事実を本当に知らないか、「刊」の字の意味を誤解しているか、どちらにしても、恥ずかしいこ

とである。

桑名の人へ

以上は「桑名の千羽鶴」の問題点の一部であり、15年も前に『季刊をる』15、16号に書いたことである。そのとき、こうも書いたのであった。「しかも、義道の千羽鶴を『桑名の千羽鶴』と称して市の無形文化財に指定している桑名市さえ、教育委員会や関係者の著作物がその混乱の元になっていることの認識がなく、本稿執筆時に至るまで筆者の質問状に対して誠意ある回答がなされていないという現状でもあるので、云々」

残念ながら、15年経っても、状況は変わっていない。2002年に出た拙著『つなぎ折鶴の世界』を読んだ桑名市在住の人からわざわざ電話があつて、「市民として非常に恥ずかしい」と言われた言葉を、桑名の方は、どのように聞かろうか。

『季刊をる』に連載した拙稿中には、外部の者には知りがたい情報が含まれていた。それは、当時の状況を憂慮して「内部告発」してくれた複数の職員から得たものであった。

公式HPの問題点を箇条書きにしておこう。細かい誤りの指摘は省略する。

- ①『千羽鶴折形』の編著者は秋里籬島で、義道は素材の提供者であることが明記されていない。義道が著者であるようにも読める曖昧な表現をしている。
- ②「連鶴」の技法そのものを義道の発明としていることは事実と反する。義道以前に、江戸吉原で流行が始まっていることは浮世絵で明白だ。
- ③義道の著書は（1枚の相場換算早見表を除いて）生前に出版されていない

ことを知らないようだ。

④旧HPと比べると、改訂してあることは分かるが、他のページとの整合性に欠けている。（特に英語ページは旧の誤りを全く改訂していない。）

⑤HPの担当者にとっては最も頭が痛いことだろうが、「桑名」と「千羽鶴」の関係について、「桑名の」と限定する根拠がなく、義道が桑名の人であったということだけで、何を「無形文化財」としたのかも不明である。折り方を原作から離れた方法に改訂して普及させているからなおさらである。それが判っていないが曖昧にHPを改訂している。義道以前、以後、他の地方では連鶴が伝承されていた実例があるが、桑名では全く忘れられていたのである。ただ1行「この本（千羽鶴折形）が伝承されたため、桑名の千羽鶴が蘇ったのである。」と書いてあるが、これも読者は「この本が桑名で伝承されたため」の意に誤読するだろう。事実前回に紹介したように、昭和39年の中西康夫・平岡潤の往復書簡に始まるのである。市立博物館が、原本を50万円余で落札入手してから、まだ十数年しか過ぎていない。

義道伝に残る謎

義道の生没年の問題。長円寺十一世住職とされているのに、遺る石碑に「十二世」と彫られている謎。文化2年以後の晩年までの約30年の伝記資料の欠落の謎。戦災で焼けたからというだけでは済まない謎が残っている。これらを解くには長円寺に信頼されるような地元の研究者の出現が不可欠である。真剣に考えていただきたいと願うばかりである。

魚貫編主著述目録				
桑府名勝志 六巻	同 年代記 二巻	同 什寶記 三巻	久波奈名所図會 三巻	公 秘 文 庫 二巻
古 語 園 全	算 鏡 一枚			

「魚貫編主著述目録」（義道自筆。『久波奈名所図会』末尾に記載。）左端の「算鏡 一枚」だけに「版行」と記入されている。『久波奈名所図会』は、出版が挫折し、昭和52年になって影印本が刊行された。他に出版されたものは無い。

折紙図書館の本棚から

From the Bookshelves of the JOAS Library

北條高史 Hojyo Takashi

25 冊目 『紙とおり紙』 笠原邦彦 編著

Kasahara Kunihiro (ed.) ORIGAMI AND OTHER PAPER CRAFTS

この連載では、折紙学会図書館に所蔵されている資料の中から、興味深いものを選んでご紹介しています。折紙図書館の蔵書は、折紙探偵団ホームページから検索できます。詳しくは、<http://origami.gr.jp/Library/>にアクセスしてください。

『紙とおり紙』は「小学館の学習百科図鑑」の35番目として1981年11月に刊行された。同シリーズでは、動植物や昆虫など普通に「図鑑」として思いつく内容に混じって、本書や「エネルギー」「理科工作」など、図鑑としては少々毛色が変わった分野・区分が早い時期から組み入れられていた。小学生だった筆者は、本屋にゆくとびに長居をしてこのシリーズを眺め、揃え、新刊を心待ちにしていた記憶がある。

本書は図鑑シリーズの中の1冊であること、その題名からも読み取れる通り、折り紙の折り方だけでなくその周辺情報も多く取り入れている。以下に示す章立てのように、総合的な観点で「紙」に対する理解を深められる構成となっている。

- 第1章 紙ができるまで
- 第2章 楽しいおり紙
- 第3章 おり紙で学ぶ
- 第4章 紙あそび

この中で、実際に「折り紙作品の折り図」が載っているのは第2章と第3章。第4章にも工程図はあるが、「テープ折り・

テープ編み」(織り紙)の工程図であったり、「紋切り」のための「対称性のある家紋を切り出す準備としての折り作業」の図解である。

多くの漢字に読み仮名がふってある小学生向けの本であるが、幾何学的内容はかなり難しいところまで踏み込んで扱っている。しかし、適切な図解と非常にていねいな説明のおかげで、小学生でもほとんど苦痛もなく、ステップアップして全作品を折り進められるだろう。全編にわたって、中島潔氏によるかわいらしい挿絵が多数使用されているのも大きな魅力である。

第1章では和紙産地である京都の黒谷と、江戸千代紙版元・菊寿堂いせ辰を取材。楮から多数の工程を経て和紙が漉き上がり、さらに木版多色刷りを施して千代紙になる過程が詳細に説明されている。また、それと対比させるように、本州製紙(のちに王子製紙に合併)の大規模な洋紙工場の様子も紹介されている。

第2章は「おりづる」から始まり、多数の伝承作品にも触れながら、笠原氏によるセンスあふれるシンプル作品

群が紹介される。

そうした中では少々異色の作品なのだが、筆者にとって最も強く印象に残っている作品は、「4鶴」に切り込みを入れてつくる「かに」であった。

この本に出会うまでずっと、桃谷好英氏の『折り紙入門』(折紙探偵団108号参照)に掲載されていた「かに」を折れずにいた。これは「4あやめ」からつくるものだが、当時の筆者は平面的な図による説明だけではたたみ方の感覚をつかめずにいたのである。しかし『紙とおり紙』の「かに」の折り図で、「ざぶとんあやめから紙をはがして構成し直す」という作業工程を、立体的な途中図を多く用いた表現で見ることができた(図2)。これをきっかけにして、4あやめを折る際の紙の動き方の理解に繋がったわけである。さらに本作では工程図だけでなく、展開図を用いた解説が欄外に加えられている。

4鶴など従来の基本形を複数合体させる考え方は本書よりも前に、上記『折り紙入門』以外にも、内山興正氏の『折り紙』(折紙探偵団112号参照)に於ける「主要基本図」や、笠原氏の『超難解マニア向き作品集』(折紙探偵団111号参照)での「超基本形」などとして、すでに示されていたものである。しかし、この時期の子供向けの本でここまで自然に、当たり



図1 「紙とおり紙」表紙

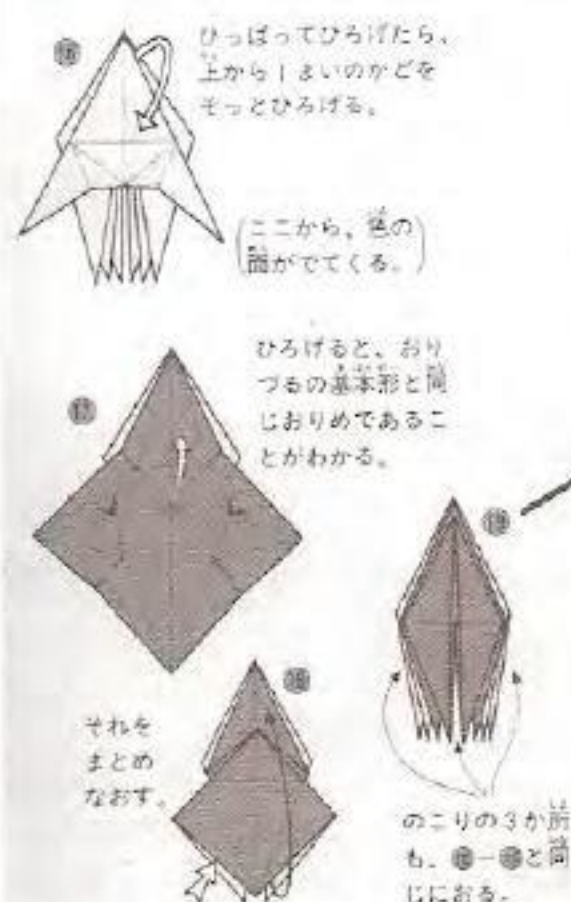


図2 「かに」の立体工程図

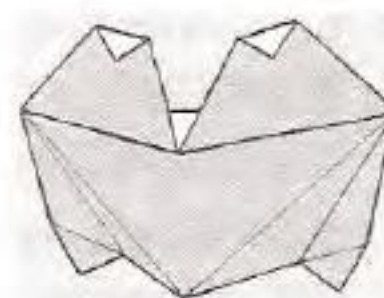


図3 ケロケロかえる

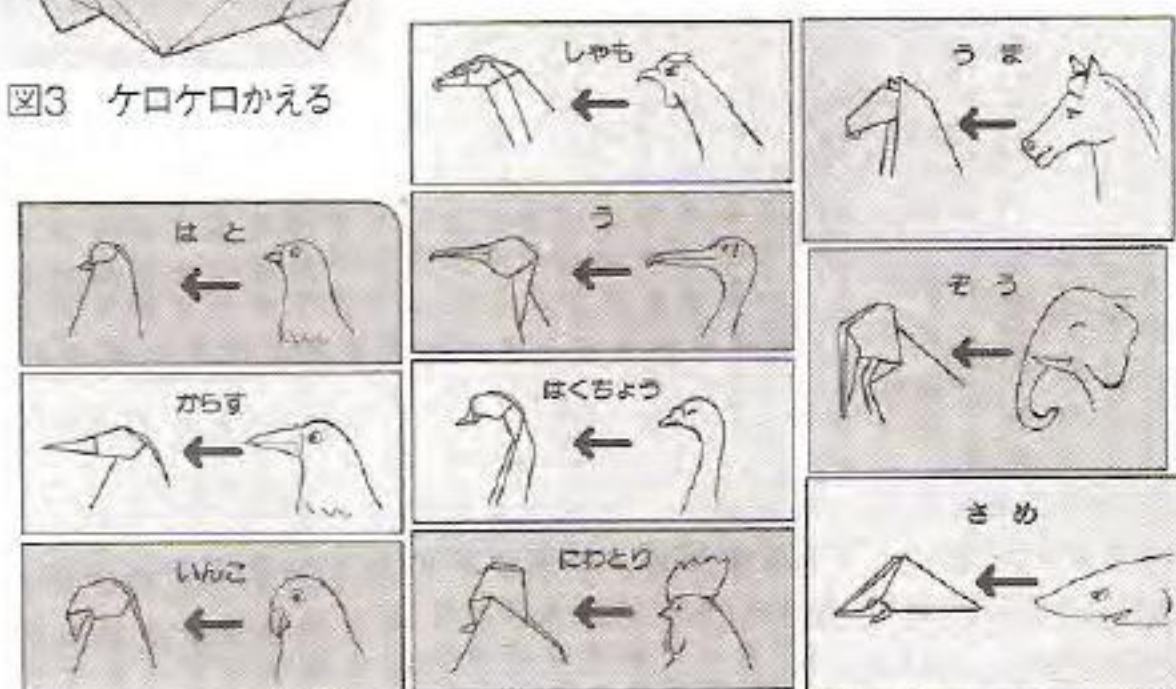


図4 カドの加工による動物頭部デザイン

○北條高史(ほうじょう・たかし)
=日本折紙学会評議員。最近模
索しているのは、作品の細かな
ポーズ付け、各部分のディテール
密度、作品を長持ちさせるコー
ティングの材料など。折り紙以外
の造形分野を見て回って技術を
吸収する必要性を強く感じるよ
うになりました。



前のように紹介されていたということは
特筆に値するだろう。

今回あらためて見直してみると、この
作品が本書中でかなり最初のほうに掲
載されていることに気付いた。主に「造
形的な折り紙作品」が掲載されている第
2章がp24~p123である中で、この「か
に」の折り図はp52に出てくる。折り図の
冒頭でも、「ところでこの作品は、くふうの
道すじとしてはとてもすっきりしたものな
のです」との説明もあり、「このくらいの技
術は基礎力として、早めに身につけてお
いてほしい」と言わんばかりの構成では
ないか。

なお、このしばらくあとで、半開折りに
よる「ケロケロかえる」(図3)がp99に、笠
原氏の複数著書に登場する名作「パン
ダ」がp112に掲載されている。「こうい
う作品も、複雑な基本形をいじったあとで
見に来ると、また違った魅力が感じられ
るだろう?」と語りかけてくるかのようだ。

展開図を用いた考え方はこのほかに
も3箇所(p42-43、p46、p116-
117)出てくるが、「新しい形をくふうする
時のとてもべんりな道具です。ここでは
そんな感じだけを知ってください」との
記述もある(p42)。実際にはそれぞれか
なり高度な内容を扱っているのだが、解
説の構成が練り上げられていることによ
り、ハードルがあまり高くないように見え
てしまう。「わからなくてもいいから、なん
となく触れておく」のを促す形になって
いることの意義は大きいだろう。

これと対比させるように「くふうのひみ
つ」と題された項目がp118にあり、ひと
つのカードから変化させて得られるさまざ
まな可能性が紹介されている(図4)。実
際の折り方は示されていないが適切な
難易度の範囲であり、「過剰に作り込ん
だわけでもなく、かといって情報量不足

にもならず」という絶妙なバランスに落
ち着いている。それぞれのデザインを再
現してみたくなる、魅力あふれる教材で
ある。

そして第2章の最後は、千羽鶴折形か
らの6作品で締めくくられている。

「おり紙で学ぶ」と題された第3章で
は多面体作品が複数紹介され、幾何学
の色合いが強くなる。最初に出てくる
のは、立方体や直方体、正四面体を2枚
の正方形でつくる「積み木」と題され
た作品群である(図5)。

また、終盤では正二十面体や立方八
面体、斜方立方八面体のような面の多い
立体に対応すべく、「正三角形の板」「正
方形のつぎ手」が紹介されている。

第4章では、すでに述べたように「織
り紙」的な作品や「紋切り」を主
に扱っている。本書の中の1章が、敢えて
「変形用紙の作品」「切ることが主体と
なっている作品」のために割かれている
のは、今思うと「正方形を折っているだけ
では身につかないセンスを他の分野で
吸収し、新たなデザインをつくり出す感
覚を養う」意味合いもあったのではない
か。表紙をめくったところにある35パター
ンの家紋作品には、「折り紙の本だと思
ったらいきなりこれか!?!」と思いつつも
圧倒され、惹きつけられた記憶がある。

ちなみに、裏表紙をめ
くったところには「たとう」の
変化パターンが88作品掲

載されている。紋切りシリーズと同様に、
挑戦意欲をかき立てられる構成と言え
るだろう。

現在の折り紙関連情報や書籍を見
ていると、すさまじい量の良質な
教材が、見つけやすく手に入りやすい場
所にあふれていると思える。小さいうち
からそのような環境で育ち、存分に、しか
も効率よく技術や知識を身につけてゆく
現代の折り紙少年たち。彼らを見ている
と、羨望と羨望と羨望が入り混じったよ
うな気分になることもある。

しかし、それぞれの時代ごとに、その
時代の渾身の力を込められた教材が存在
しているのもまた確かである。『紙とお
り紙』は、そのような本の代表格であろ
う。

その時代の折り紙少年たちには難し
すぎるのでは?と思えるほどの技術を、
それとはあまり意識していないうちに自
然になじませてしまう。また一方で、著
者が最先端と考える挑戦的なデザインを
ふんだんに与える。さまざまな方向性の
デザインに数多く触れてゆく中で、それ
ぞれの存在意義を考えさせる。ふと気が
つく、各人のもとで創作作品らしきもの
(折りゴミとも言う)が生まれ始めている。

魅力的な教材に於ける基本的な進
行方法は、今でもあまり変わっていない
ような気がするのである。

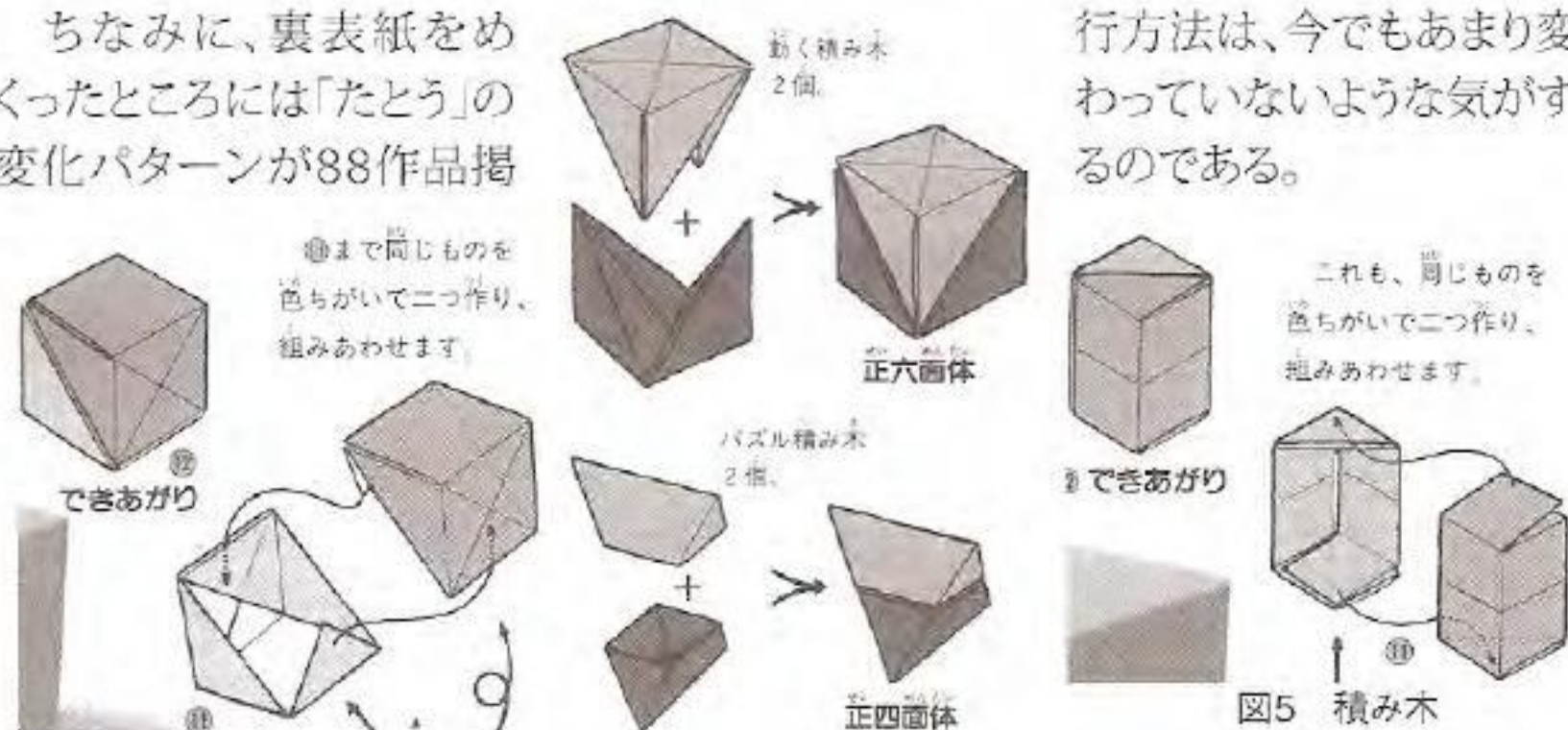


図5 積み木

気軽に始める 22.5度系創作法

Creating Models Based on 22.5° for Novices

小松英夫 Komatsu Hideo

第4回 分子のいろいろ

Varieties and Interpretations of Molecules

■おさらい

この連載では、『ビバ!おりがみ』(1983)の作品群で知られる、いわゆる〈前川式折り紙設計〉に関連する基礎知識を、作品作りの実例を通して解説しています。前期の連載では、代表的な〈前川分子〉の紹介(第1回)、〈円領域・帯領域〉を用いた展開図の解析(第2回)、分子を部分的に置換しての新パターン探索(第3回)と見てきました。

この3回で、前川分子を適当に配置しただけの展開図から、甲虫になりそうな基本形のバリエーション2種類を得るところまで来ています(図1)。今回は、前回に引き続いてバリエーションのパター

ンを見ていきながら、第1回で紹介しきれなかった他の折り紙分子を取り上げます。

■〈欠損分子〉と〈融合分子〉

第1回で、分子を並べる際には用紙の正方形からはみ出しても構わないと書きました。このことは、分子の置き換え時にも応用できます。図2のパターンでは、直角二等辺三角形分子が欠けたように配置されています。カドJが通常のカドと比べて太く短い形になるために仕上げの際に一工夫が求められますが(写真1)、用紙周辺部でこのようなく欠損分子を用いることで分子の配置の自由度が増します。

この例の場合、欠けた部分を中割り折りのように折ることで、フチを揃えて一値分子とすることもできます(図3、図4、写真2)。こうなると、もはや直角二等辺三角形分子ではなく、立派な一値分子です。〈切り出しナイフ型分子〉の極端に短いときのパターンとして解釈してもいいでしょう(図5)。この分子を使った図6のパターンでは、図4とまったく同じ分子が使われていて、その向きだけが違っていますが、それに対応してカドの出方が裏表の関係になっています(写真3)。

図7は、図6と少し似ていますが、別のパターンの例です。ここでは、凹五角形の少し複雑な形をした分子が使われて

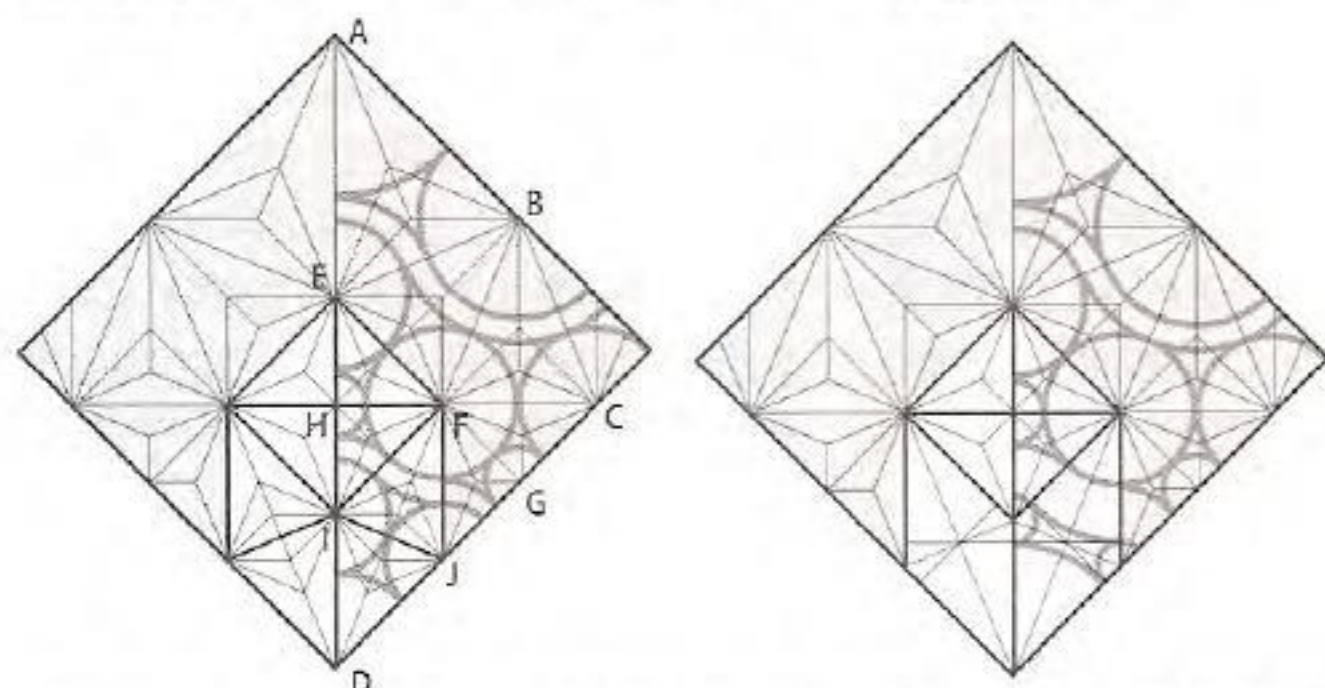


図1: 前回作った「昆虫が折れそうな基本形」2つ。灰色部分で足6本(B, C, F各2つ)の折り出しが確保されています。頭部のデザインは「後でどうしてもなるもの」とみなし、ここではさまざまなパターンの探索を優先してみることにします

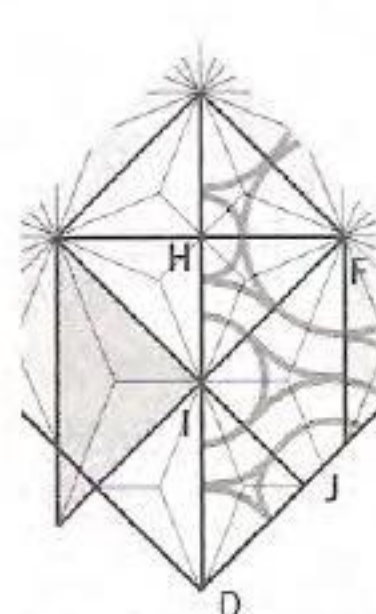


図2: 図1の白い部分のみを図示しています

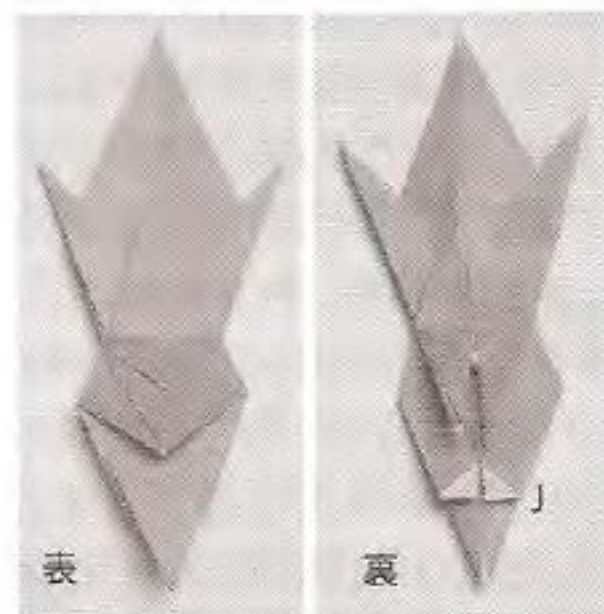


写真1: 図2を折った形

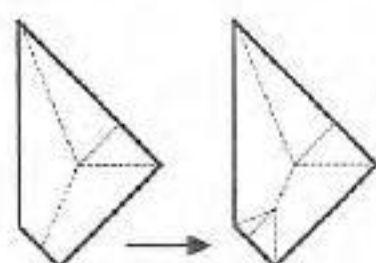


図3: 一値分子化

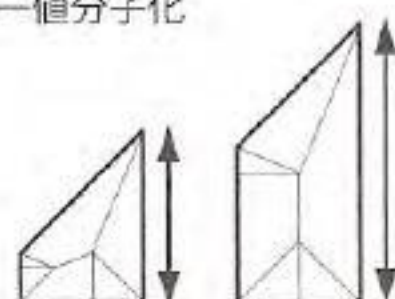


図5



写真2: 図4を折った形(部分)

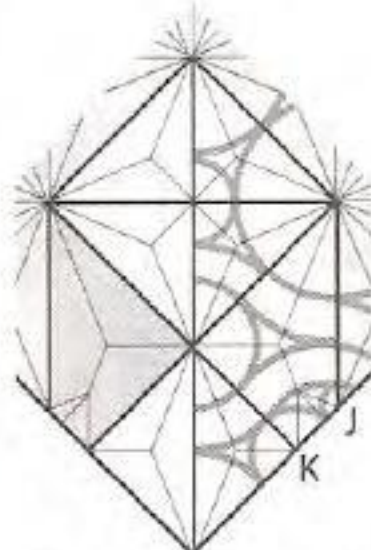


図4: 一値分子化による円領域の変化

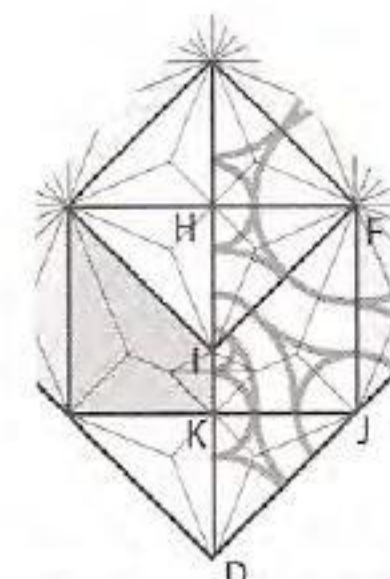


図6: 図3右の分子を使った配置。帯領域を図4と見比べてみましょう

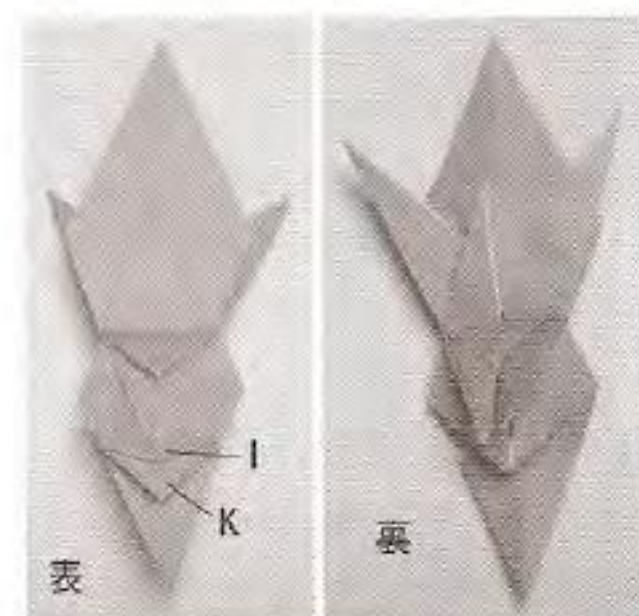


写真3: 図6を折った形



○小松英夫 (こまつ・ひでお)
=1977年生まれ。日本折紙学会評議員。構成上、〈長靴型分子〉までカバーすることは諦めました……。

いますが(図7の濃いアミ掛け部分)、図8のように2つの直角二等辺三角形分子を部分的に重ねるようにして繋げたもの=〈融合分子〉と考えると理解しやすいものです。もっとも、適当に分子を重ねても平らに折り畳めるとは限りません。図8の繋がっている部分では、折り線のパターンが鏡写しのようになっていて、このように折り線パターンが線対称になるようにするとうまく繋げることができます。

図1、そして図2・図4の配置に比べると、図6や図7のような配置は一見して考えつくのが難しく思えるかもしれませんが、まずは、図1のようなオーソドックスな構成が身についてから、少しずつ“崩した”パターンに進むのが良いでしょう。ただ、紙をいじる中で自然に辿り着くこともありますので(例えば図9)、その可能性を頭に置いておくだけでも意味があります。既存の作品の展開図から、応

用性の高いパターンを探してみるのも一法です。

■いろいろな分子

図10~12に融合分子の例をいくつか示します。このうち、いかにも融合によってできているといった風なのは図10でしょうか。単純な構造をした図11、図12の分子については、とりたてて融合の結果と捉える必要はありませんが、分子の紹介を兼ねて載せてみました。図10は覚えなくていいですが、この5種は使用頻度が高いので覚えてしまいましょう。

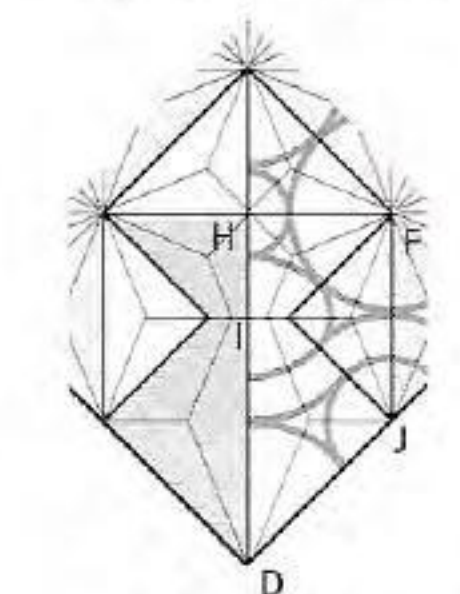


図7: 内部カド(I)を薄くできる利点があるので、コンプレックス系ではしばしば使われる処理でもあります

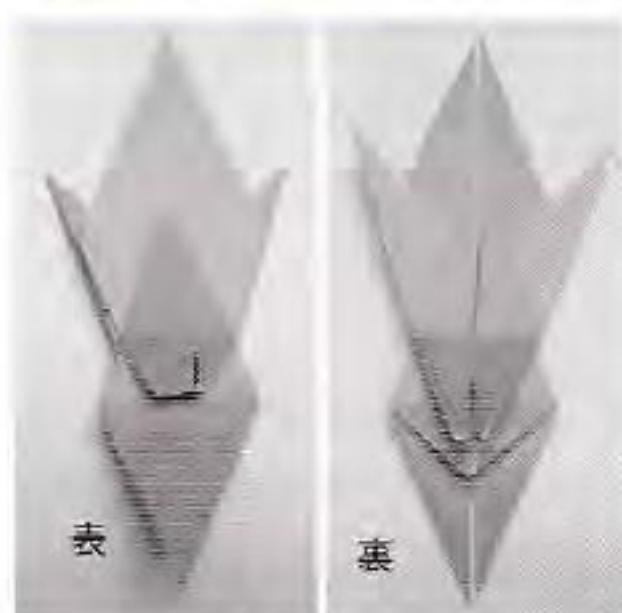


写真4: 図7を折った形

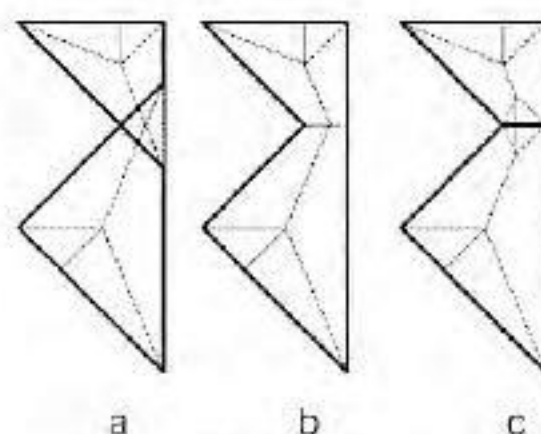
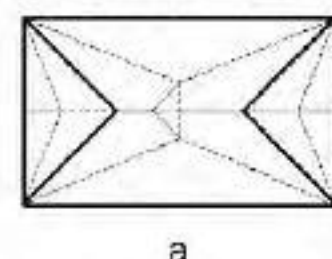
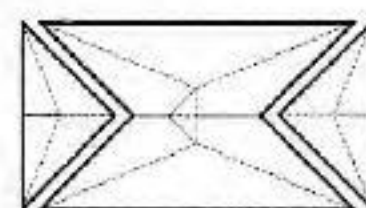


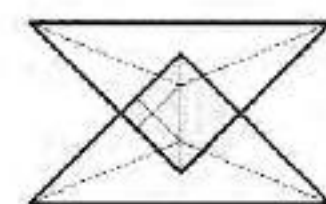
図8: 分子の融合。cは融合部を潰し折りしたパターンで、2個の分子に分かれています(上のひとつは図3と同じもの)



a

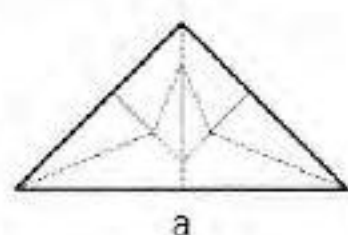


b

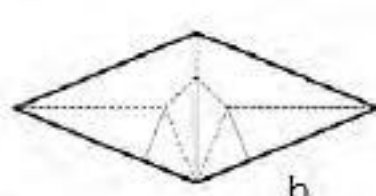


c

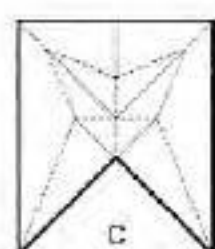
図9: 第1回で紹介した、沈め折りをした長方形分子(a)は、3つの一値分子からできていると解析できますが(b)、真ん中の凹六角形の分子は直角二等辺三角形分子2つの融合パターンになっています(c)



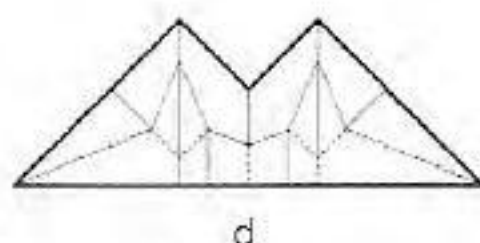
a



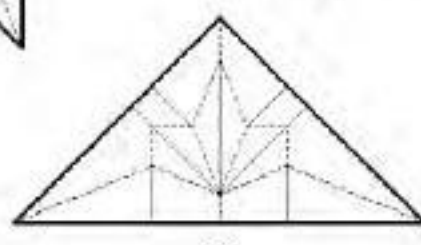
b



c

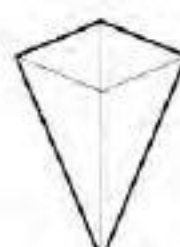


d



e

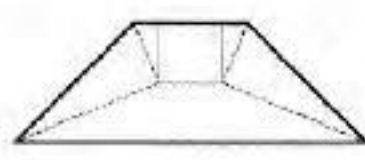
図10: 融合分子のその他の例。a, bは「直角二等辺三角形分子×2」、c~eは「a×2」。応用性を横に置けば、理論上は無数に作れます



扇型分子

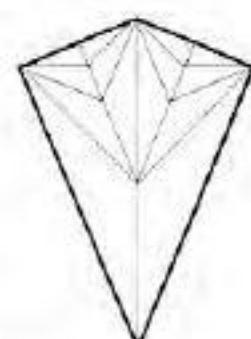


やじり型分子

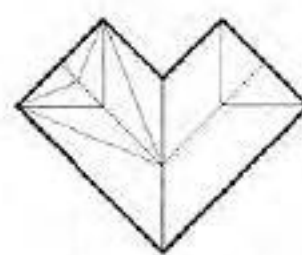


台形分子

図11: これらは、第1回の4種、前回の菱形分子と並んで、基本的な22.5度系分子です



第一扇型分子団



くの字型分子

図12: どちらも「長方形分子×2」の融合パターンになっています。第一扇型分子団は2つ並べて五本指、くの字型分子は四本指になる前川流の定番パターンを構成します。くの字型分子は長方形分子・切り出しナイフ型分子と同じく、長さを自由に変えられます

■次回予告

前回と今回にできた基本形のどれも、頭+胸+6本の脚+腹+αのカドができていますから、ここから何かしらの昆虫を作ることができるはずです。次回は、基本形を変形させて昆虫にしていって過程の解説に入っていきたいと思います。読者の皆さんも、今回出てきた基本形を実際に折って挑戦してみてください。

本連載で登場した展開図のデータを公開しています(高画質の画像やORIPAファイルなど)。URL: <http://origami.gr.jp/~komatsu/kigaruni/>

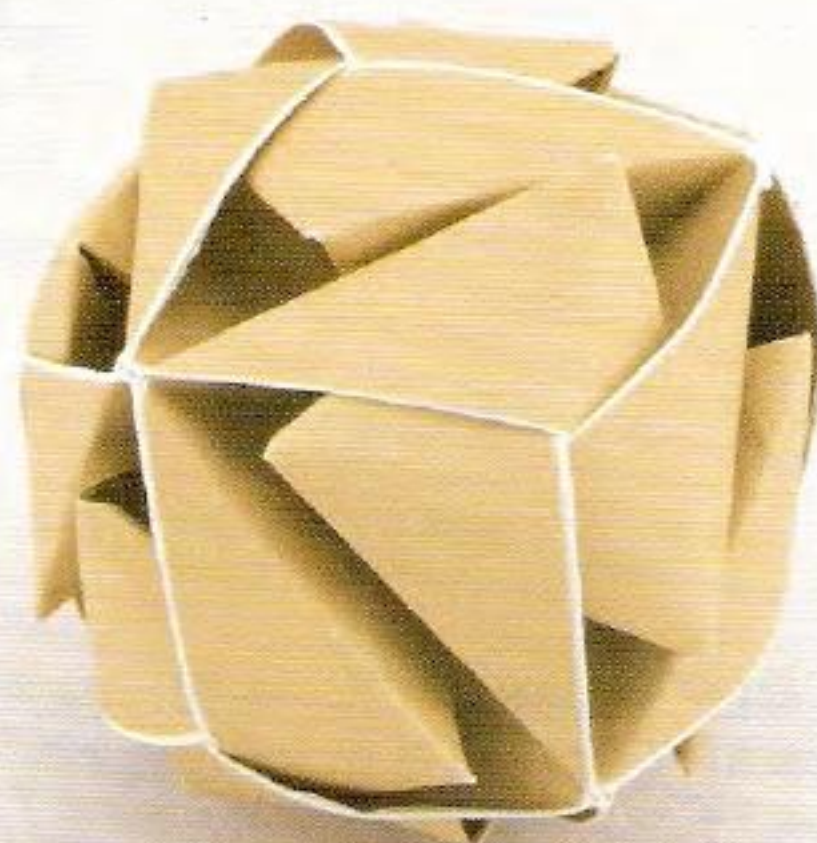
屋内で静かに折っていても、忘れてはいけないうのが熱中症対策。怖いのは外出時だけではありません。制作に没入しすぎて脱水状態に気付かなかった、なんてことにならないように！

「アルマジロ」

作：川崎敏和 (P.4)

An Armadillo :
Kawasaki Toshikazu (P.4)

■手裏剣のようなヒビが入ってはじける直前の木の実？ 複雑に張力がかかって分解しやすいのではないかと思いきや、実は隠れた内部でガッチリと「うす組み」されています。これはぶつけられたら痛そうだな…。



「鼻付きメガネ」作：尾川 知 (P.8)

Costume Glasses : Ogawa Tomo (P.8)

■一瞬の笑いをとるためだけの「しょもない題材」ですが、それをここまで洗練されたデザインに仕上げているのは「妖怪五体面」の尾川氏ならではの手のギャグが決まるためには、呆れるほどに過剰な精度が有効だったりします。いいかげんな加工は徹底排除し、細部まで丁寧に調整しておく破壊力倍増です。

「パンダ」作：川畑文昭 (P.22)

Giant Panda: Kawahata Fumiaki (P.22)

■そういえばパンダって実は野獣だったよな、と思ひ起こさせる造形と全身バランス。重戦車のようなパワーと迫力がありながら、しかしどこかユーモラスな雰囲気も漂っています。背中のふくらみ具合は、作業時点ですでに付いている線に沿って丸めてゆくことで再現できます。



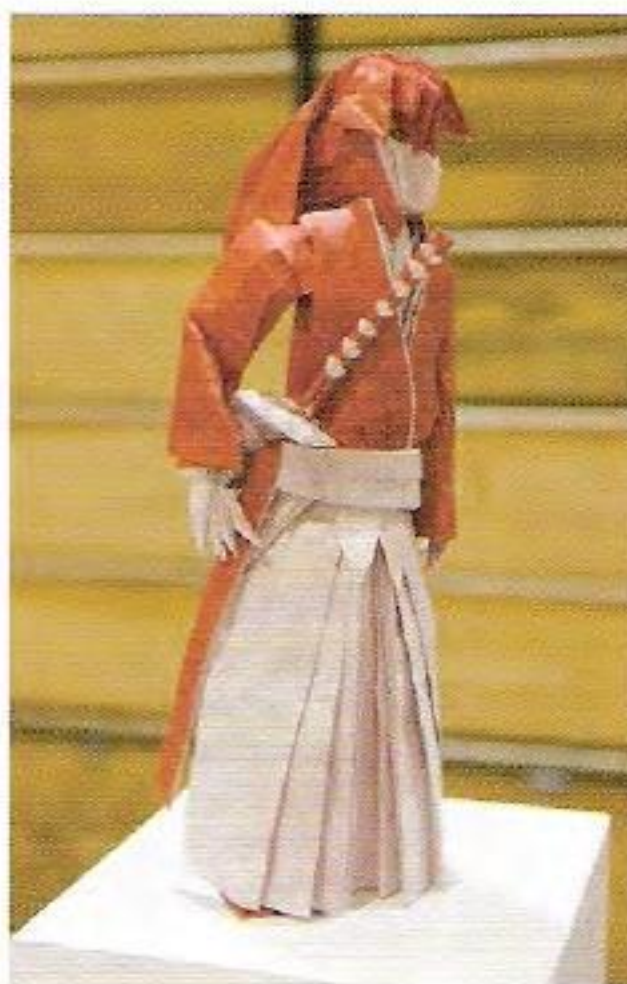
2011 OrigamiUSAコンベンション展示作品より (P.36)

Exhibits from the 2011 OrigamiUSA Convention (P.36)

世界最大の折り紙イベントに山口氏が今年も出張。毎年折紙学会の若手を送り込み、海外メンバーと相互に刺激し合う機会にするのも重視しているとのこと。展示された作品を見ていると、さらに5年後、10年後への期待も高まってきます。



Giang Dinh



Brian Chan



Brian Chan



Daniel Robinson



Seth Friedman



Sebastian Arellano



Robert J. Lang



Beth Johnson



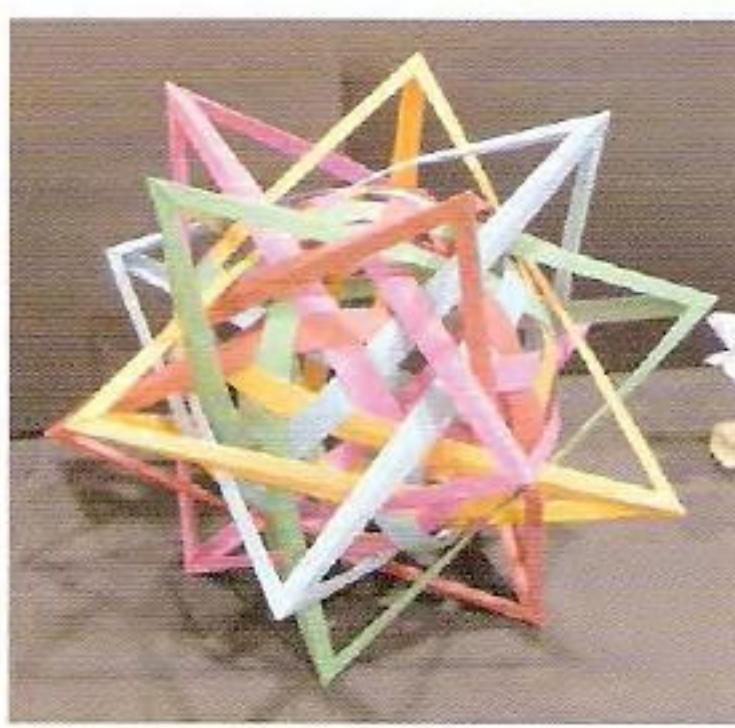
Jeannine Mosely



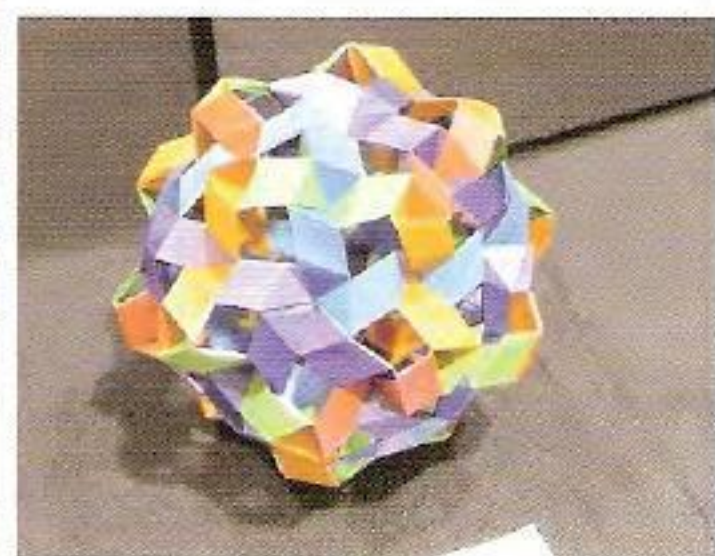
Bernie Peyton



エリック・ジョワゼル氏を偲び、参加者が折ったネズミが展示された



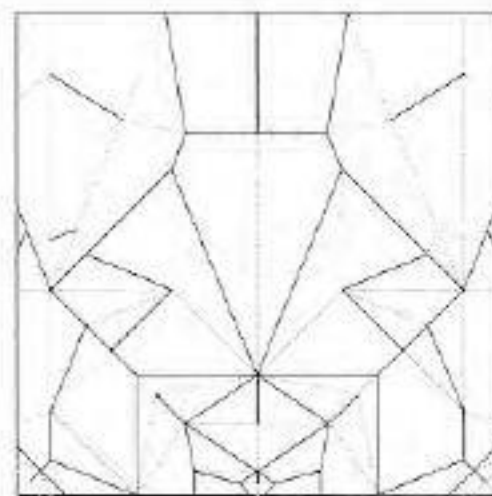
Daniel Kwan



Tom Hull

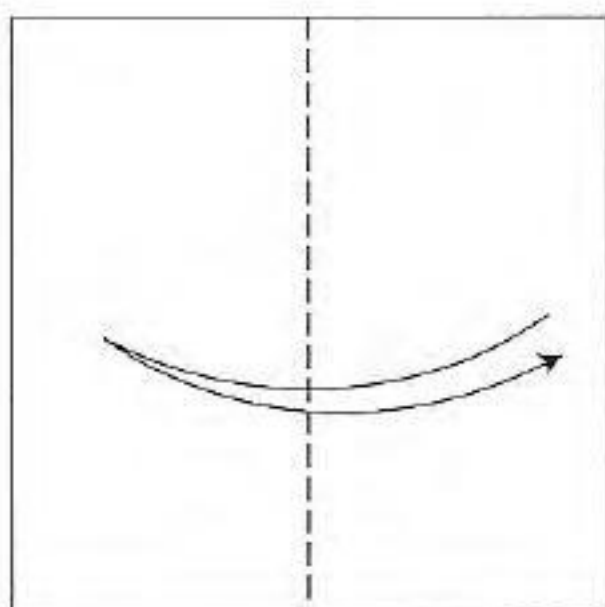
パンダ 川畑文昭 GIANT PANDA

June 5, 2011
Kawahata Fumiaki



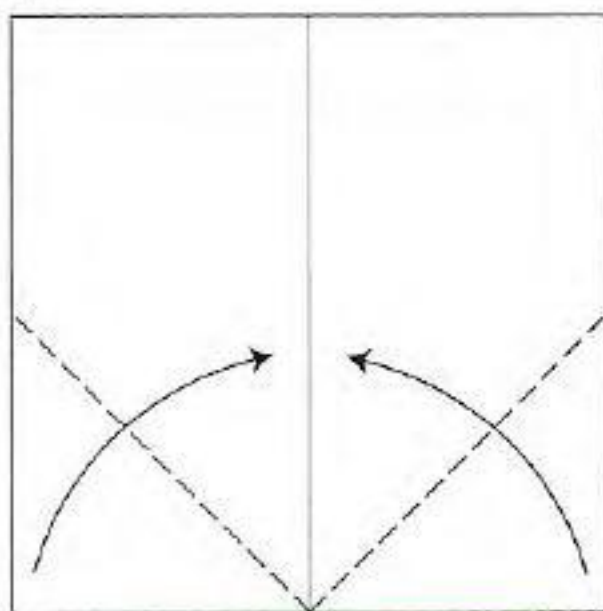
Copyright By Kawahata Fumiaki 2011

1

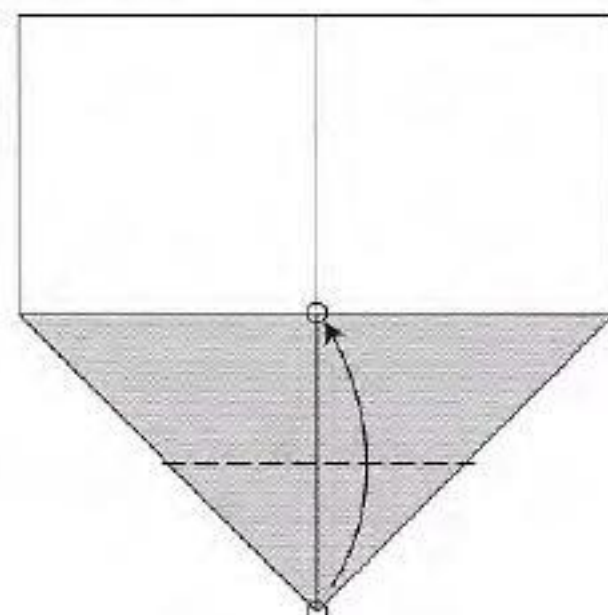


折すじをつける

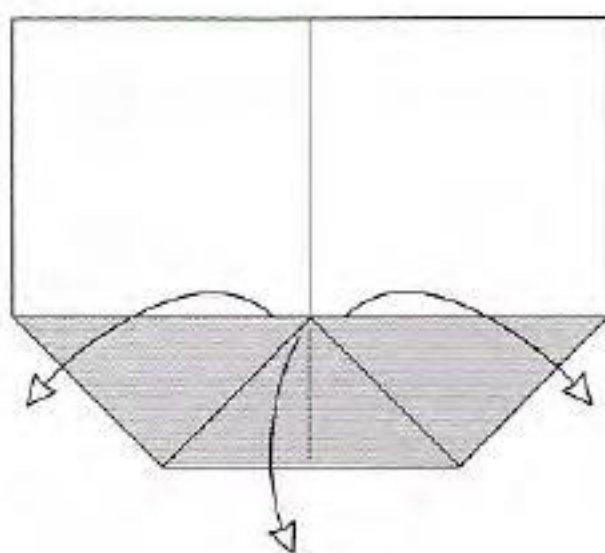
2



3

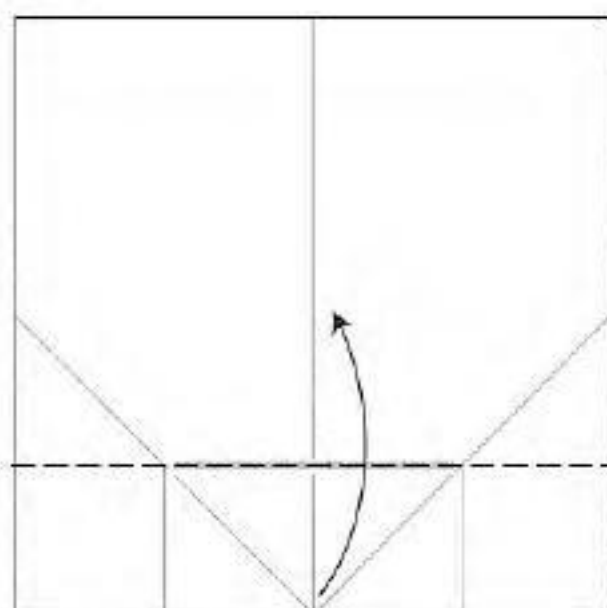


4



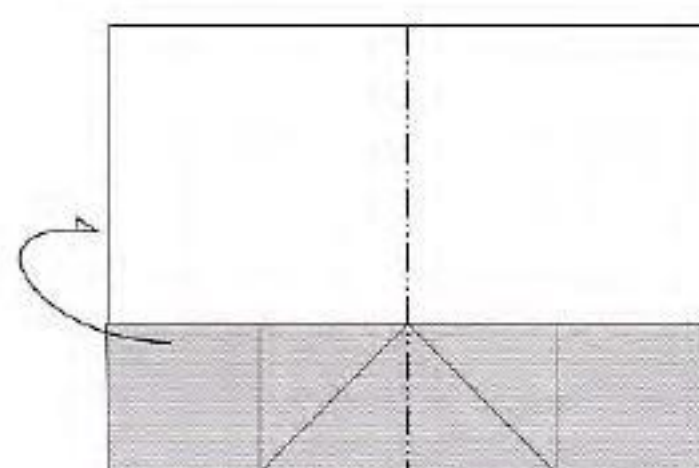
広げて戻す

5



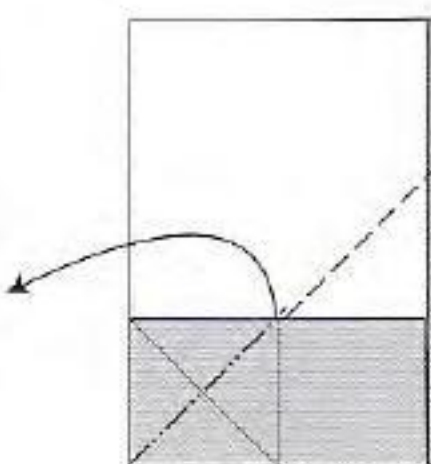
ついている折りすじを使って折る

6



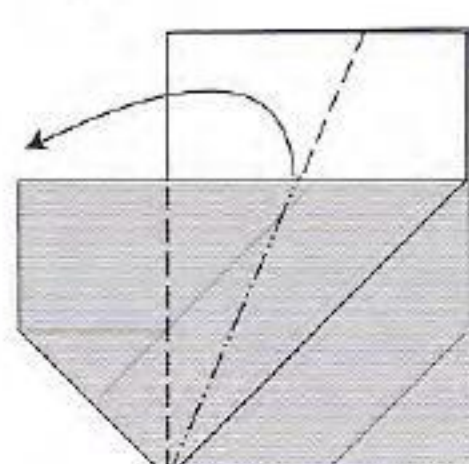
半分に折る

7



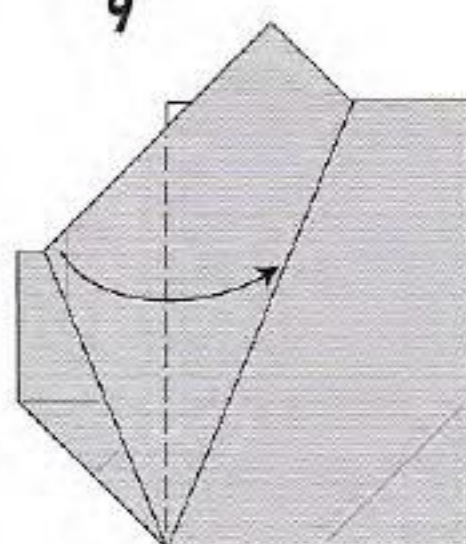
広げてつぶすように折る

8



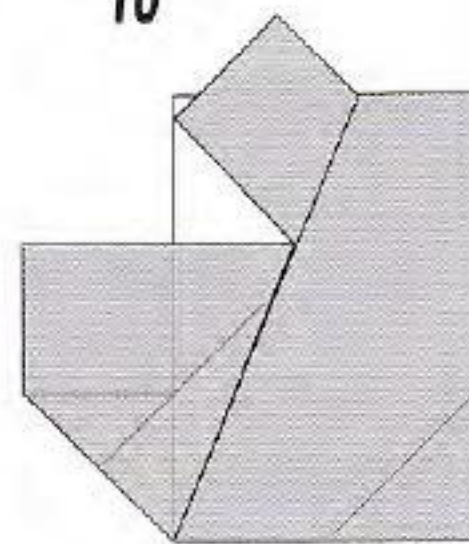
広げてつぶすように折る

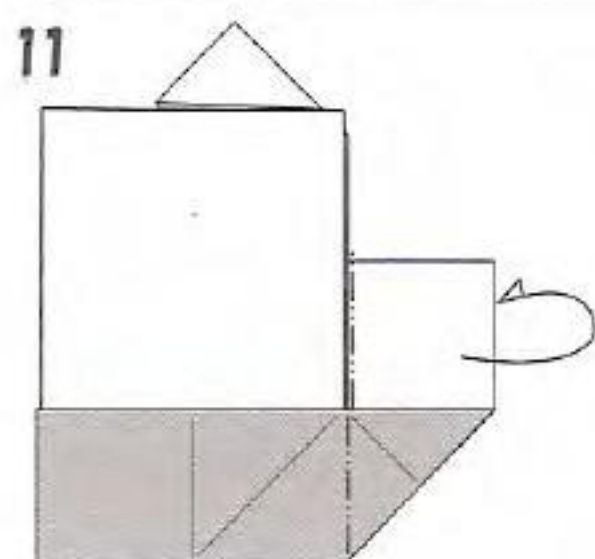
9



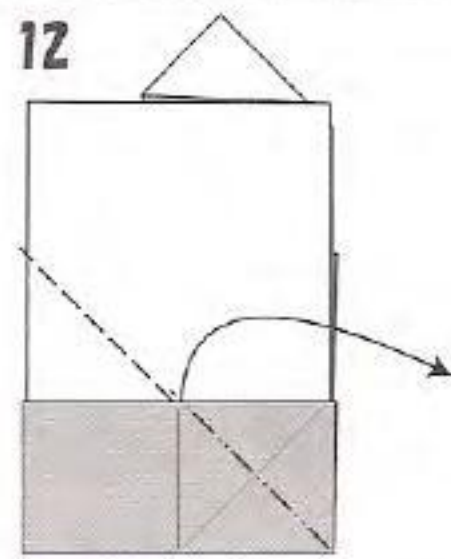
1枚折り返す

10

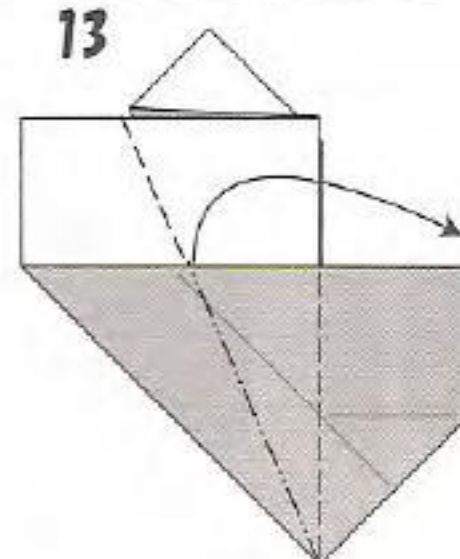




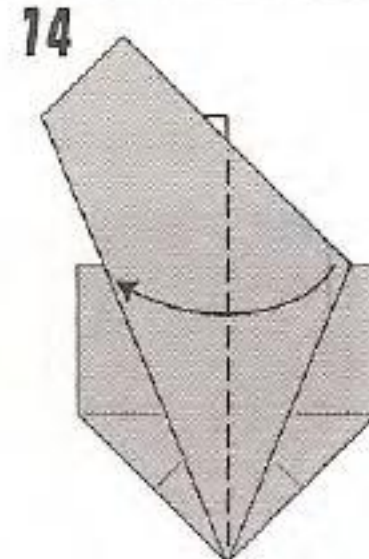
向こう側に折り返す



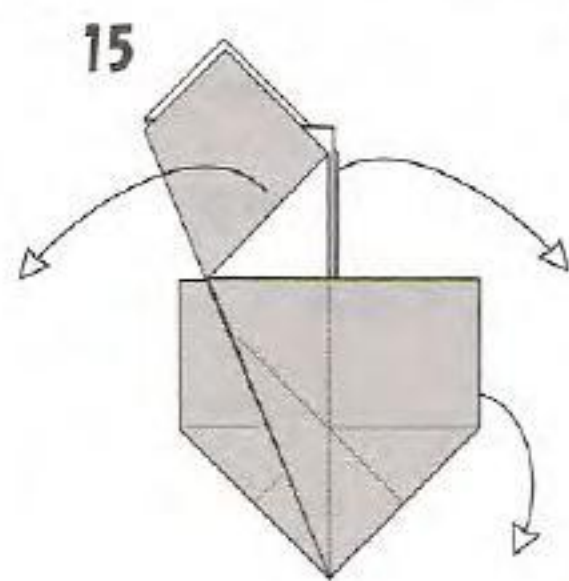
広げてつぶすように折る



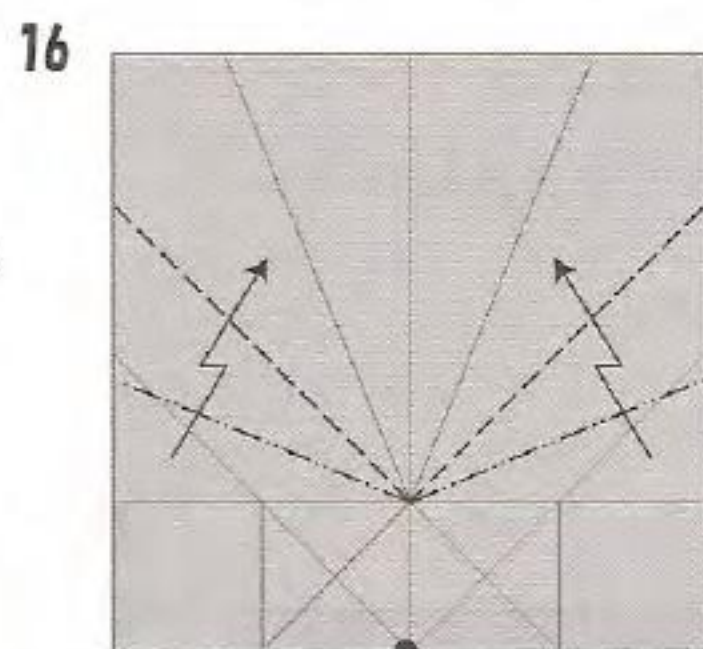
広げてつぶすように折る



1枚折り返す

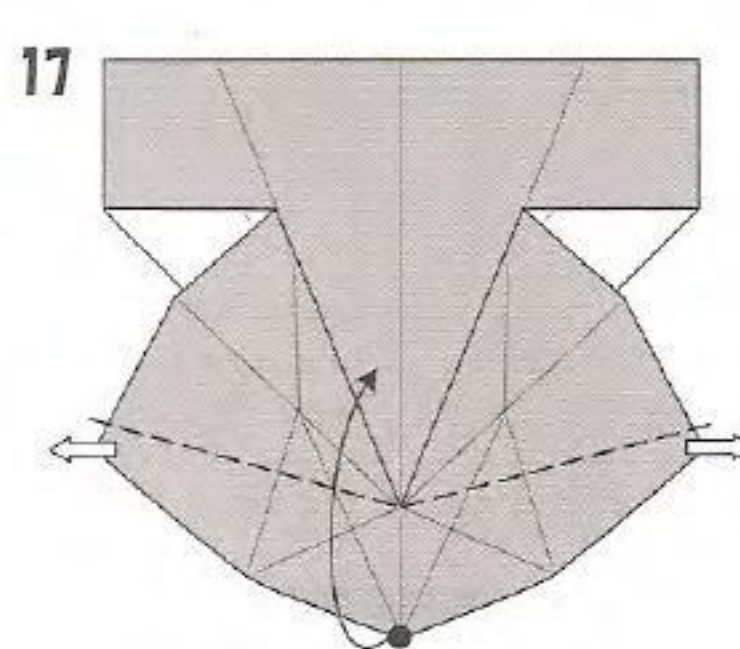


全部広げて戻す

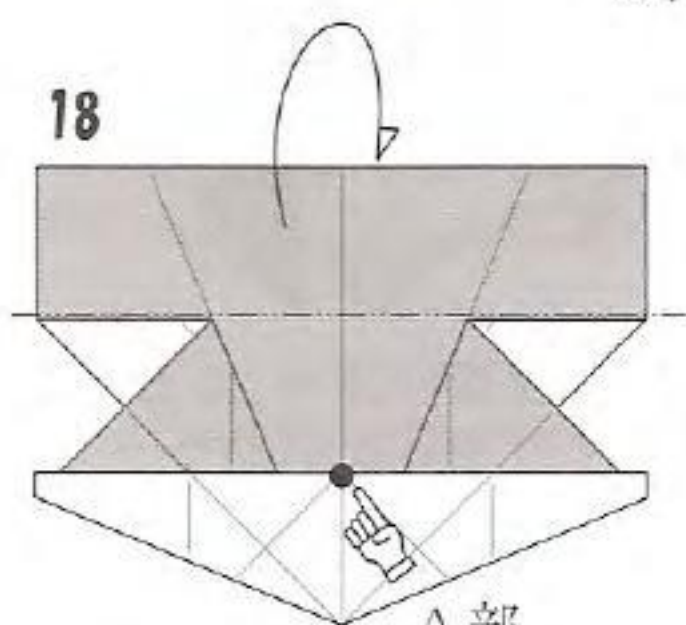


A 部

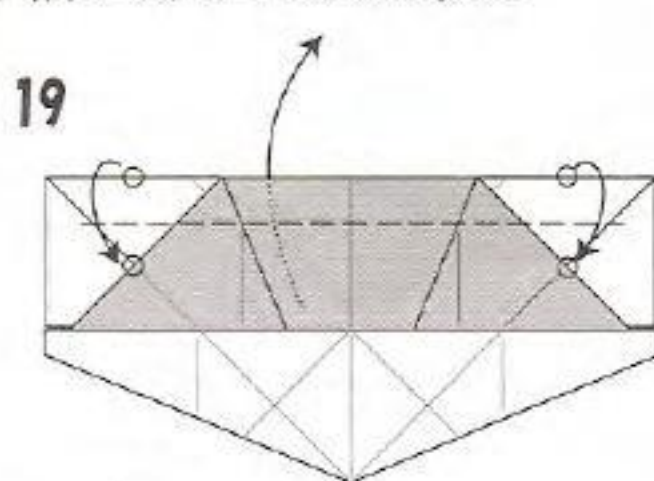
色の面を上にして段に折る
A 部は手前に持ち上げるように



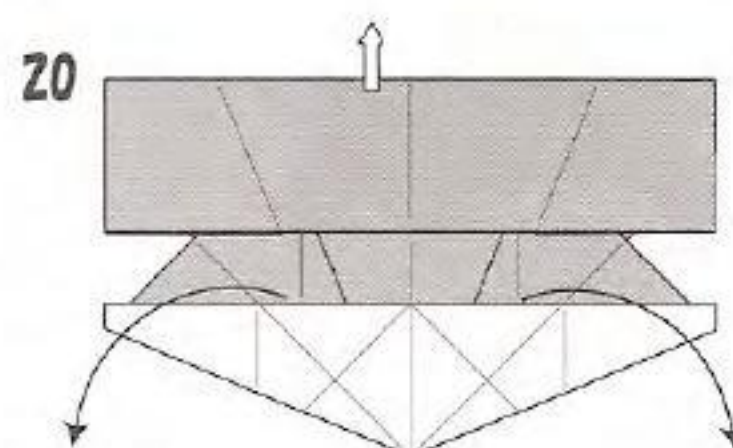
A 部
途中図



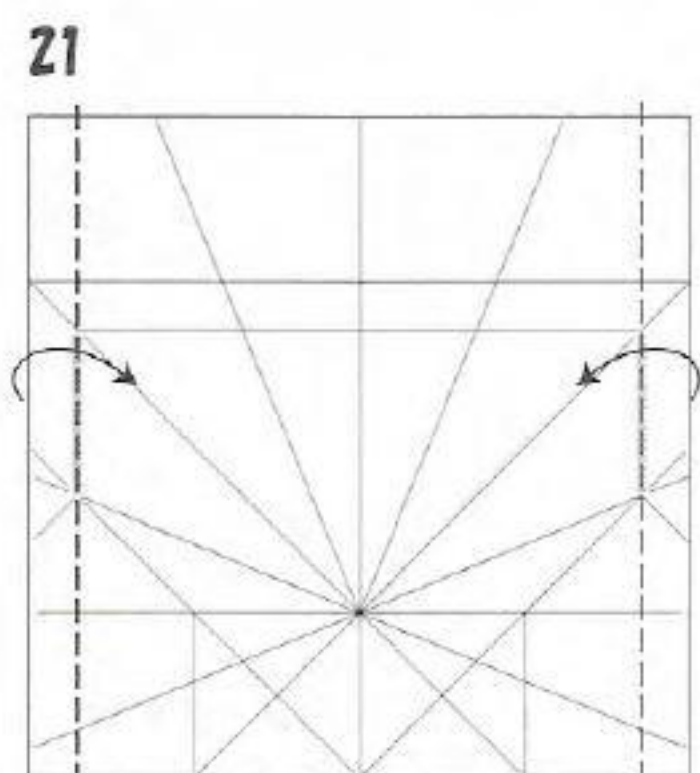
A 部
向こう側に折り返す



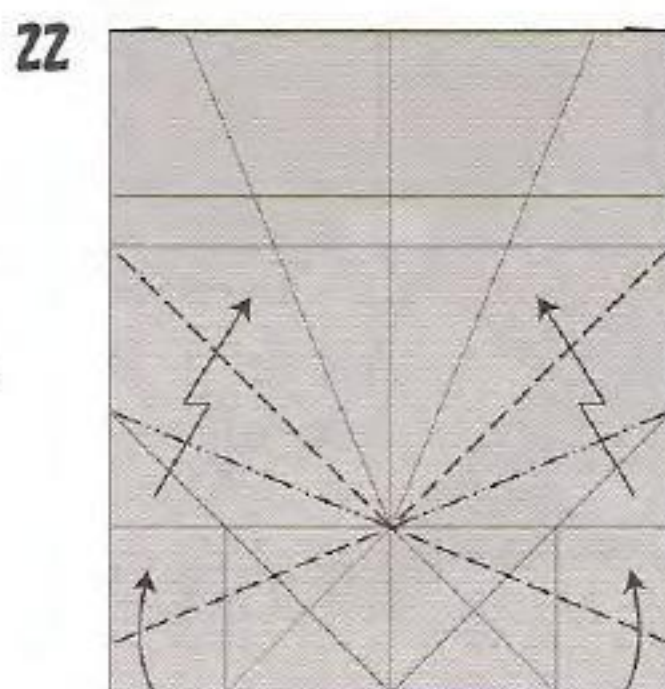
向こう側の紙を
手前に起こしながら
○印をあわせて折る
重なっている紙が
ずれないように注意



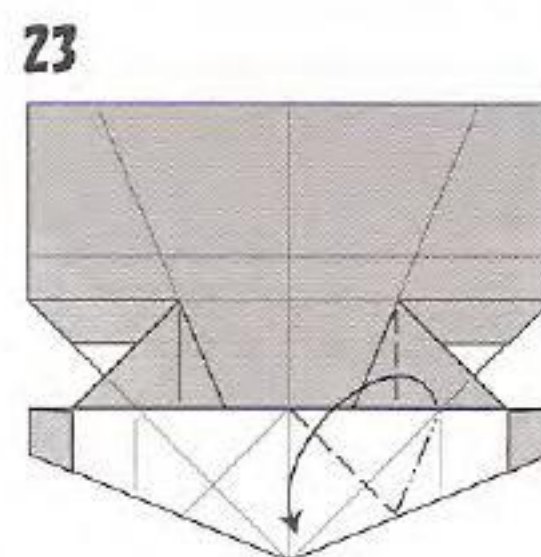
全部広げて戻す



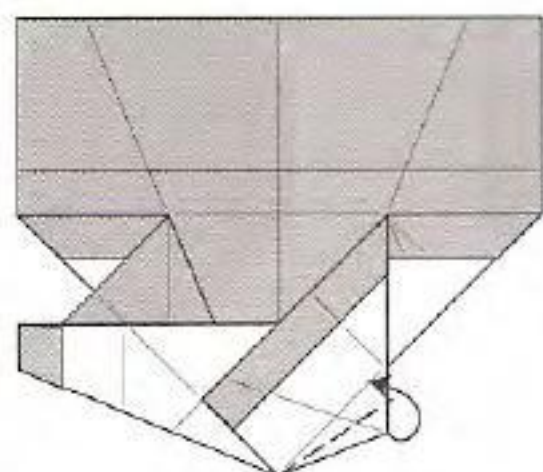
白い面を上にしてひろげ
ついている折りすじを使って折る



ついている折りすじを使って
18 の形に折り直す

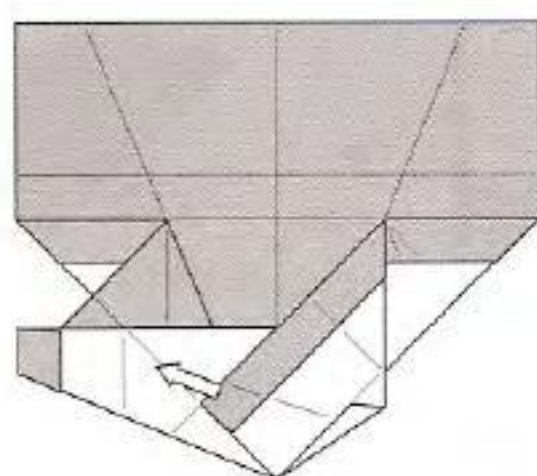


24



半分の角度で折る

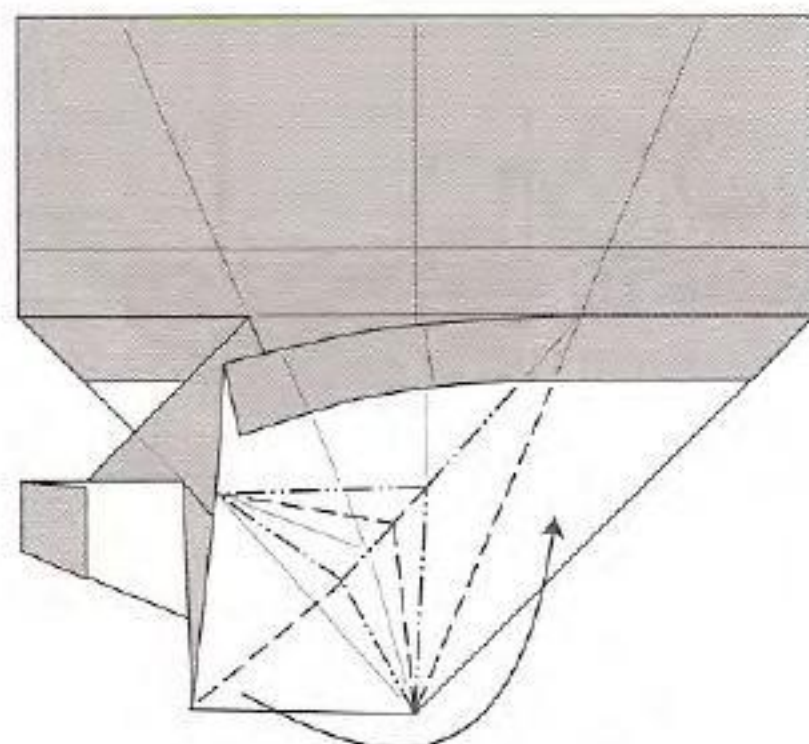
25



引っ張って広げる

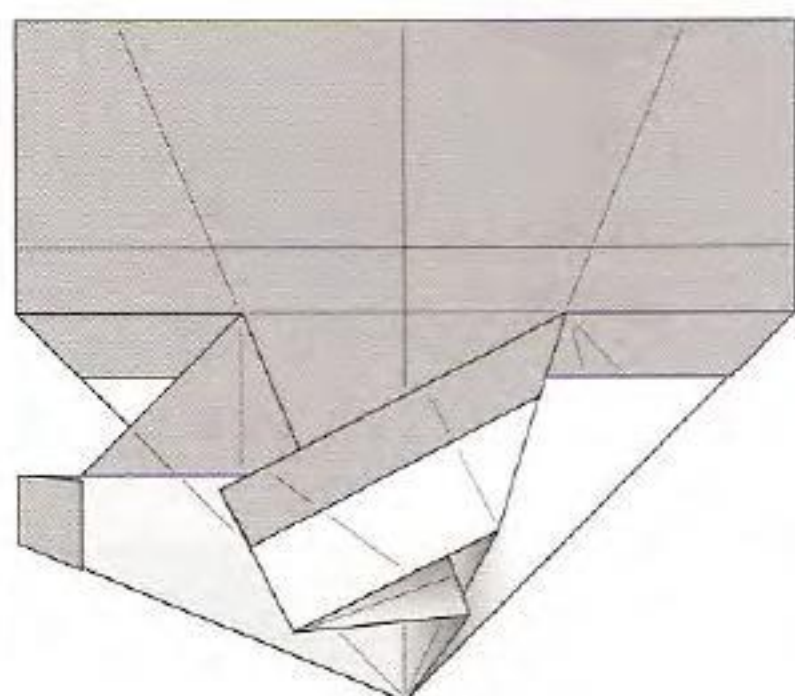


26



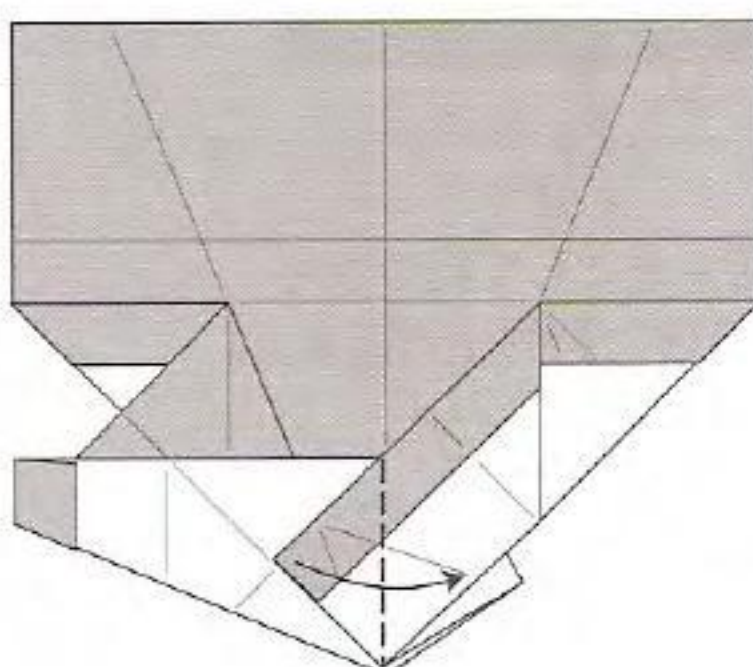
ついている折すじで折る
使う折すじを注意

27



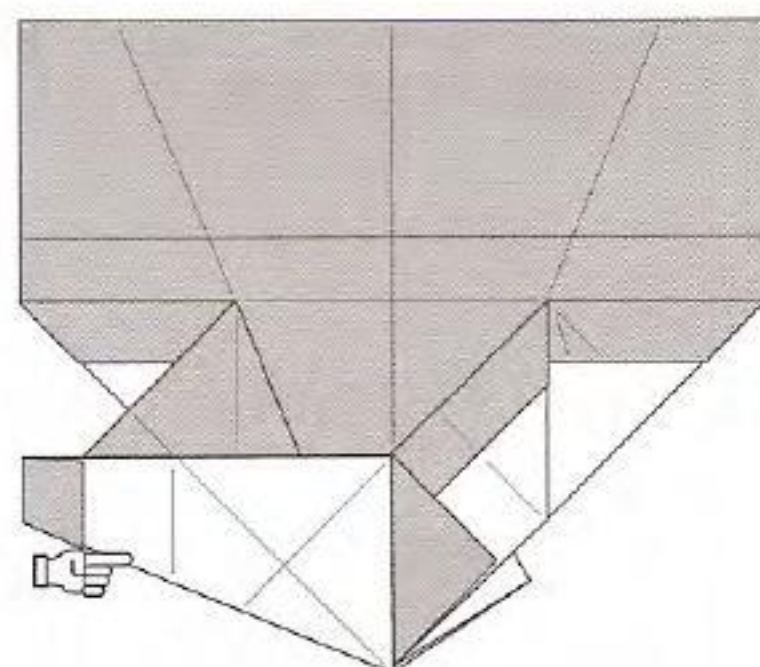
途中図

28



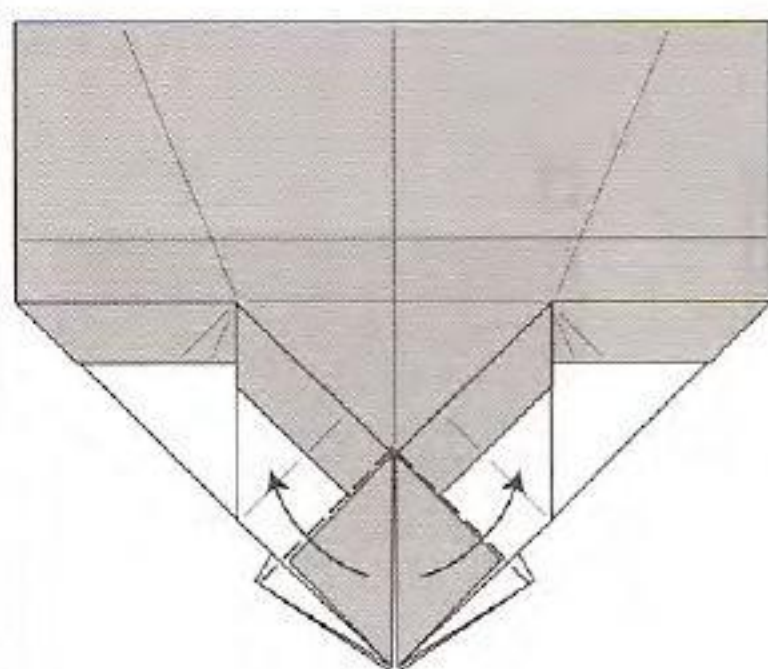
折りかえす

29



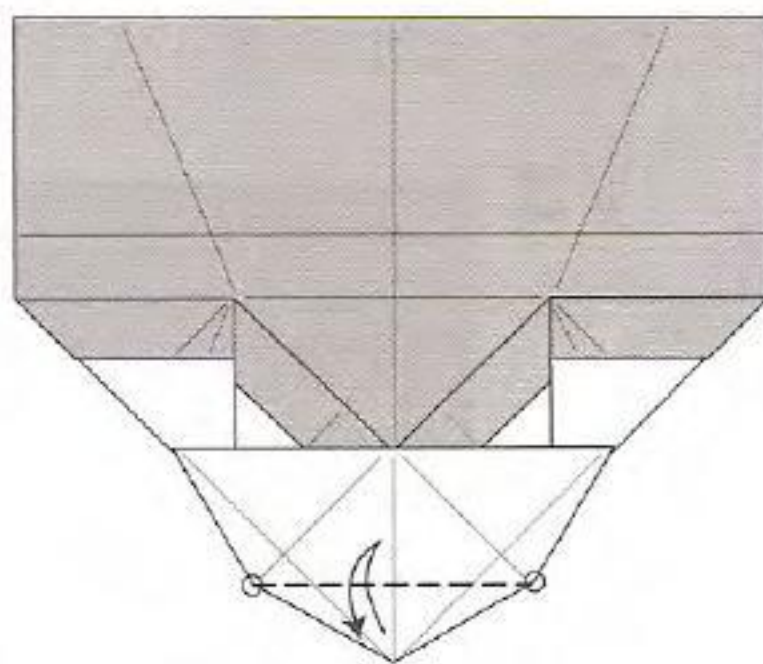
左側も 23 ~ 28 までと
同じように折る

30



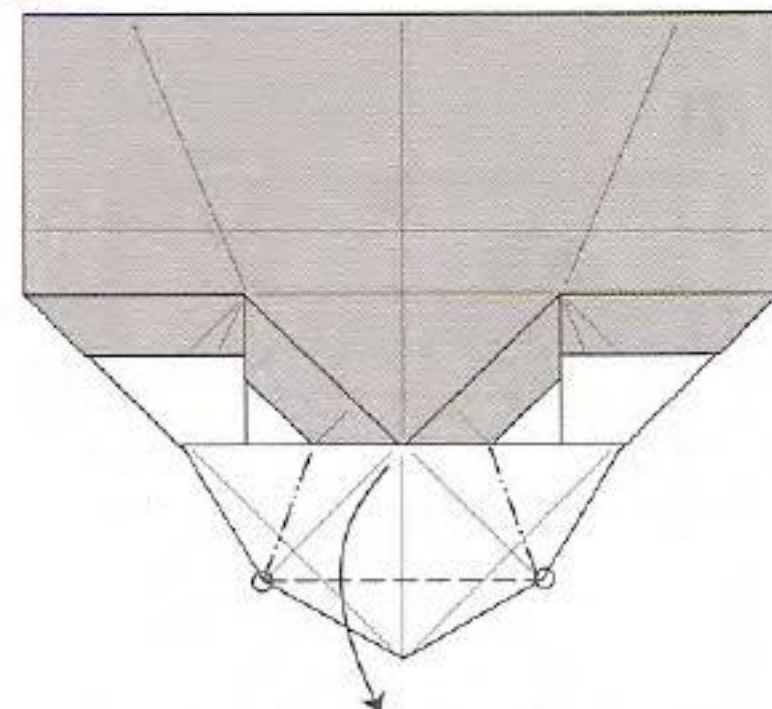
斜めに折り返す

31



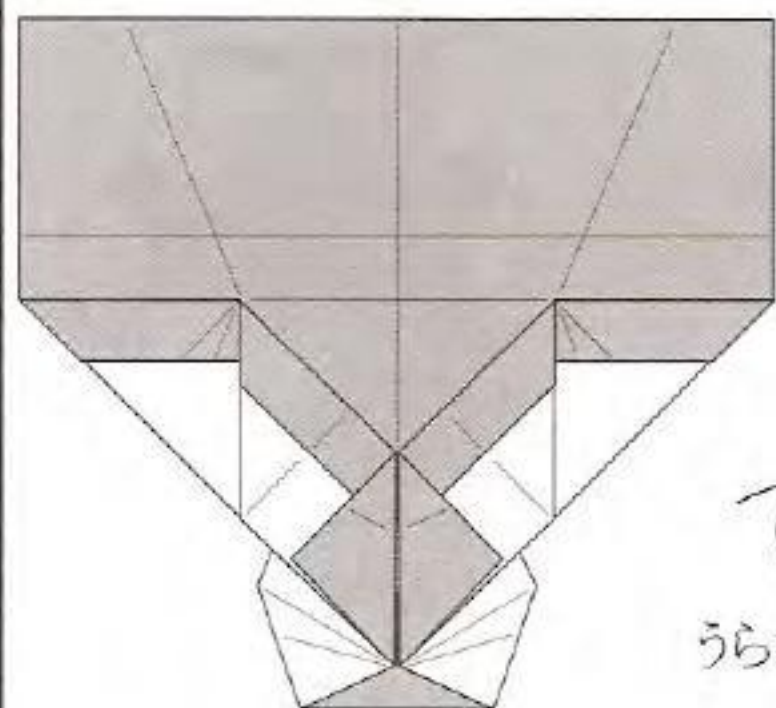
折すじをつける

32

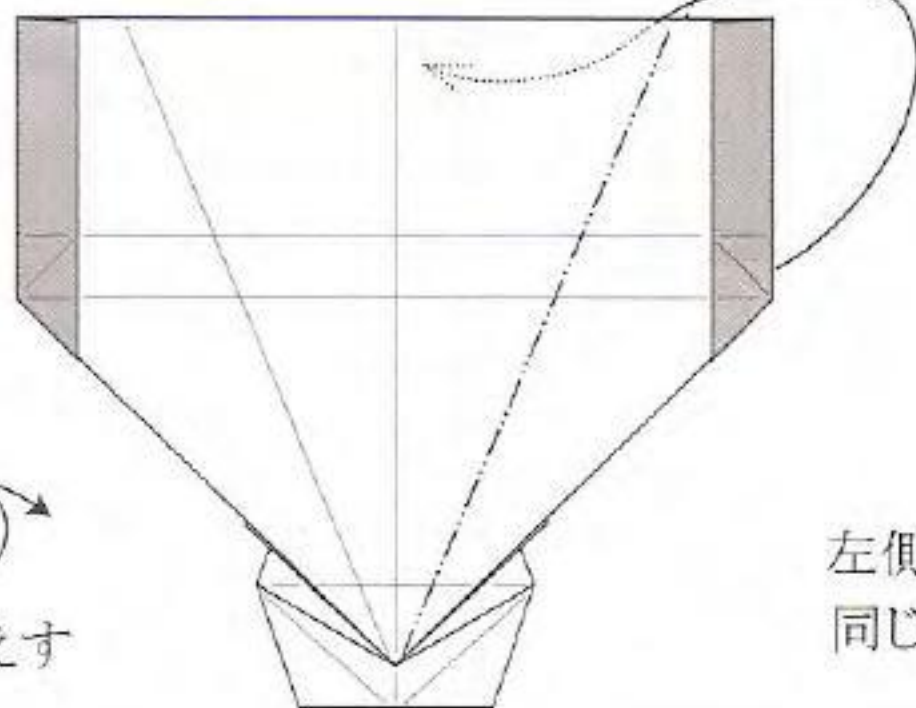


31 でつけた折すじを使って
花卉折りのように折る

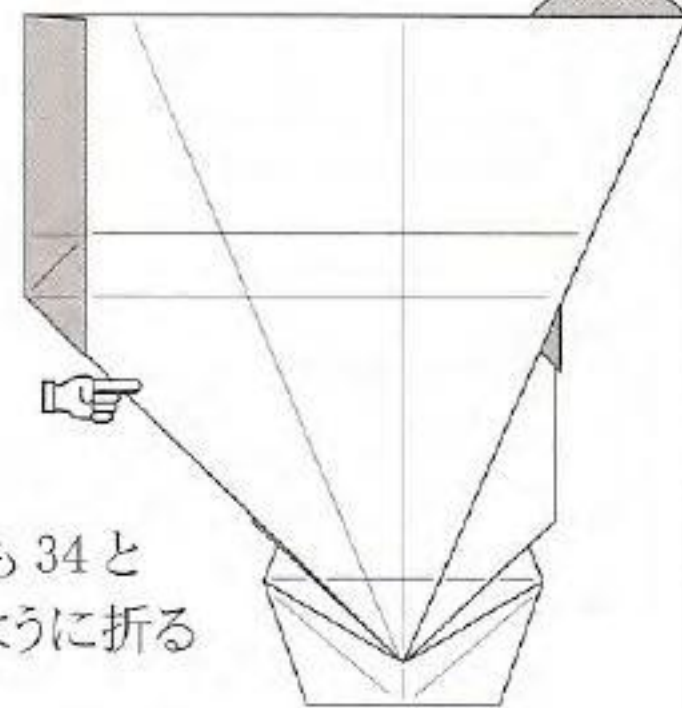
33



34



35

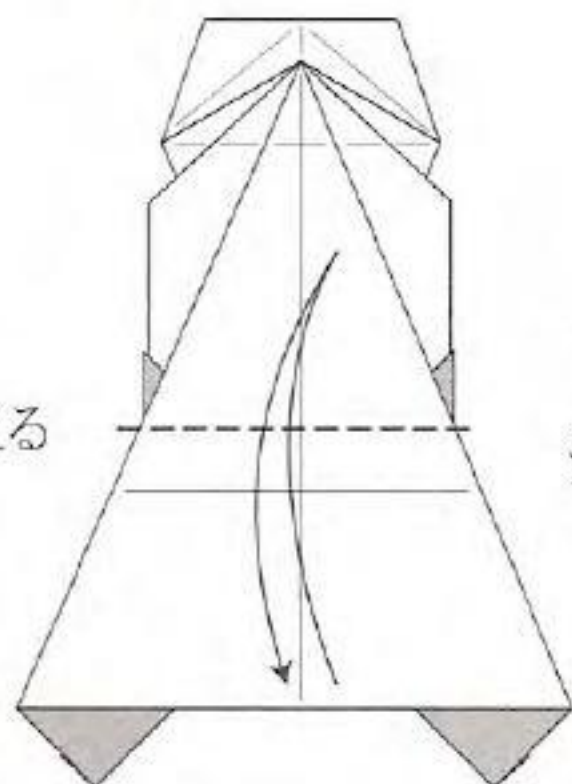


うらがえす

左側も 34 と
同じように折る

ついている折すじで中わり折り

36



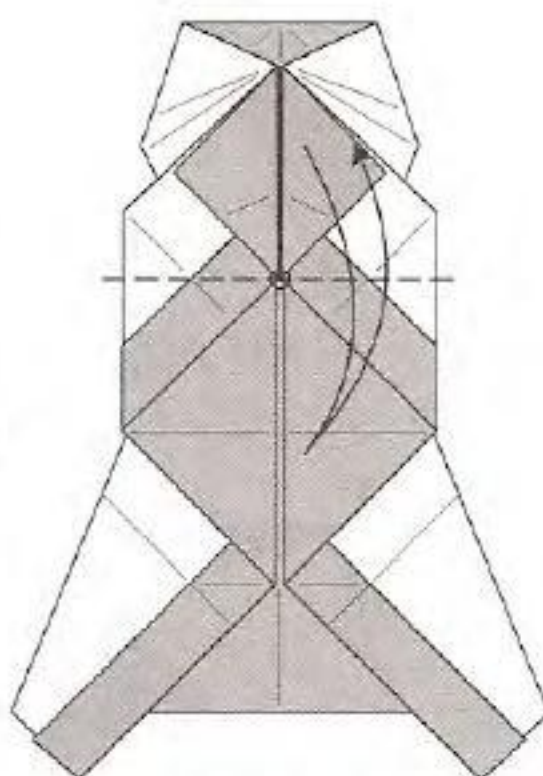
上下向きをかえる



うらがえす

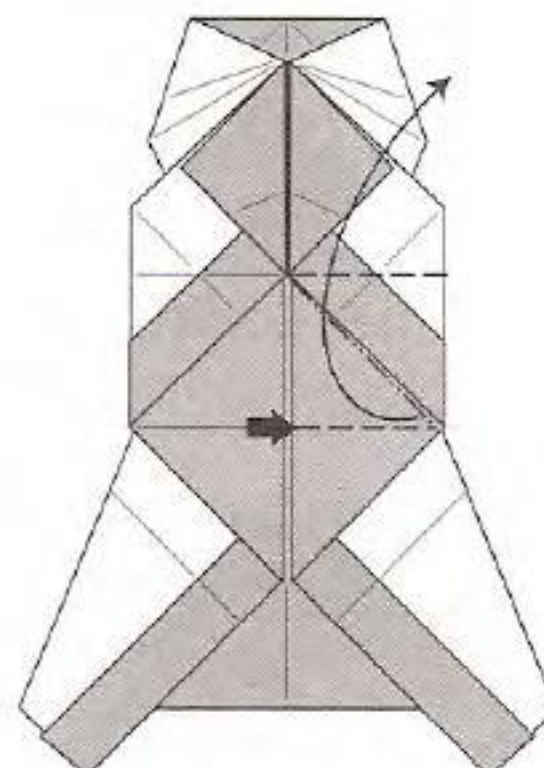
ついている折すじで
全体に折すじをつける

37

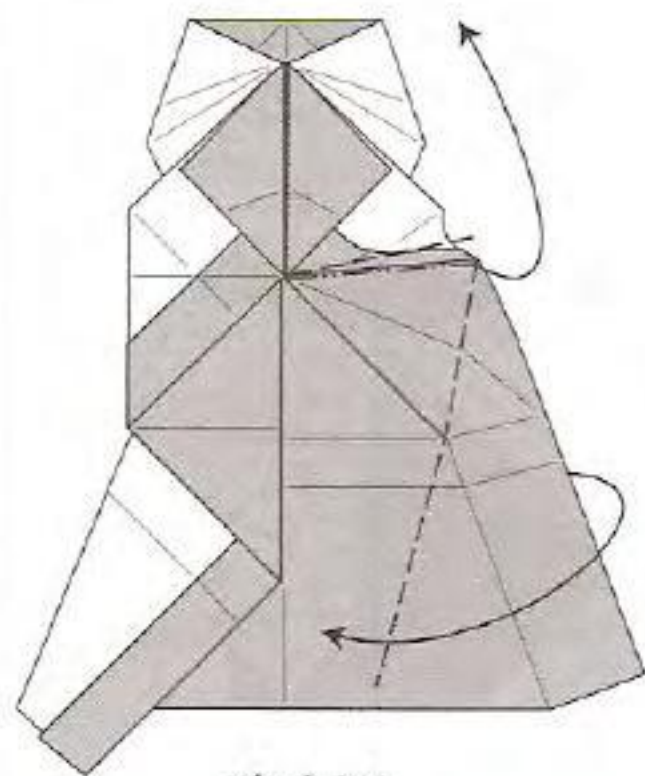


全体に折すじをつける

38

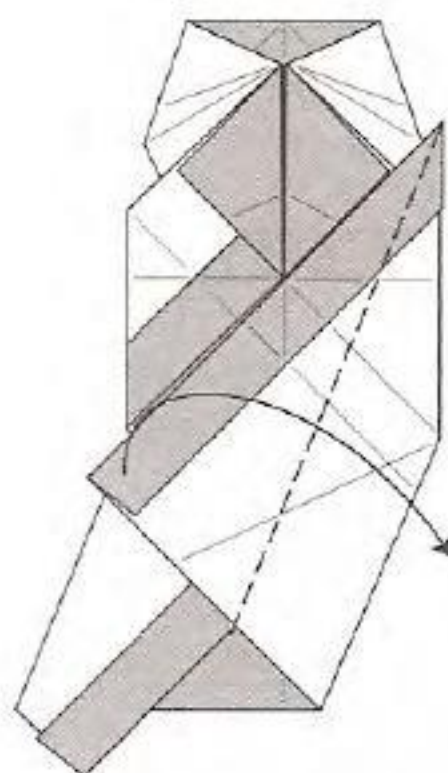
ついている折りすじを
使って折る

39



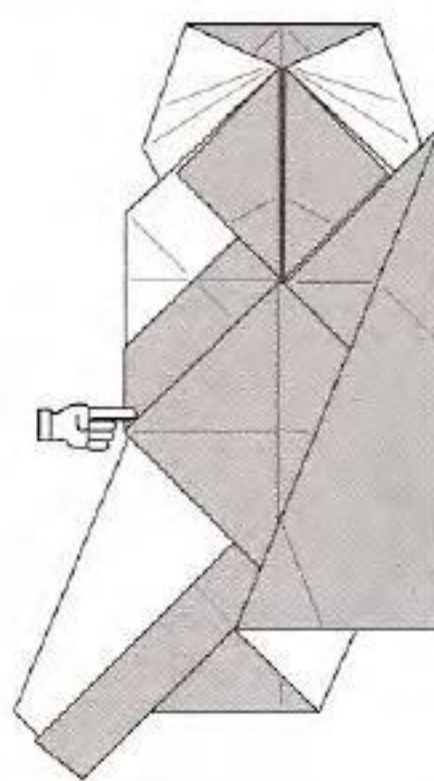
途中図

40

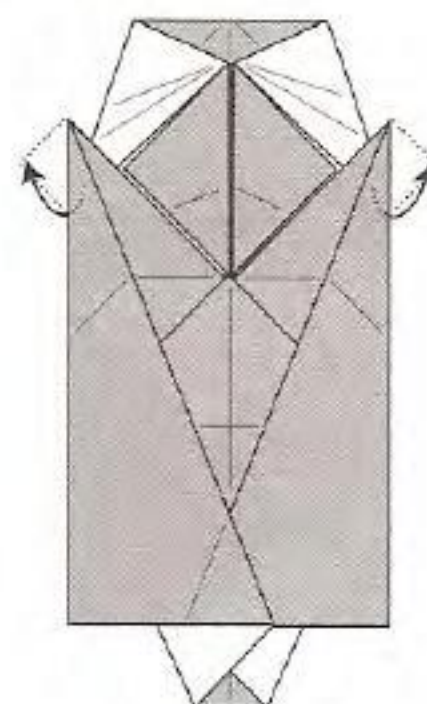


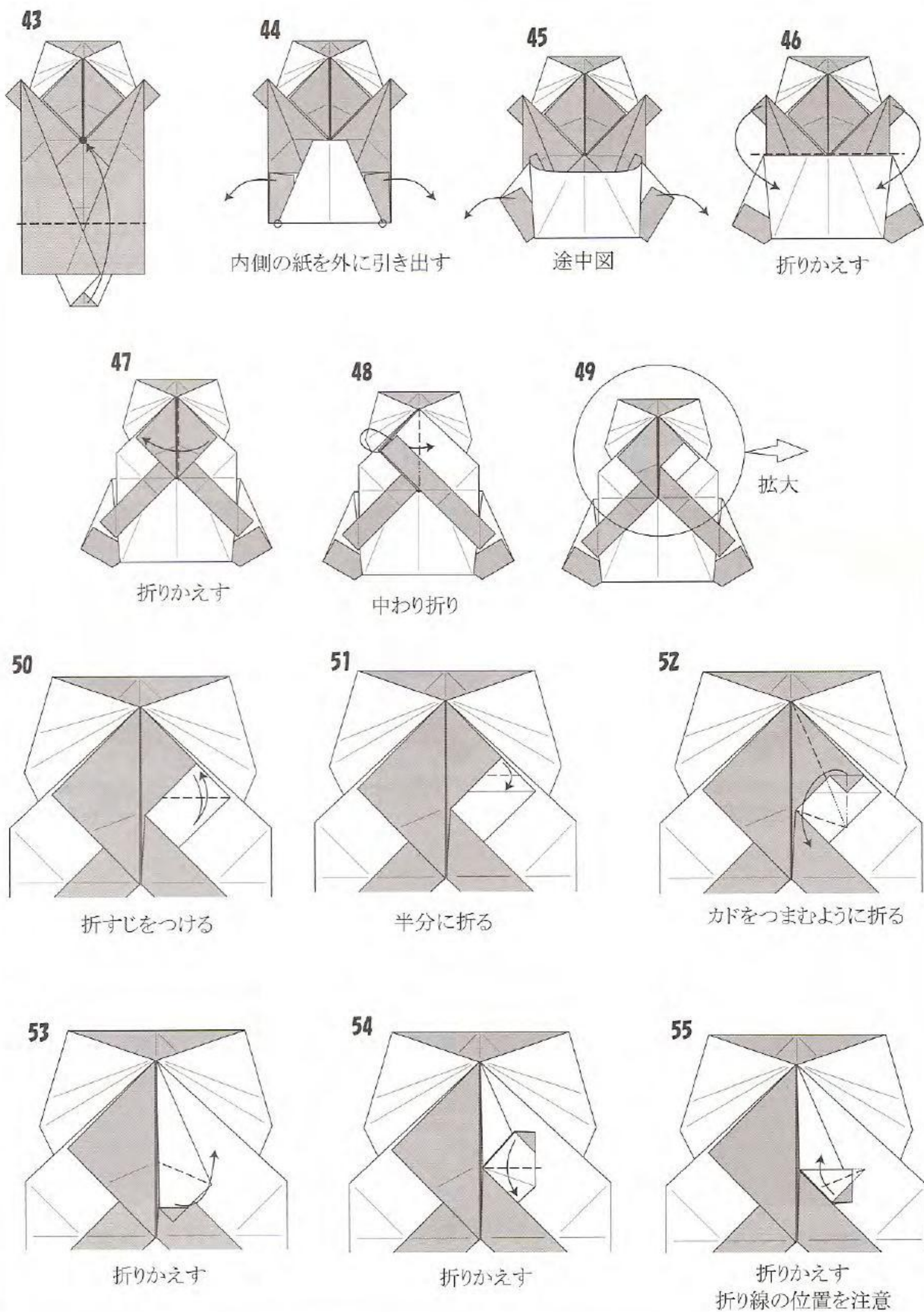
半分の角度で折る

41

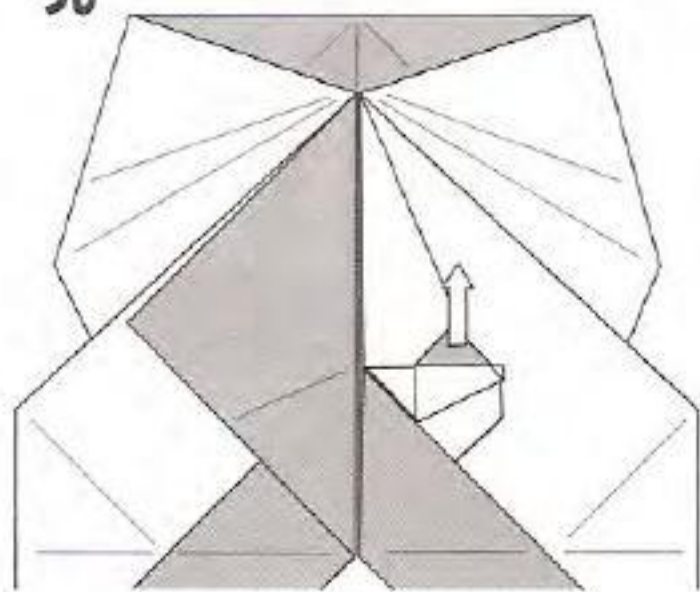
左側も 38 ~ 40 までと
同じように折る

42

内側の紙を
外に引き出す

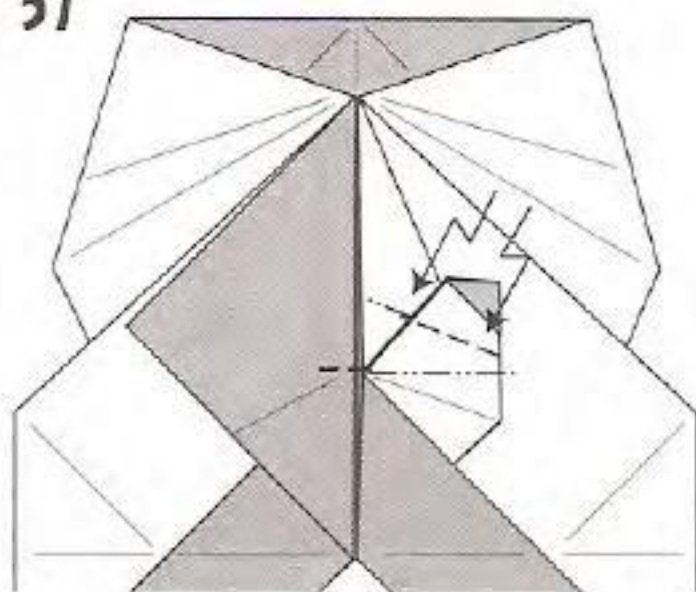


56



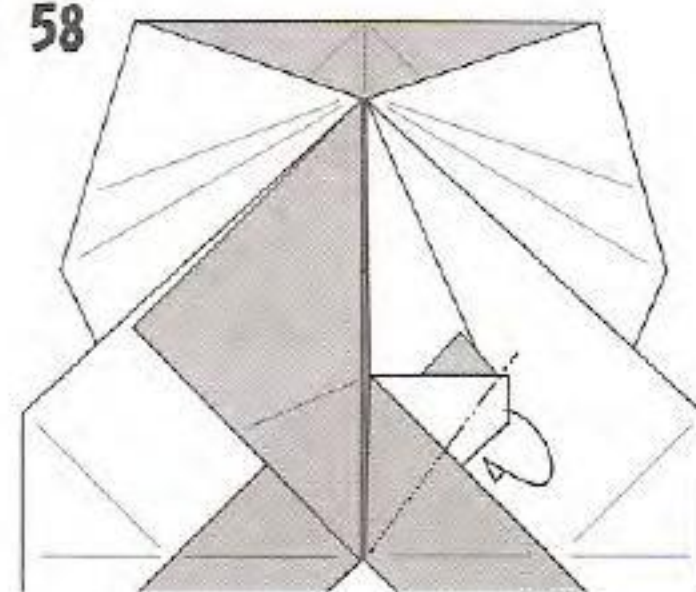
戻す

57



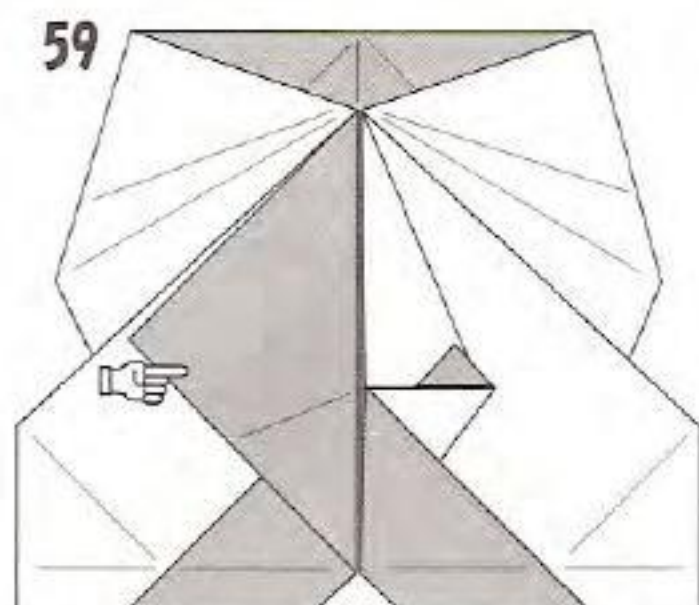
内側に段折り

58

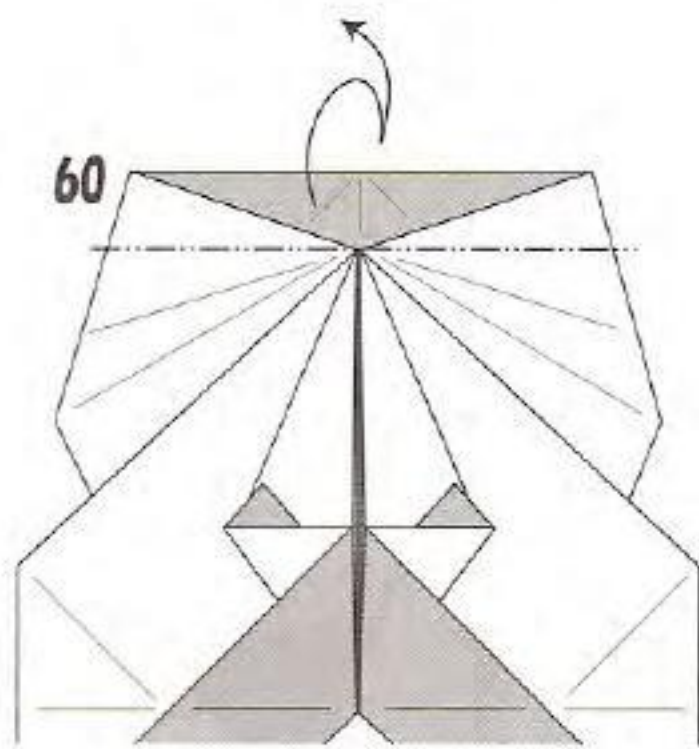


向こう側に折り込む

59

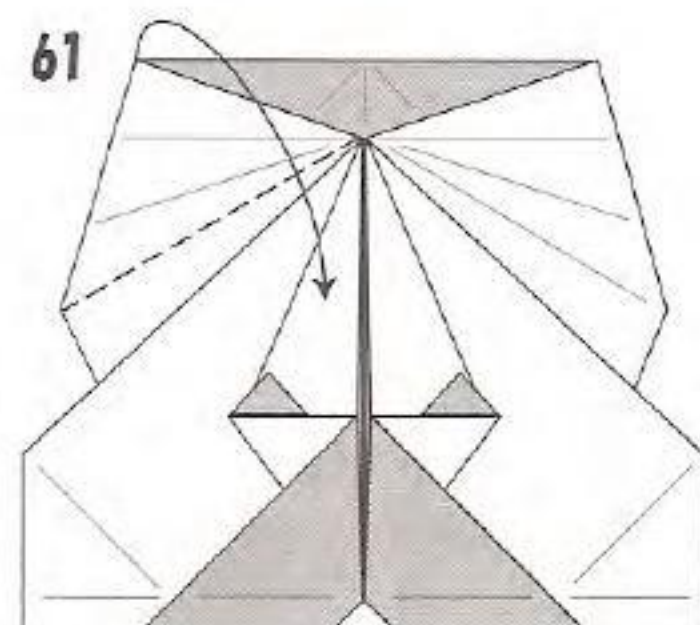
左側も 47 ~ 58 までと
同じように折る

60



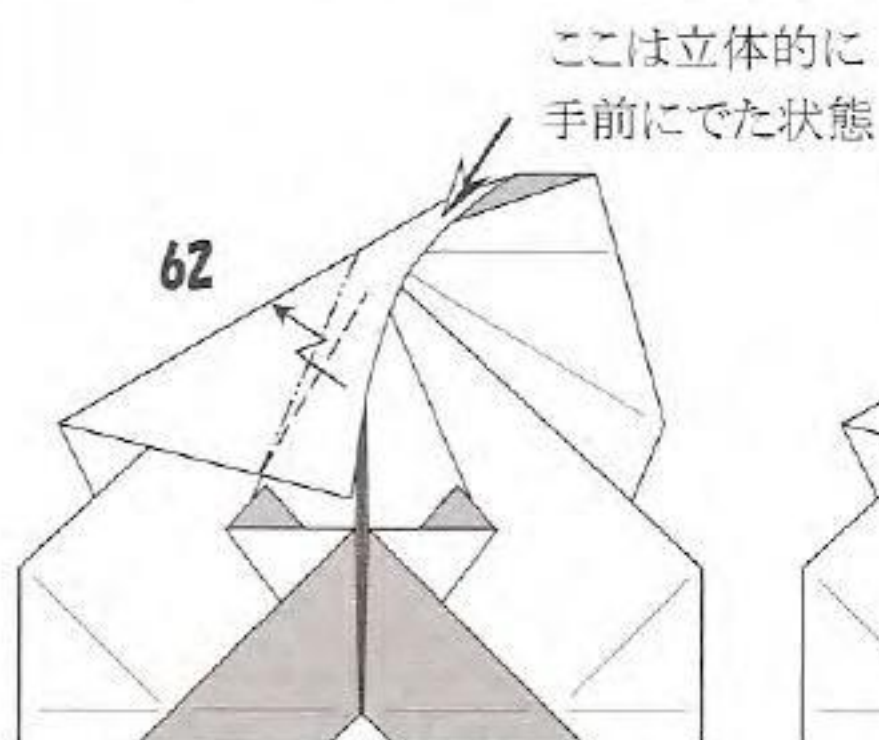
折すじをつける

61



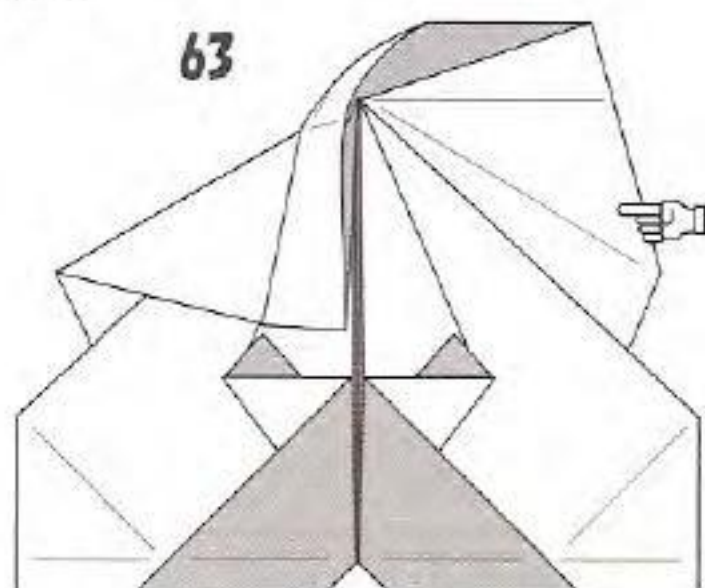
ついている折りすじを使って折る

62



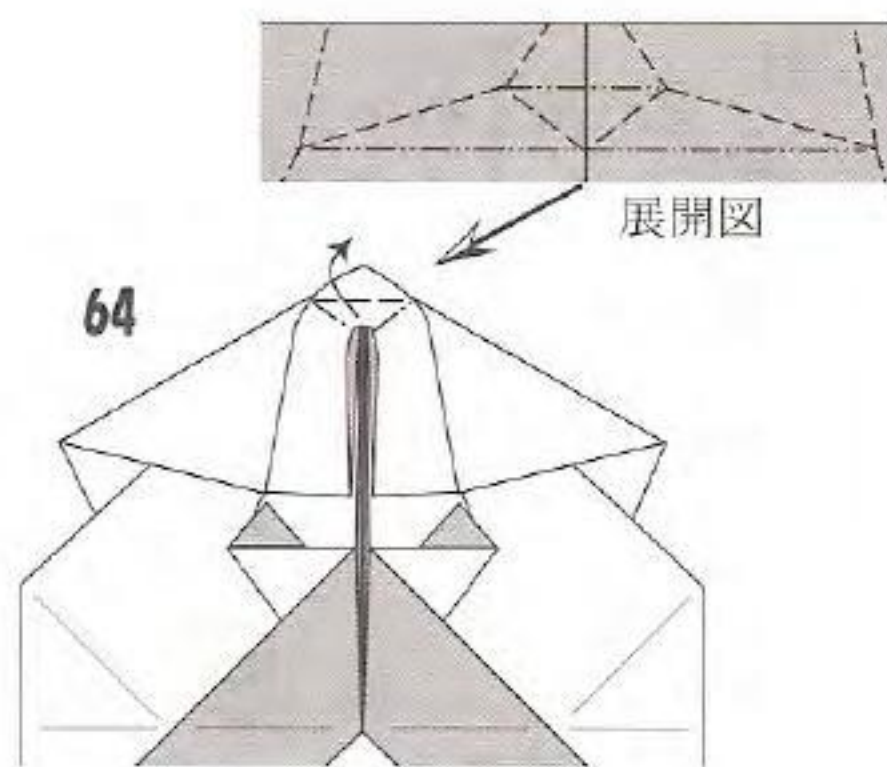
上の1枚だけ

63

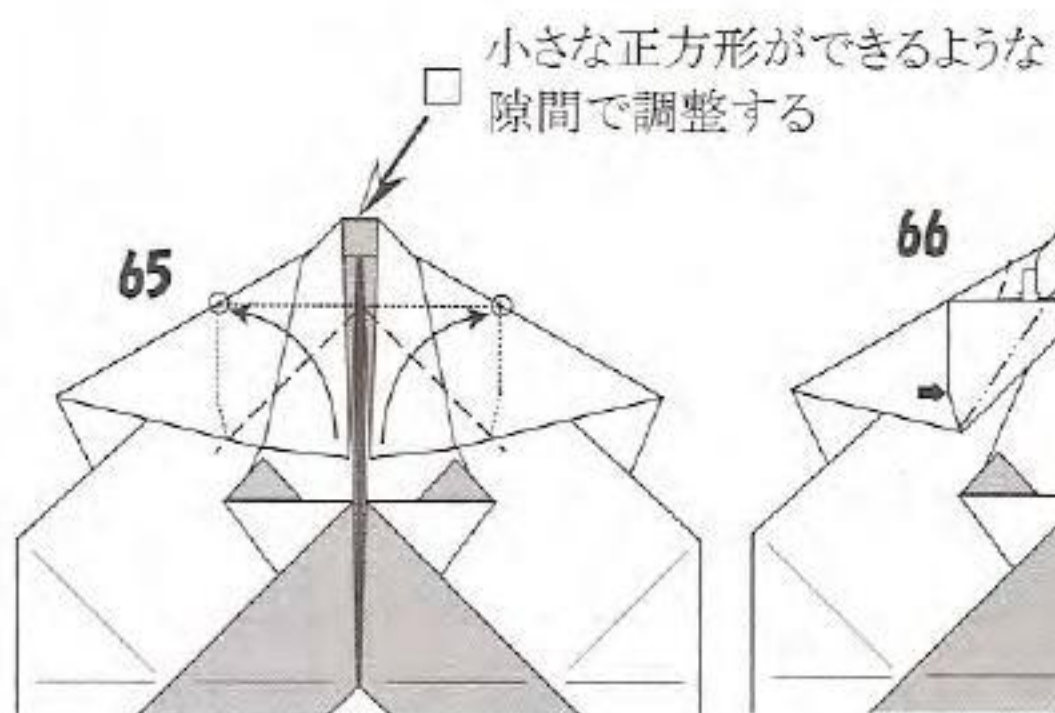


右側も 61 ~ 62 と同じように

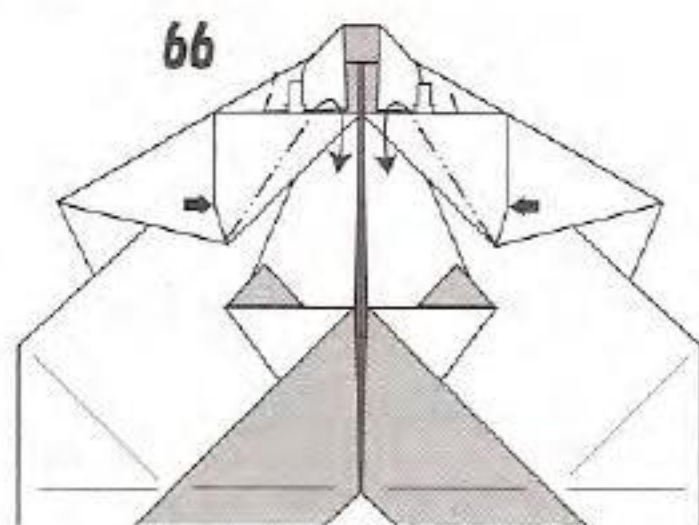
64

展開図を参考にしながら
平らにつぶす

65



66

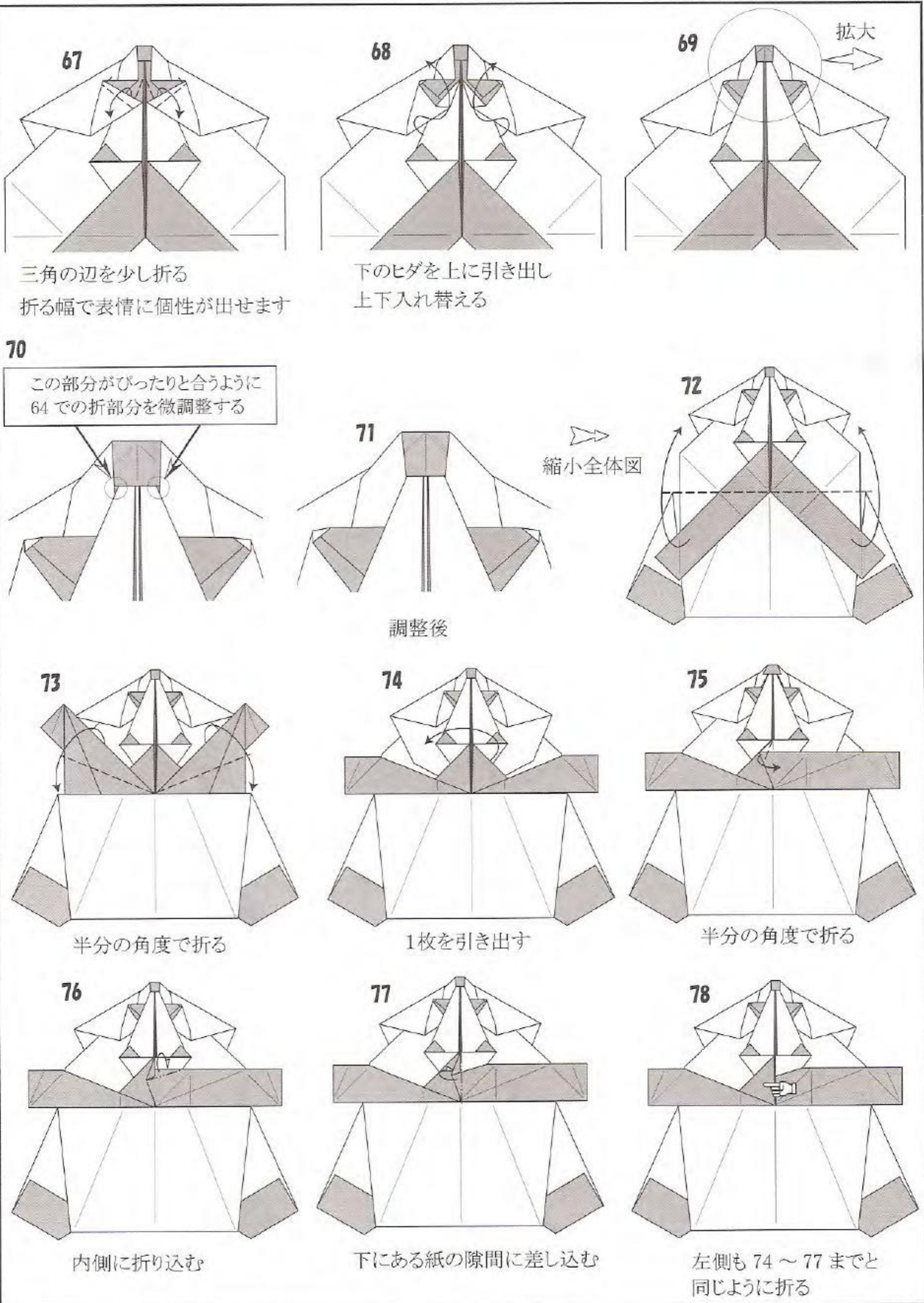


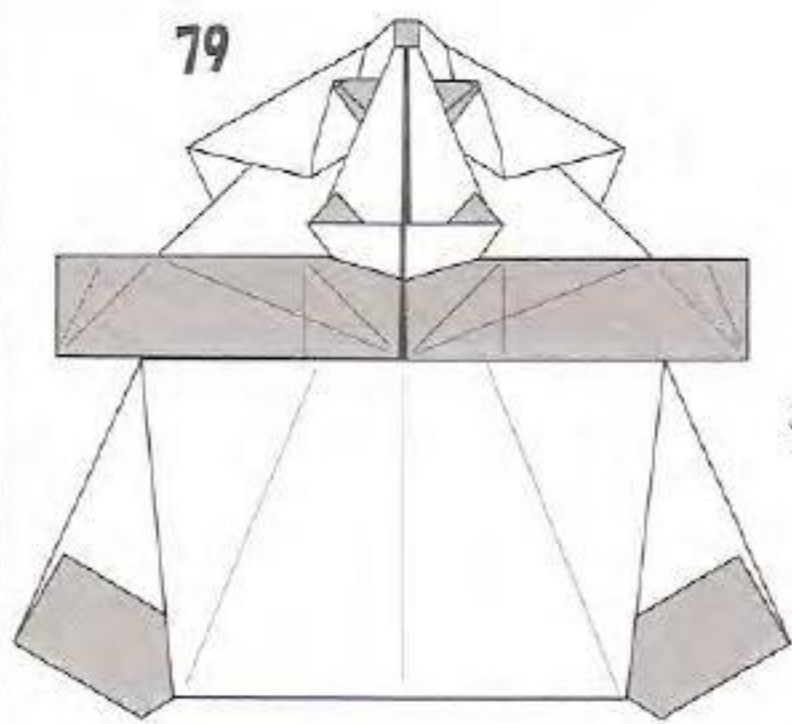
広げてつぶすように折る

一直線になるよう調整

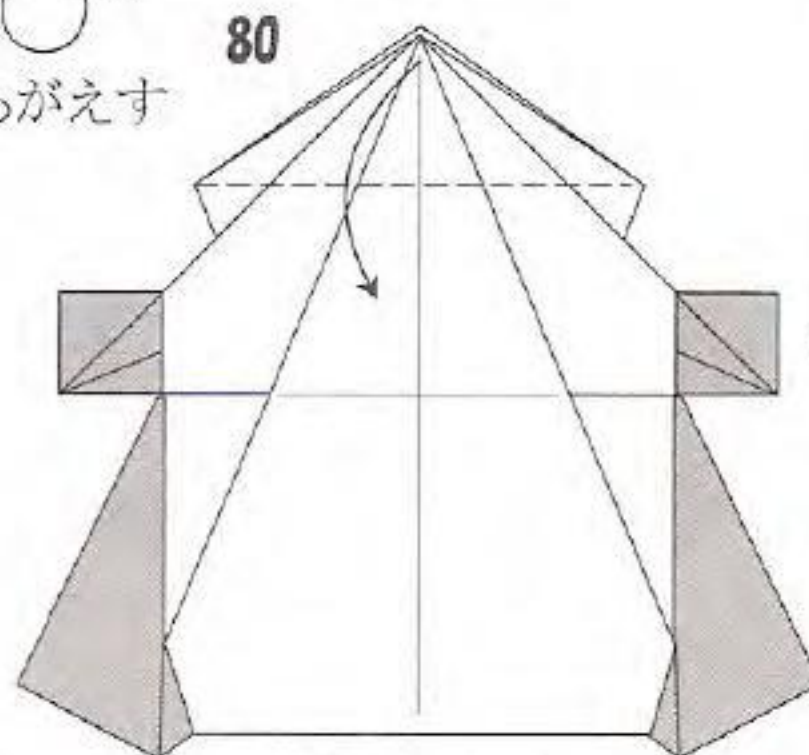
平らにつぶす

66 を折るときの注意点

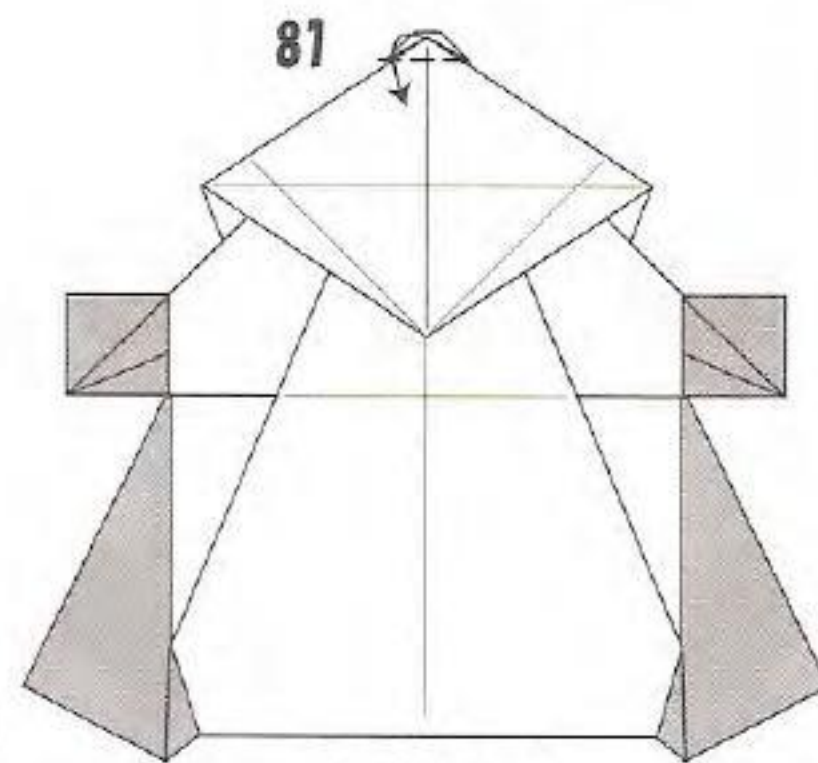




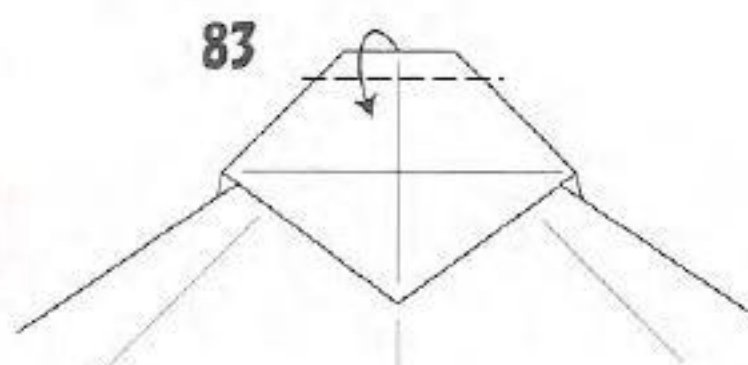
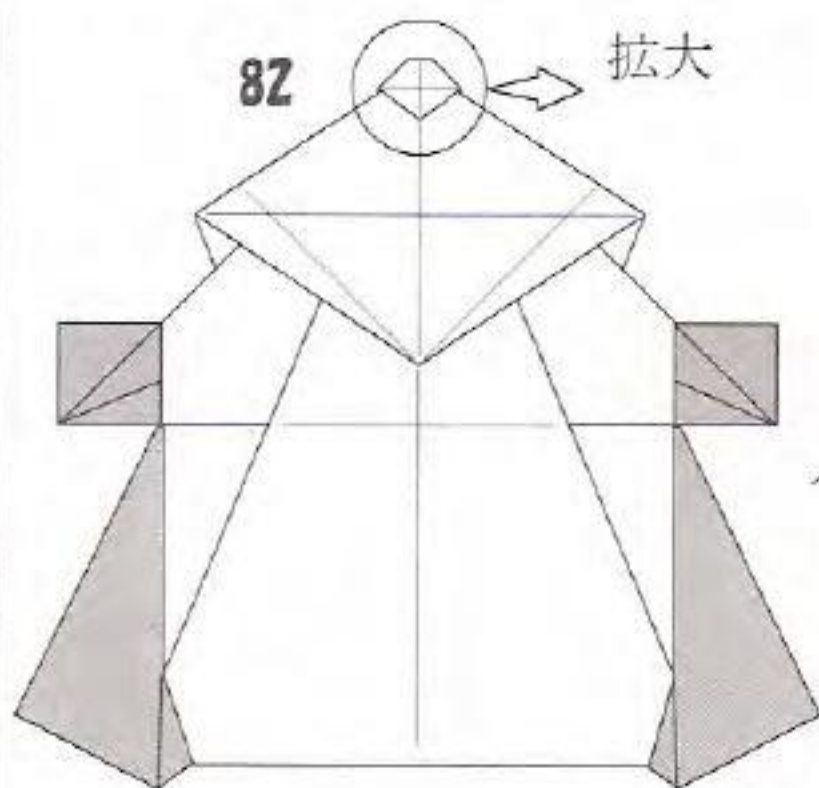
いわゆるパンダの開きができました



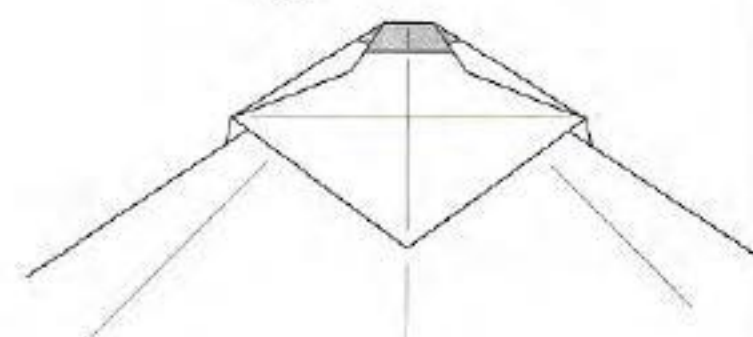
1枚折り返す



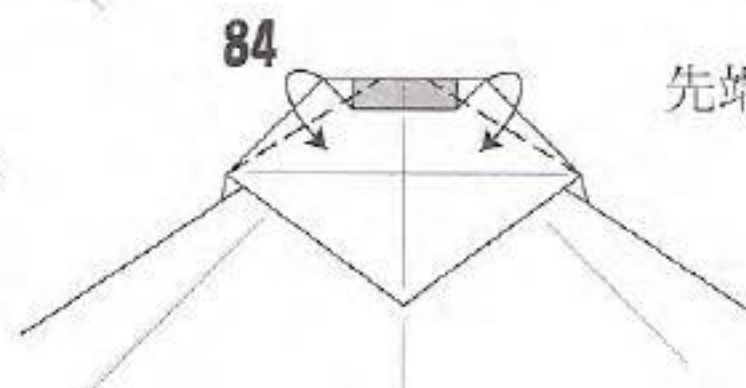
1枚折り返す



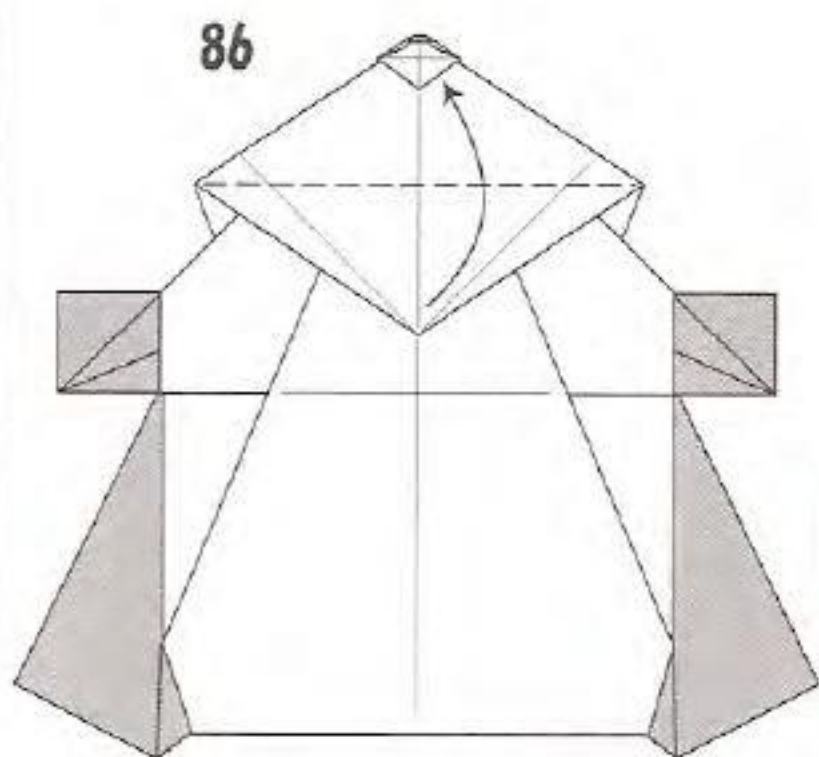
先端を少し折る



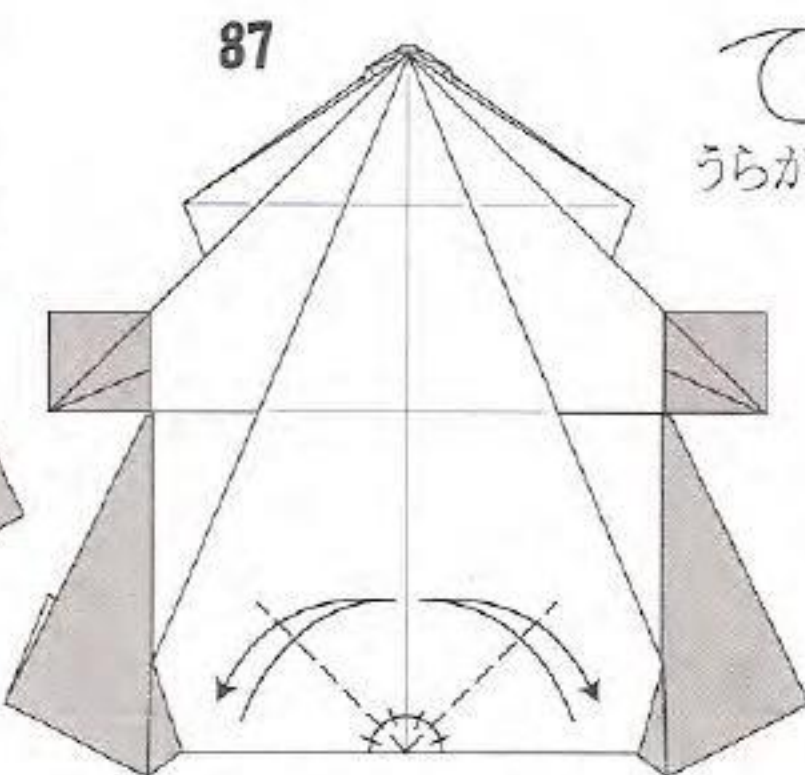
先端の形



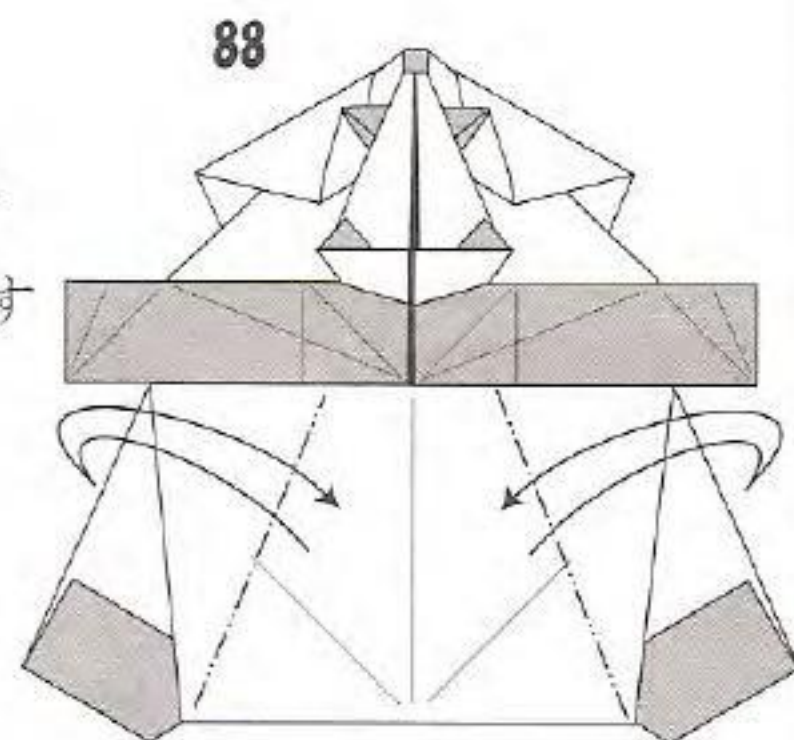
カドを少し折る



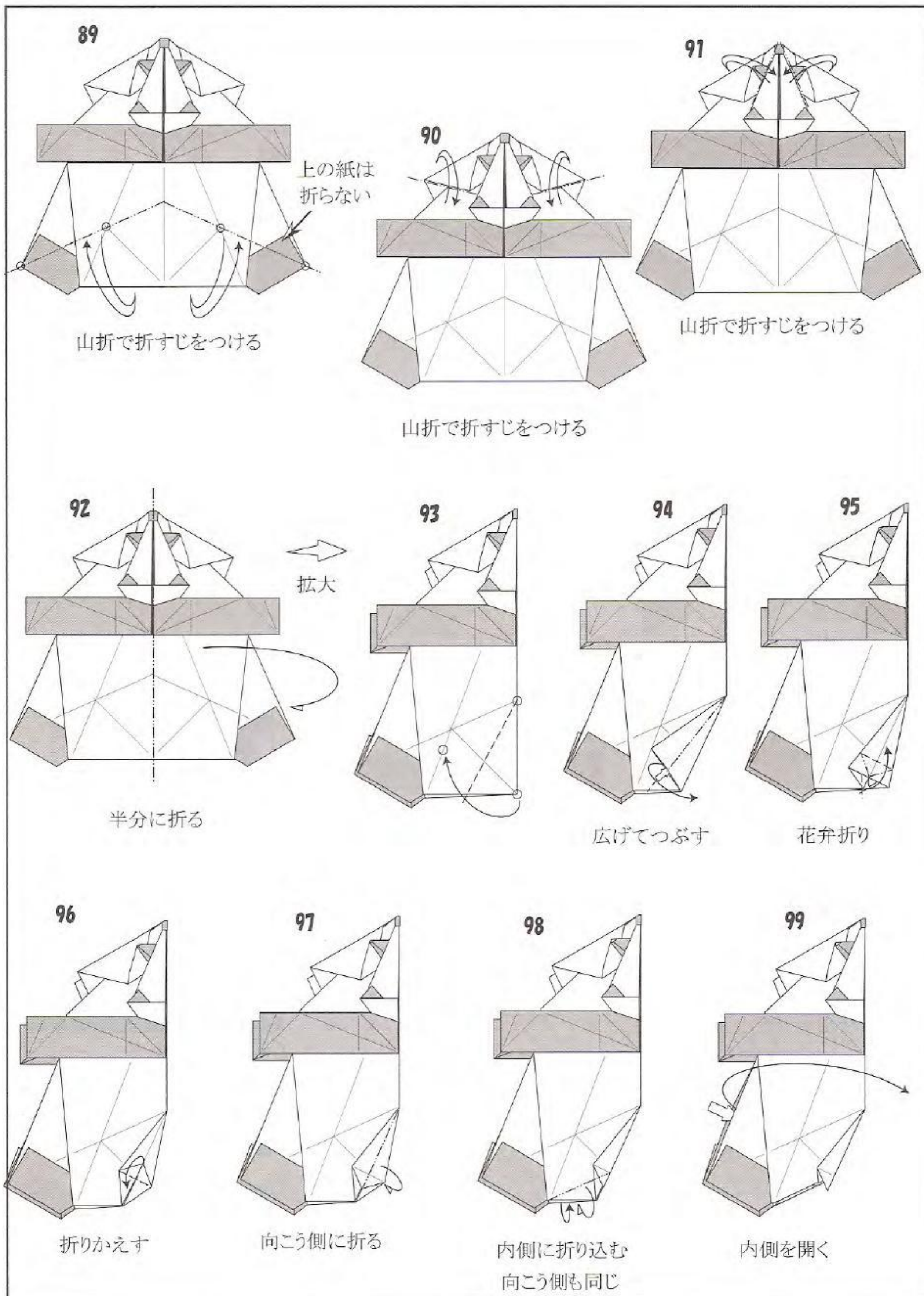
折りかえす



折すじをつける

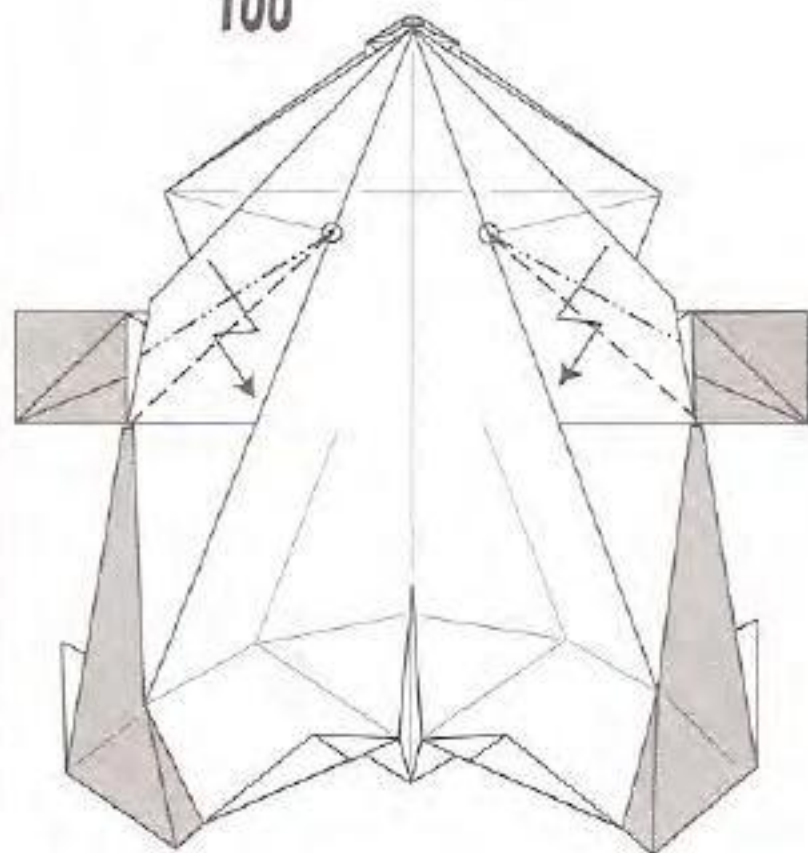


ついている折すじを使って
山折で折すじをつける



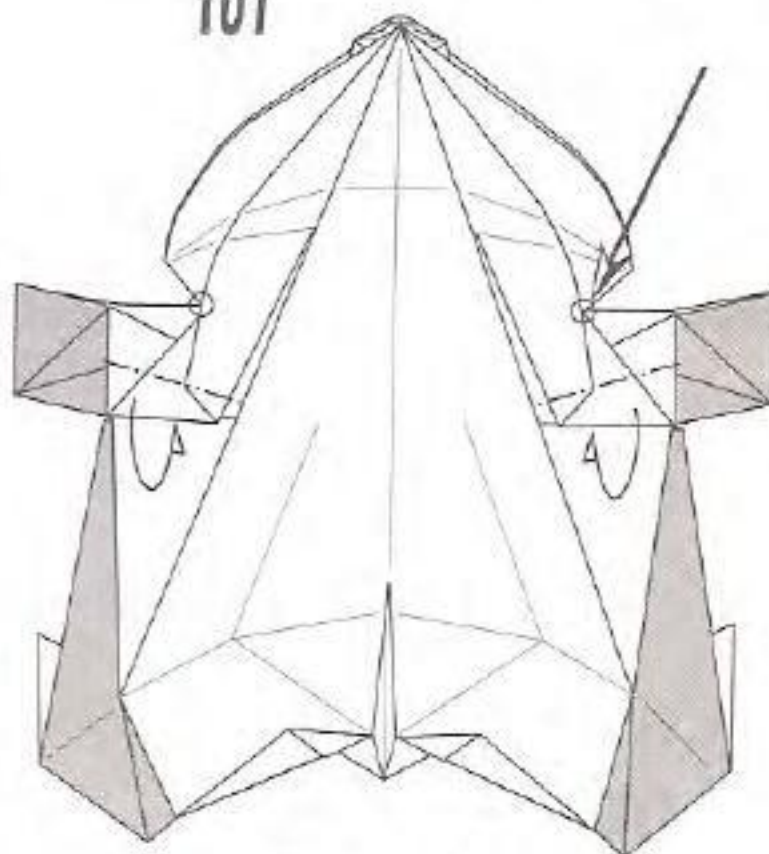
100 では
ここが一致するように

100



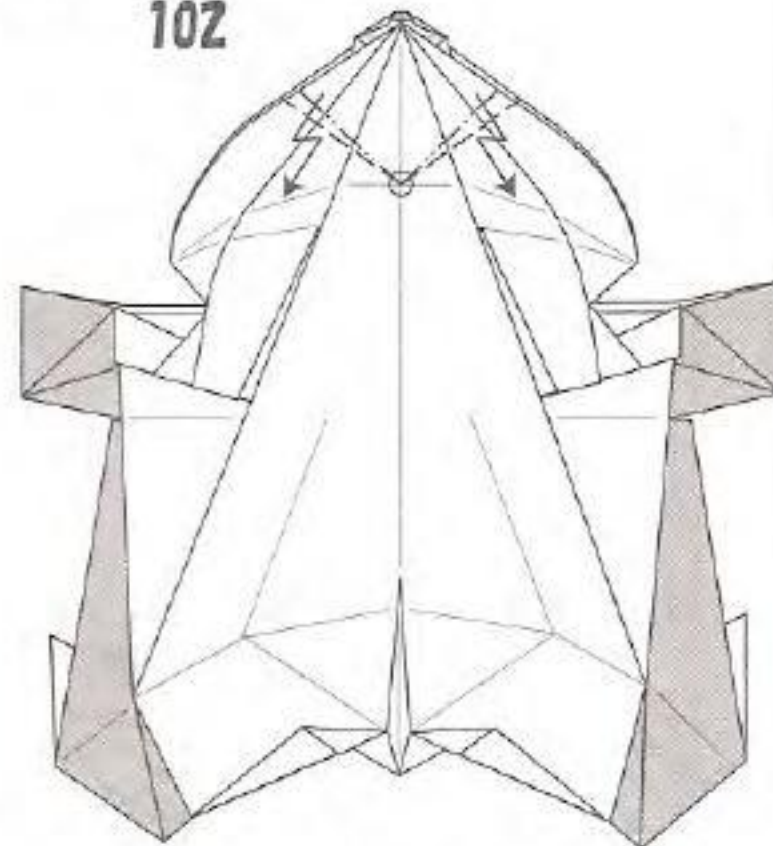
段折り

101



内側に折り込む

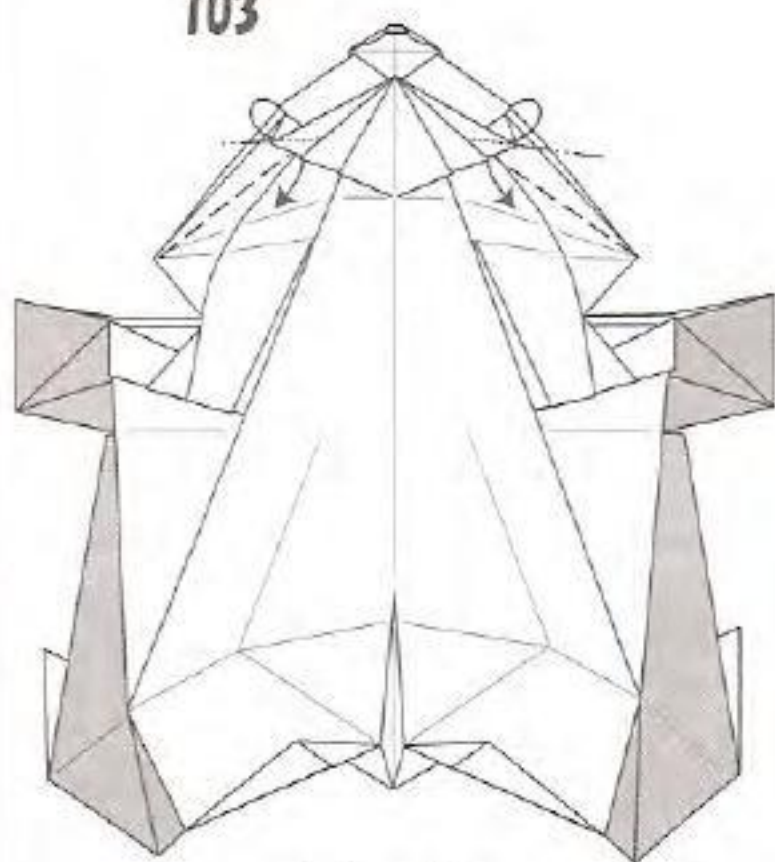
102



段折り

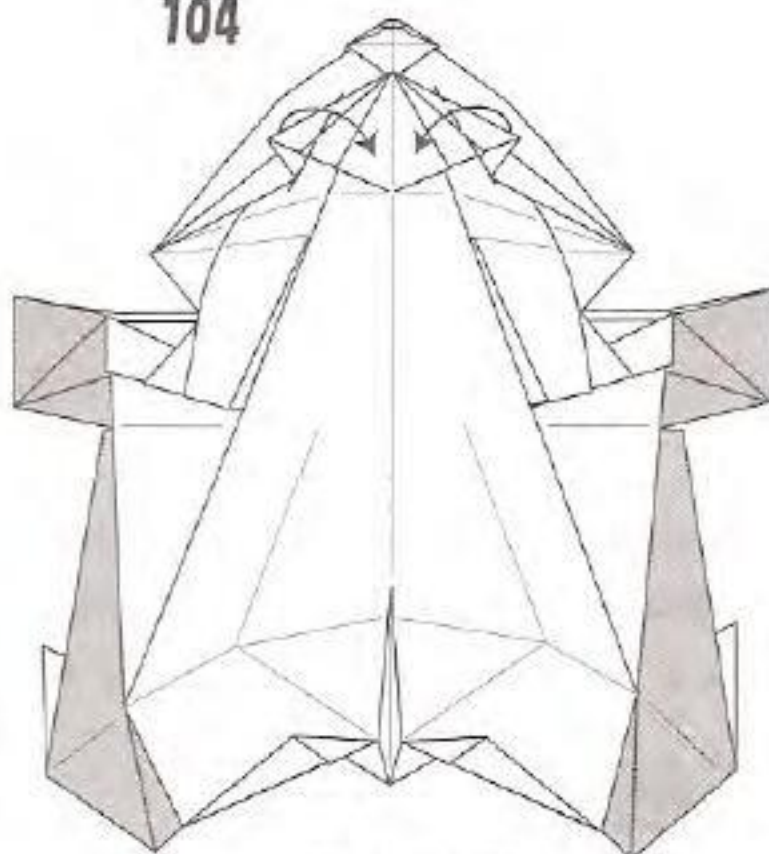
手前に飛び出す立体的な折り

103



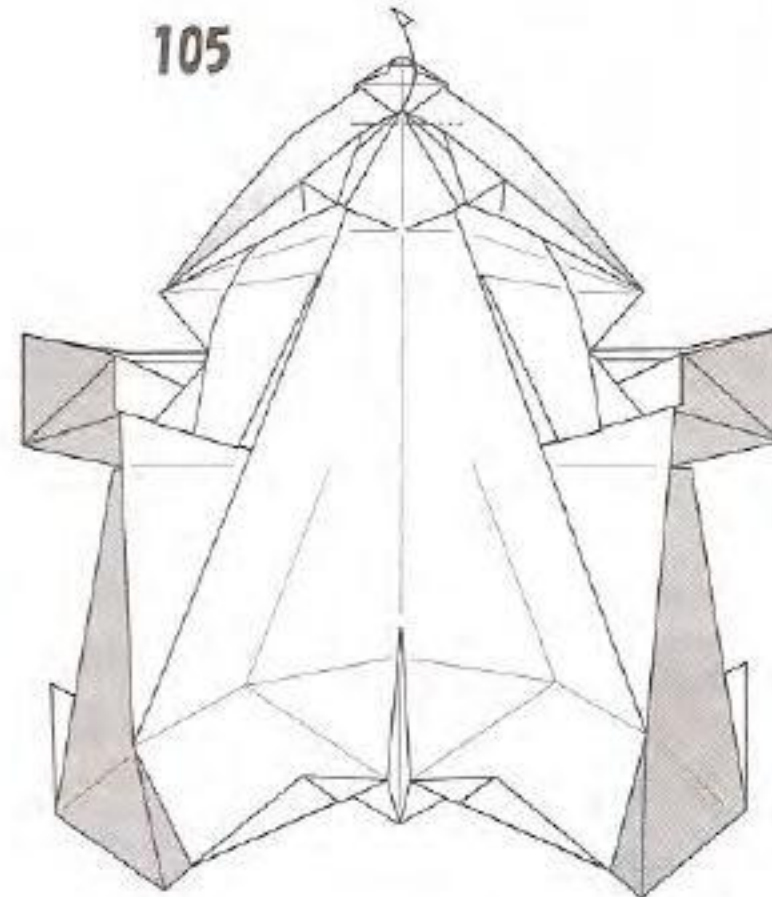
中わり折り

104



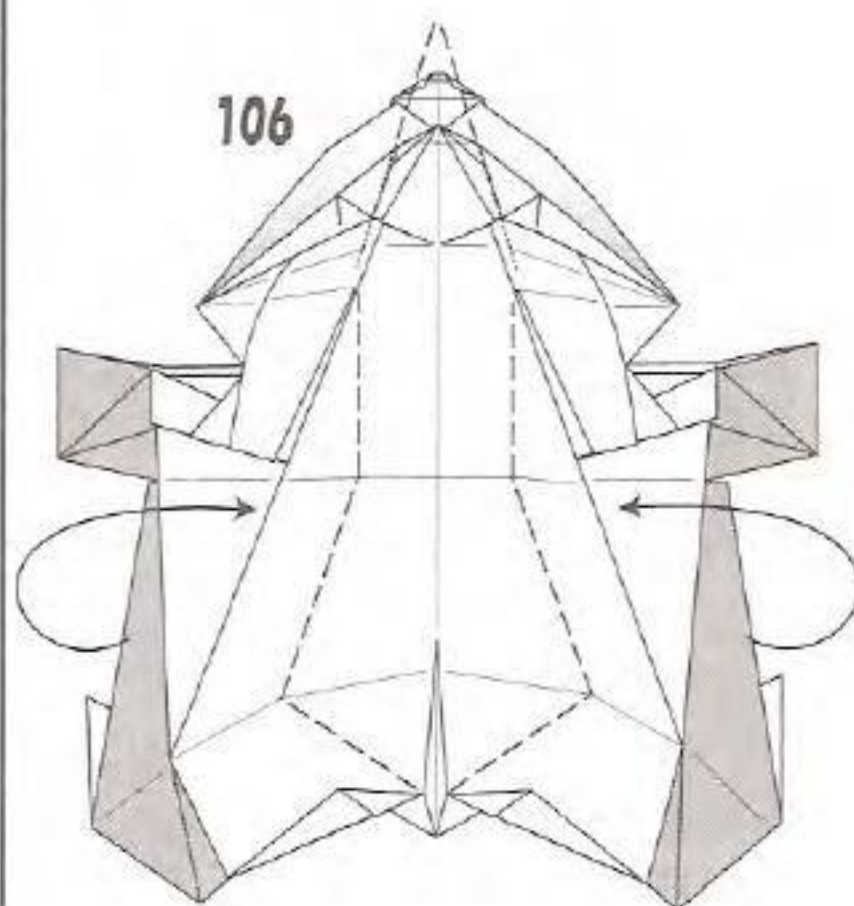
折りかえす

105



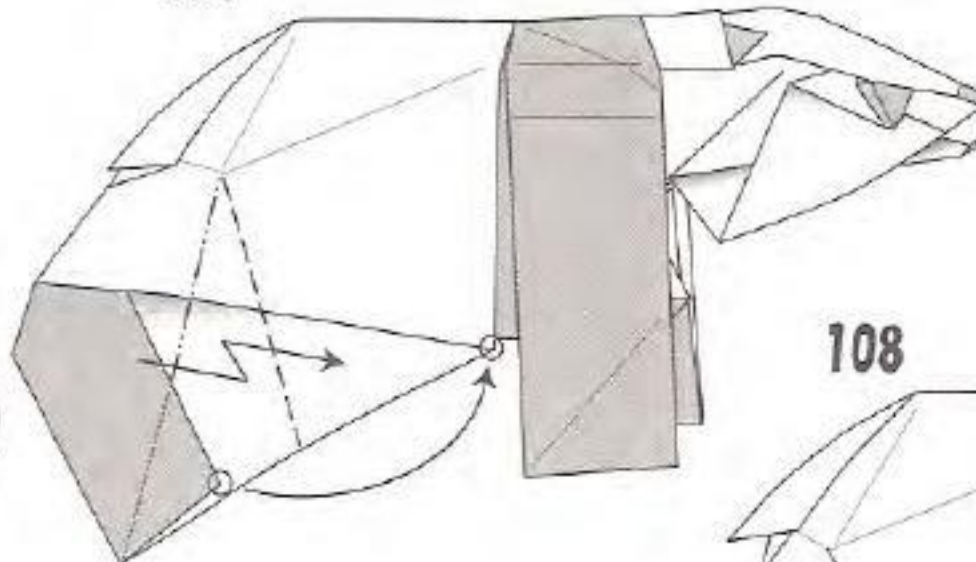
先端を少し折りまげる

106



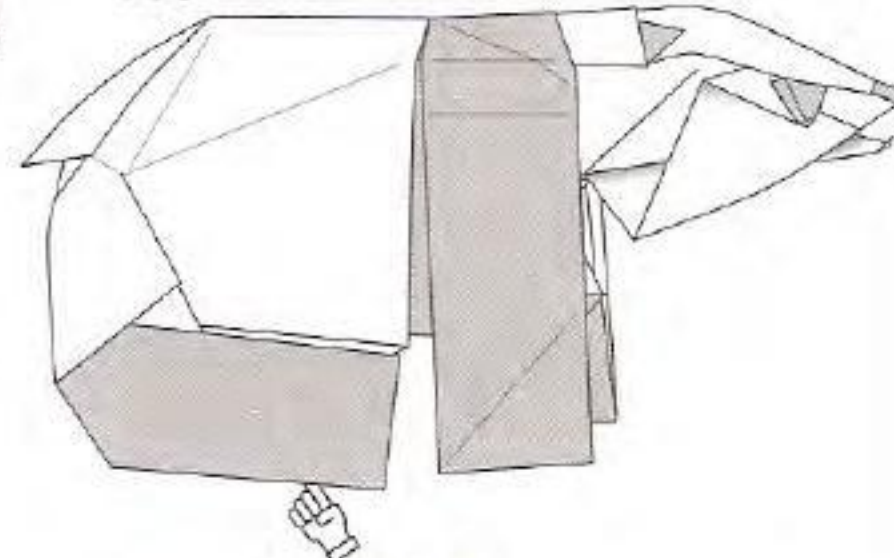
ついている折すじを
つかって立体に折る

107



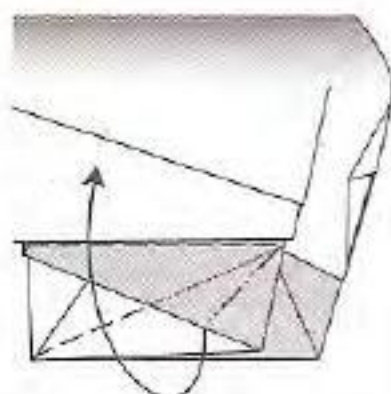
○印があうように段折り
向こう側も同じ

108



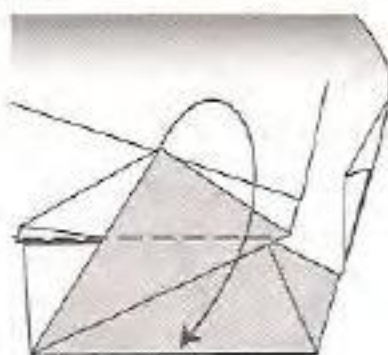
内側を見る

109



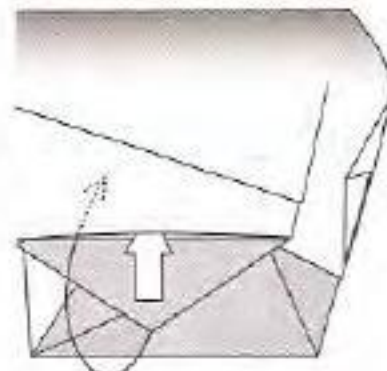
引き寄せるように折る

110



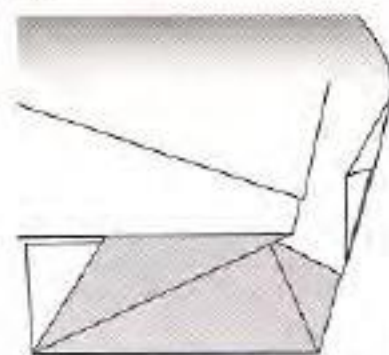
折りかえす

111



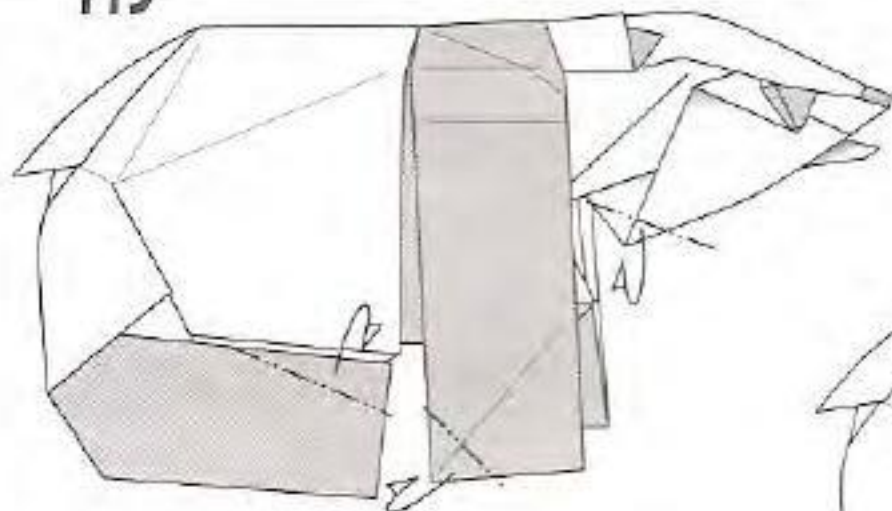
下に差し込む

112



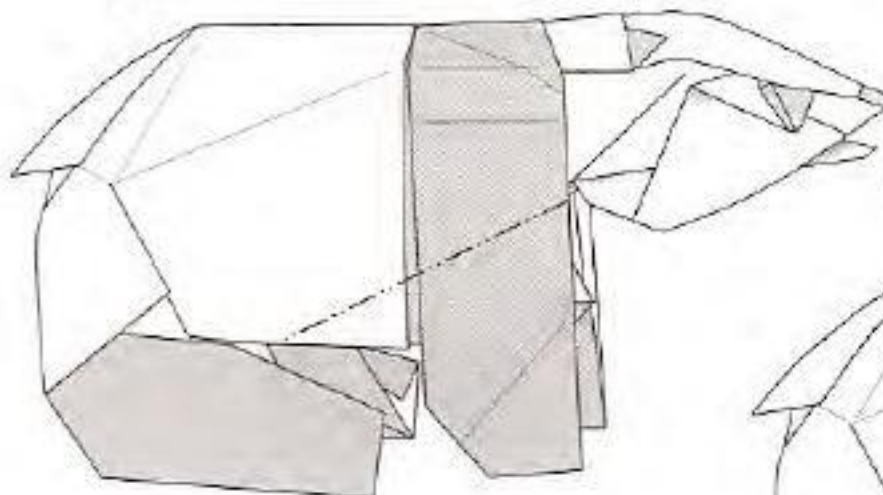
内側を折った形

113

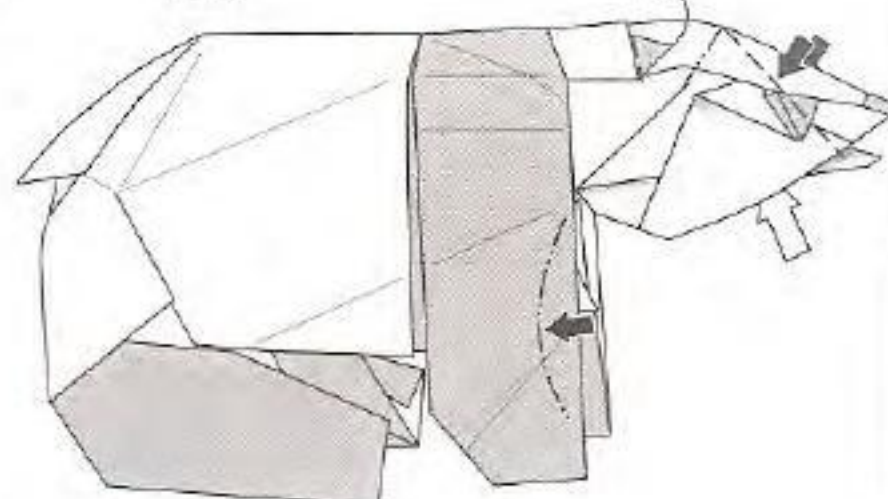


それぞれ内側に折り込む

114

折すじをつけて
体に丸みをつける

115



形を整える

顔の中心部分は
つまむように細く

Orisuzi ("Fold-Creases")

折紙と父の姿

Folding after my Father

福島明星

Fukushima Akiho

私が折紙を始めたのは、父が居たからであろう。小さい頃の記憶には父が折紙を折っている姿がはっきりと残っている。父が私の大好きな恐竜やキングギドラ等を折り上げる様を見ているのが私は好きだった。また、折紙のTVチャンピオンは何度も観ていた記憶がある。今も家のどこかに録画したビデオテープがあるかもしれない。そのようなわけで折紙が常に身近にあったと言っている。

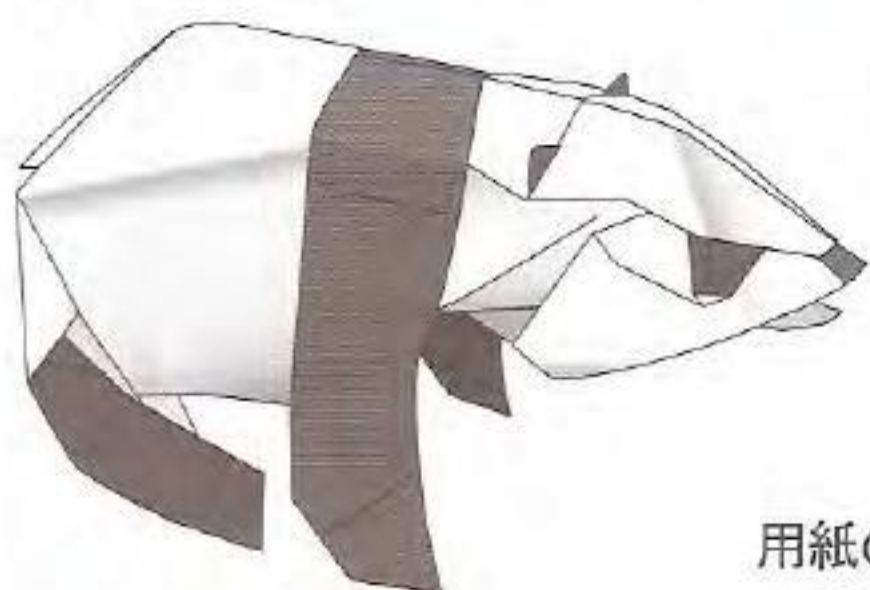
父がいつも折るのは一枚折りの難解な創作折紙である。そのためか、私は昔から切り貼りする折紙が好きではなかった。勿論、切り貼りする折紙を否定するわけではない。しかし、いつの間にか自分が折るのは一枚折りでなければ嫌だという変なこだわり

ができてしまったことは事実である。更に言えば、恐竜骨格を作る際の複合折りはOKだが、動物を作るのに2枚以上組み合わせるのは嫌である。何故だろうと考えてみて、私なりの結論に達した。骨格は個々のパーツ(骨)が筋肉や軟骨によってつながってできている。骨格の折紙も一つ一つのパーツを折り、それを組み合わせて一つの作品ができている。つまり、生物学的におかしくない、むしろその組み合わせに近いと思っているのである。普通、動物は胴が真っ二つに離れたり、手足がバラバラになったりはしない。だから私は、骨格の複合折りは許せても(むしろ好きな部類に入る)、他の複合折りは嫌なのだと、勝手に思い納得している。

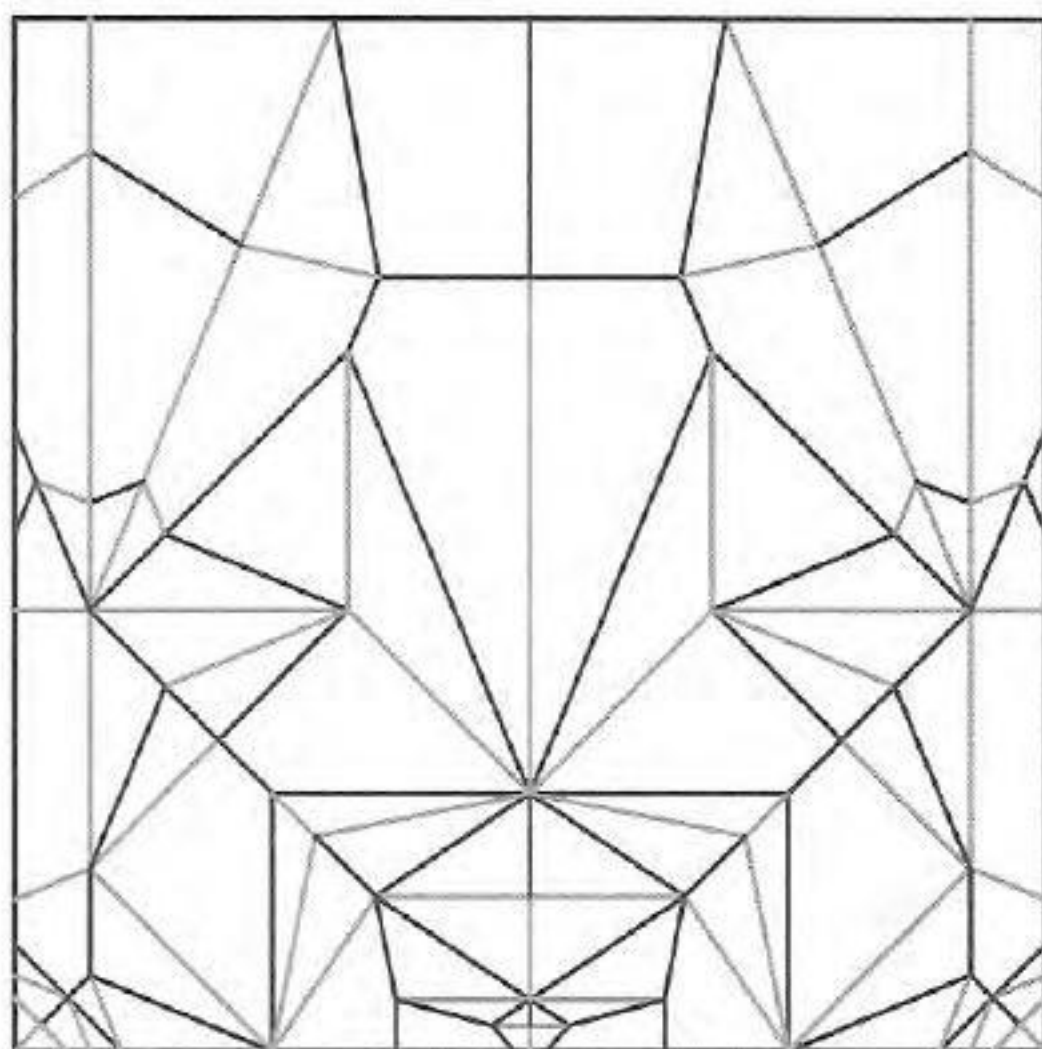
さて、話は変わるが4月16・17日と5月

2・3日の計4日、『震災折紙ボランティア』として日本折紙学会の方々と父と共に大震災で津波の被害にあった地域に足を運んだ。被災地は何処も言葉が出ないくらいひどい有様だった。私達は避難所になっている小学校等を廻り、段ボールいっぱいの折紙と折紙本を運んだ。子供達の「すげえ!!! 折紙の達人だ!!」というキラキラした目を見ることができた。私は、子供達が折紙に興味を示してくれるか心配だったが、そんなことは杞憂だった。逆に元気を貰った。このような活動を含め、折紙に対する父の一連の姿は、尊敬に値すると思っている。そして、私もいつしか、折紙のことで父に自慢できるようになりたいと考え、日々コンプレックス折紙に挑戦しているのである。

116 できあがり



後ろ姿



用紙の裏表の色を活用した折り方は“インサイドアウト”といわれ今でこそ珍しいものではないが、通常の造形に配色の技法も加わるためなかなか難しいものである。パンダも折り紙でよく折られるが、デフォルメによる愛くるしさを追い求めるか、そこそこのリアリティーを追い求めるかで、作品の仕上がりがまったく異なってくる。本作はリアリティーの追求をおこなったものであるが、パンダが本来もつ愛くるしさも併せ持った造形にできたのではないかと思う。

川畑文昭

折紙三昧 55

Origami-Zanmai (This Origami and That)

満員御礼

Sorry, Seats Fully Occupied

夏のコンベンション会場にも何とか目途がつき、6月にダイレクトメールとweb告知で参加の募集を行いました。今回は例年の半分程度の定員を設定したこともあって、あっという間に募集を締め切らなくてはならなくなりました。参加申し込みいただいた皆様には、あらためてお礼申し上げます。残念ながら応募に間に合わなかった皆様には大変申しわけないこととっております。次回を楽しみに、また、地方コンベンションもありますので、これに懲りず、今後ともご参加を検討いただければと存じます。

地方コンベンションといえば、5月の第1回折紙探偵団九州コンベンションも大変盛況でした。その九州コンベンションでは指導員認定にも多くの応募をいただいております。

多くの応募、感謝申し上げます。本誌が届く頃には、結果のご通知が届いていると思います。応募が多く、取りまとめ作業が遅れましたこと申し訳ございません。

7月3日にJOASホールで開催された第10回折紙の科学・数学・教育研究集会も今回は特に発表のご希望が非常に多く、また、ご参加いただいた方からも熱心なご質問があり、ますます充実した集会となっております。今回は、私も1題、このところ取り組んでいる折紙著作権に関する話題を提供させていただきました。貴重なご意見をいただき、今後の検討の参考にさせていただきますと存じます。

まだ、満員と言うほどのことでもないのですが、図書利用の申し込みも増えてきて居ります。東京周辺の方以外は利用し辛い問題を解決するのは簡

単ではないのですが、所蔵資料も充実してきておりますので、絶版本などをじっくり閲覧できる制度ですので今後とも会員の皆様のますますのご利用をお持ちしています。また、研究集会資料や講演資料も発表者の希望により所蔵しますので、ご利用いただければと存じます。

さて、上記のようにここのところ参加型の事業の熱気を強く感じます。また、新しく創刊した『折紙の科学』の売れ行きも想定以上のように喜んでおります。会の運営的には機関誌である本誌の購読者や会員増が重要なのですが、このような熱気がこれらの増加に繋がってくればと期待しているところです。

西川誠司 Nishikawa Seiji
日本折紙学会 評議員代表

展開図折りに挑戦

Crease Pattern
Challenge

第72回

ミミズク

Horned Owl

谷田尚之

Yada Naoyuki

Created : 2011/4

Paper Size : 40cmx40cm

Height: 12cm



➤ のミミズクは「リアル路線の作品と
↳ キャラクター系作品の中間くらい
の作品」ということを意識して創作しま
した。というのも他の創作者の方々が
フクロウ、ミミズクを創作していて、か
わいいモデルやカッコいい作品はたく
さんあるのです。なのでその中間程度
のものを作ろうと思ったわけです。差
別化を兼ねた逃げですね(苦笑)。です
が、できるだけ中途半端にならないよ
うには気をつけたつもりです。

カード配置はいたってシンプルです。
展開図の右上の角と左下の角が羽で、
右下の角の辺りが胴体。紙の中心
から左上の角周辺が頭と背中になっ
てます。実際に折るときにはまず、展
開図の右側の線で畳んでください。特
に難しい折り方はないのでしっかりと
展開図を睨めば、そう難しくはないと
思います。

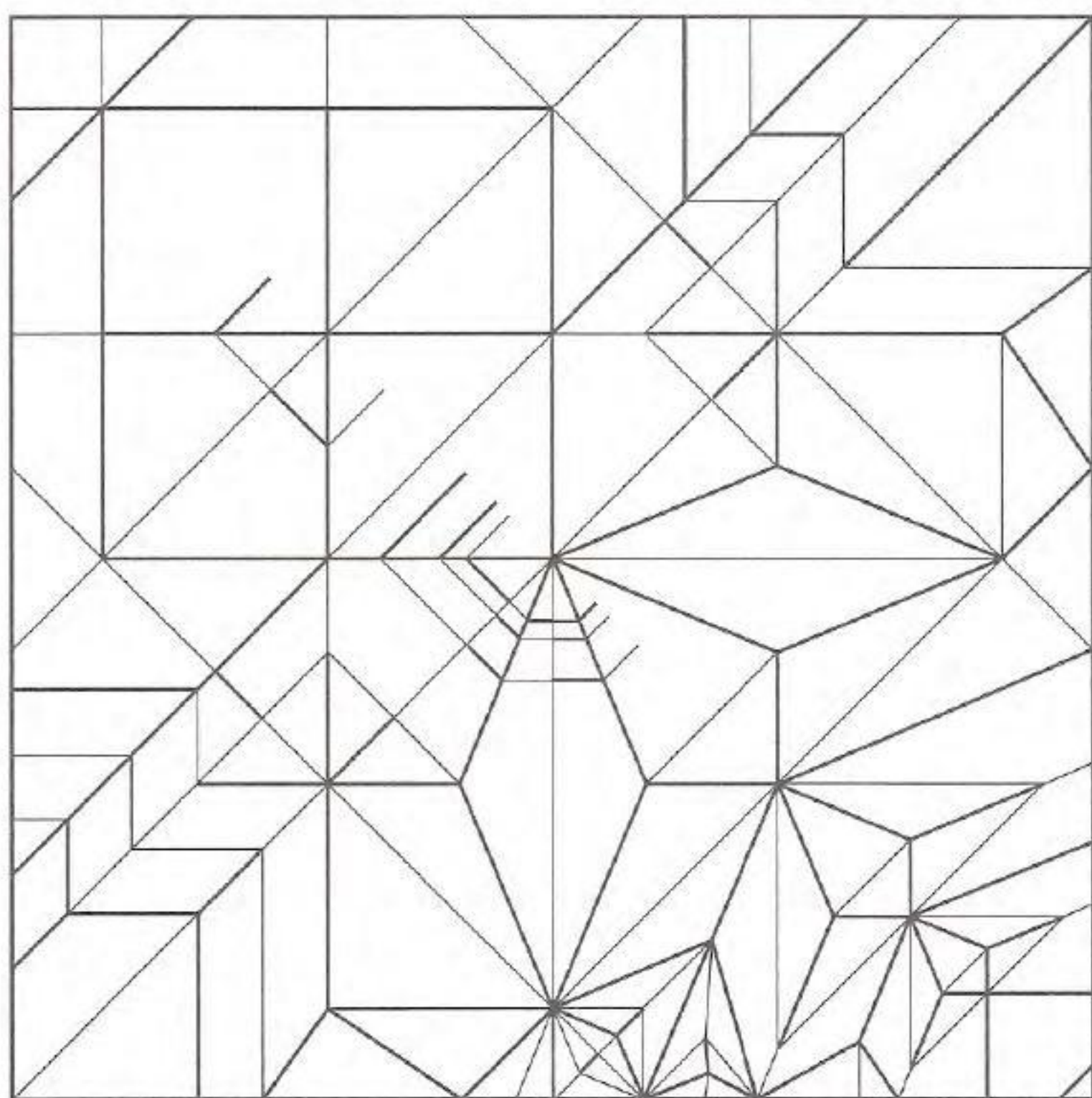
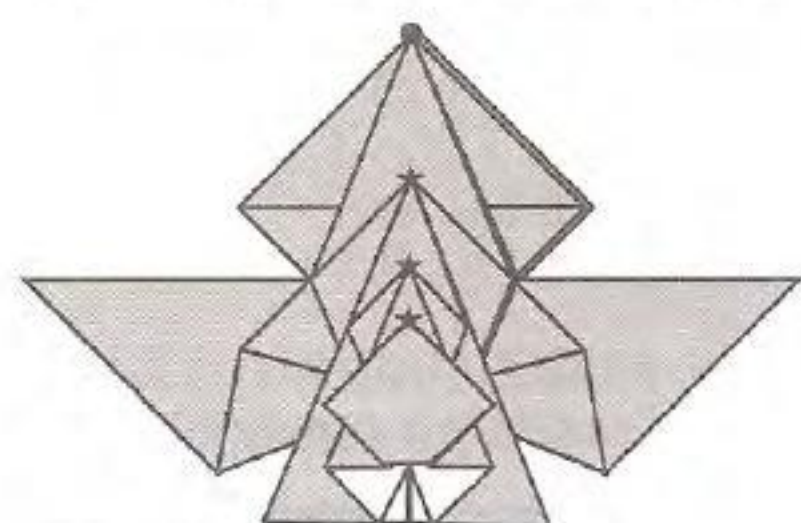
右側の展開図が畳めたら、挿絵で
角の位置を確認してください。●の記
号が嘴になる角で、★の印がある3つ
の角はお腹の毛を表現する角になり
ます。嘴の角の後ろ側にある角は手前

に折って頭の表現に使うための角で
す。それが確認できたら展開図左側に
戻ります。

嘴の角周りに付いている線は段折
りした後に角を折り下げると付く線で
す。その後で後ろの角も折り下げると
中心付近の線は全部付くはずです。
羽の辺りに追加されている線は、中割
り折りした後に重なっている紙をか
ぶせれば大丈夫です。残るは右下辺り
(足の爪)の処理ですが、展開図通り

に畳んでも3本の爪になる角はキッチ
リと重なりません。1本だけ少しずれま
す(本来ミミズクの爪は4本ですが、構
造の都合で3本になってます)。これで
展開図の説明は終わりますが、ここま
で折れていればなんとなくミミズクに
見えるのではないのでしょうか。ここから
先は写真とにらめっこしながら頑張っ
てみてください。

ちなみに40cmほどの紙で折ると、
爪で指を挟んでちょこんと乗ります。



File-43

萩原 元

Hagiwara Gen

萩原 元(はぎわら・げん) = 1990年生まれ。幼少時より紙に触れ、小学生の頃に友達へのライバル心からより深く折り紙の世界に嵌る。オーストラリアでデザインを学びつつ、主に動物をテーマに作品を創作している。



■オーストラリアではどのような折り紙活動をしていますか？

基本的にメルボルンの折り紙グループPAPER CRANEのメンバーとして活動しています。毎月の例会に参加したり、図書館や小学校で講習をしたりですね。プライベートだと今年の2月頃に在メルボルン日本国総領事館の展示スペースを借りて個展をさせて頂きました。あとは日本にいた頃と変わらず学業の合間にひたすら紙を弄くり回す日々です(笑)。

■どのような経緯で領事館で展示をする事になったんですか。

きっかけは本当に些細な事でした。家族がこちらに遊びに来た時に泊まったホテルのスタッフに作品を見せたら大変気に入られたんです。そしたらその人が日本人向けのメルボルン情報サイトを運営しているという知り合いに僕の事を話し、さらにその人の知り合いが領事館の職員で、という流れでした。人と人の繋がりに感謝です。

■海外での折り紙について日本人としての印象は？

小学校等で教育目的に利用されたり、書店で本が売られていたりすると知名度は高いようですね。駅や電車の中で折っていると「Oh! Origami!」と声をかけられる事も多々あります。

愛好家の傾向としてはユニットや

ボックスなどの幾何学的、実用的なものに人気があるようです。

それとどうやら折り紙にはグリーン、クリーン、ピュアなどのイメージがあるらしいです。無(紙はありますが)から何かを作るイメージから、いろいろな広告への利用が増えているように感じます。

■影響を受けた折り紙作家はいますか？ またオーストラリアで注目している作家はいますか？

それこそいろんな人の影響を受けていますが、中でも吉澤章さんと笠原邦彦さんの影響が強いです。中学の頃にコンプレックス折り紙の本と出会うまでひたすらお二方の作品ばかり折っていました。逆に設計や蛇腹等を知ったのは創作を始めてからだったので今でも苦手です。単に不勉強なだけかもしれませんが。

オーストラリアはオリジナルの作品を創作している作家さんが少ないので、あまり存じていないのですが、スティーブン・ケイシーさんとは例会やコンベンションでよく作品について語り合いました。あとは最近例会に頻繁に来ている中学生の少年が2人程いるのですが、最近創作を始めたようなので今後の成長に期待しています。

■創作の際に心がけている事は？

割と気の向くままに折っているのですが、強いこだわり等はないのですが、誰が

見ても対象を理解出来る作品を作りたいと思っていますね。

また意識してやっている訳ではないのですが、創ったものを人に見せると大抵の感想が「かわいい」なのでそうなるように折っているんだと思います。デフォルメして若干頭身を低くしているからかもしれませんね。

■折り紙の魅力は何ですか？

やはり平面の紙から立体的な形が出来上がる事につきます。少しずつ、少しずつ、パズルのピースを嵌めては外してを繰り返すように紙を折っては開き、苦勞の果てに作品が出来た時の気分は何度味わってもいいです。

■今後の活動について教えてください。

大学に通っていて比較的時間の融通のきく今のうちにもう一度個展を開きたいと思っています。メルボルンはアーティストが多くギャラリースペースが豊富なので、次はちゃんとした展示場を借りてみたいです。

あとPAPER CRANEの主メンバーだったマット・ガーデナーさんがオーストラリアに渡ってしまったので、後を継いでグループの運営の方を手伝っていく事になっています。今はグループの知名度を上げる為に今まで手薄だったSNSやフォーラムといったネット上でのプロモーションについて検討しています。



在メルボルン日本国総領事館での展示風景



コリー

ウサギ

Rabbit Ear つまみおり

Information



鶴の着ぐるみが喝采を浴びていた



▲選ばれたチーム山口のバペット
◀大きな紙での製作はまるで格闘技だ



▶2009年の名古屋「コンベンション」のスペシャルゲストであったセスさんはガールフレンドと小松みずくを折って参加していた



OUSA NY Convention Report

今年のOUSAコンベンション(6/24-27)には、日本からスペシャルゲストとして川崎敏和氏が招待された。例年に比べ、日本人の参加が少なく、JOASの新世代のメンバーも原司君一人という寂しさであった。それでも8名のJOAS会員が参加していた。NOAはここ何年かツアーを組んでいたが、今年は佐野友氏(NOA専務理事)親子だけの参加であった。

コンベンションの方は例年通り盛況で、盛り上がりを見せていた。中でも昨年から始まったオーバーサイズおりがみコンテストは日本ではなかなかできない、OUSAコンベンションならではの企画だ。

作品展示は会場が広く、作品も充実していた。その中で、MITのジェイソン・クー氏を中心となって制作した全長6メートル程のティラノサウルス全身骨格(吉野一生/作)は、広い会場に堂々とし

た姿を見せていて印象的であった。

また、会期中にホスピタリティ・ホールで東日本大震災折り紙キャラバンの活動を紹介するとともに義援金の呼びかけをしていただき、1640ドルが集まった。義援金を寄付して頂いた方には大場雅人氏(JOAS新世代メンバー)製作のホイル紙で折られた4cm程の悪魔(前川淳/作)と1cm程の川崎ローズ(川崎敏和/作)がお礼として渡された。なお、悪魔と薔薇は各100個製作に8ヶ月かかったそう。

その他、会場では来たる911の追悼セレモニーに訪れた人々に手渡す為の折り鶴の製作を、参加者に呼びかけていた。これは世界貿易センタービルの管理会社の依頼で、何万羽も必要になるという事だ。この折り鶴には、どこに住む人が折ったのか折った人の町の名を書くことになっていた。

▶運悪くひどい悪徳タクシーに乗ってしまった原君。新世代でただ一人参加で寂しそう



▲懇親会ではジーンさん(OUSAボードメンバー)から義援金が手渡された



▲6メートル程のティラノサウルス全身骨格



▲JOASの作品展示ブース



▲昨年までとは違って、とても広がった作品展示場



▲ホスピタリティ・ホールでは夜遅くまで折っている



911の追悼セレモニーのために折り鶴を募集していた

17年ぶりのOUSAコンベンション

川崎敏和

大津での国際会議を宣伝するためにOUSAコンベンションに参加してから17年。OUSAの招きでNew Yorkを再訪問した。空港からのタクシーを降りて驚いた。ホテルではなく4名が台所とシャワー室を共有する寮に着いていた。それでもコンロ、オープン、大型冷蔵庫があり、七面鳥パーティも可能だ。

翌日は美術館、下町Chelsea Market巡

りとボードメンバーとの夕食会。そのあと山口さんたちとアイリッシュパブで飲んだ。坪さん、僕のあの写真どうしたでしょうね？ 1年前のシンガポール。3晩通って撮ることができたあの写真ですよ。

講習は1分ローズ2回、箱、ドラゴンをMarcio野口さんの通訳で行なった。箱のチケットが1枚残った。こんなにいい折り紙はそうはできない。折る快感と驚きを見た目だけで伝えるのは難しい。これからは「知ちゃんもびっくり、超お勧め!」と書くことにしよう。講習の合間に展示作品を見に行った。吉野さんのT-Rex巨大骨格が威嚇していた。個人作品ではBeth Johnsonさんの動物が良かった。

夜の巨大折り紙コンテストは実に楽しかった。ユニット作品は1.5m角、他は約4m角を45分以内、4名で折る。開始前に山口さん

が松浦さんとパペットの折り方を確認していた。真剣勝負のようだ。私は、転がしても壊れない鎧玉で参戦した。パフォーマンスがあると聞いて東北大地震の寸劇を作った。必死の制作→完成報告→審査→表彰。作品とは別に寸劇審査があるのかもしれないと思っていたら、完成報告=寸劇タイムだった。仕方なく表彰のとき壇上で演じたがチーム山口に破れた。探偵団でリベンジしなければ!



▲山口氏持参のプロジェクターを使っの1分ローズの講習は好評だった



▲何処でもモテモテの1分ローズ



▲1分ローズを折ってご機嫌なジーンさん



▲オーバーサイズ折り紙に挑戦で作品製作中のチーム川崎 ▶舞台上でパフォーマンス



第1回折紙探偵団九州コンベンションレポート

折紙探偵団九州友の会代表

川村みゆき

5月21・22日の両日、佐賀大学文化教育学部本館にて第1回折紙探偵団九州コンベンションが開催されました。海外招待講師にブライアン・チャン氏を迎え、韓国から8名、国内は19都道府県から総勢128名の皆様にご参加頂いて、教室が狭く感じられる程の大盛況となりました。参加者の半分以上が探偵団コンベンション初参加とみられ、教室受付に戸

惑っていた方もいらっしゃったようでしたが、大きなトラブルもなく無事に進行できたのは皆様のご協力と九州友の会スタッフ19名の判断力・行動力の賜だと思います。当日は佐賀新聞とNHKからの取材も受けました。早くも来年が楽しみとのコメントを下さる方も多く、あっという間の2日間でしたが確かな手応えを感じました。事務局長の山口真さんには準

備段階から何度も足をお運び頂き多数のご協力を頂きました。この場を借りて御礼申し上げます。

今回、韓国折紙協会から東日本大震災の義援金10万円をおりがみキャラバンへ寄付頂きました。



集合写真



▲韓国折紙協会副会長のオ・キョンヘさんから義援金を手渡された



▲過去に無い豊富な料理で大好評の懇親会

東京大学五月祭 折紙サークルOrist展

5月28、29日に東京大学では五月祭が開催され、折紙サークルOristは神谷哲史氏の「エンシェントドラゴン」をメインに作品展示を行いました。紙は5.3m×5.3mのものを利用し、部員数人がかりで数週間かけて折りあげました。

これほどの大きさのものを折るのは初めてだったため、紙の作成や基準を付ける作業を始めとして様々な苦勞がありました。特に基準付けでは、紙の端と端を合わせるだけでも大変であるのに、点と点を結んで折るのは合わせにくく、改め

て巨大作品の難しさを理解しました。完成した時の達成感は大きなものでした。次回の駒場祭(11月)でも何らかの巨大作品を作りたいと思っています。また今回、自然をモチーフに、魚のモビールやユニットに挿した花々を部員一同で作成しました。非常に暑い部屋でしたが、風に揺れるモビールは涼しげでした。そのほか、各部員が制作した作品やトイレットペーパー折り紙の展示を行いました。

2日間とも雨が降っていましたが、多数の方にご来場いただきました。特に2



▲5.3mの紙で折られたエンシェントドラゴン

日は日曜だったため、展示場がある階のフロアいっぱいになり、入場待機列を作るまでの盛況ぶりでした。来場していただいた皆さんに折紙について興味を持っていただければ嬉しい限りです。

東海友の会主催 創作折紙・切り絵展

来る8月7日～9月3日、尾張旭市のスカイワードあさひにて、「創作折紙・切り絵展」と題し、切り紙作家である櫻井敏彦先生の切り絵と、東海友の会メンバーによる折紙作品のコラボ展示を行います。紙の可能性を折る～切るまで広げた幅広い視点での展示が見所です。

スカイワードあさひは、尾張旭市の小高い丘に立つ施設で、屋上には天体望遠鏡も備えられており、近隣の子供さんたちの良い集いの場となっています。

メンバー一同、新作発表の場としても良い機会であり、日々準備を進めています。広い展示会場と、小高い丘ならではの窓からの眺望は一見の価値あり。入場は無料で、どなたでも入場可能です。

お近くにお越しの際はぜひご来場ください。

今回の展示は、東海友の会顧問である名古屋芸術大学三枝優先生が同施設の展示プロデューサーを務めておられるご縁で実現することができました。

展示初日午後には大型恐竜折紙の実演イベントも開催予定です。

会場：スカイワードあさひ

4Fギャラリーあさひ

尾張旭市城山町長池下4517-1

お問い合わせは 0561-52-1850

開場時間 9:00～17:00 日・祭日も開場
詳細は今後、東海友の会HPにも随時アップしていく予定です。

<http://joas-tokai.fan-site.net/>

東京友の会 ※ 折り紙は各自持参

会場=JOASホール／参加費=大人500円(中学生以下300円)／時間=14:00～16:00／研究会=16:00～

●8月6日(土)／講師：谷田尚之／作品：ヘラサギ

●9月3日(土)／講師：未定／作品：未定

静岡友の会 ※ 折り紙は各自持参

会場=「紙友館ますたけ」増武ビル3F／参加費=大人500円(中学生以下は200円)／講習=10:30～12:00／講習・情報交換=13:00～15:00

●8月7日(日)／講師：辻 和之／作品：ヨークシャーテリア(のプチバスケット)
会場が土足禁止になりました。各自上履き(スリッパ等)をご持参下さい。

東海友の会 ※ 折り紙は各自持参

会場=名古屋芸術大学 西キャンパスA棟

303号室／参加費=大人200円(中学生以下は100円)／時間=13:00～16:30

●8月20日(土)／講師：未定／作品：未定

●9月17日(土)／講師：未定／作品：未定

大学の都合により変更される場合がございます。ご注意ください。

関西友の会 ※ 折り紙は各自持参

会場=未定／日程=未定

次の開催が決まりましたらウェブサイトでお知らせします。

九州友の会 ※ 折り紙は各自持参

会場=佐賀県立アバンセ4階／参加費=500円(中学生以下は100円)／時間=13:00～16:00

●8月28日(日)／会場=第2研修室B／講師：浜田 勇／作品：「犬かも」

●9月25日(日)／会場=第4研修室／講師：未定／作品：未定

JOASホール今後の予定

◆「知子の部屋」

9月17日(土)／講師=布施知子／参加費=2,500円／12:30～16:00

アットホームな雰囲気のある教室で、どなたでもご参加頂けます。15cmの折り紙持参

■参加の申し込みはFAX(03-5684-6080)か、メールinfo@origamihouse.jp宛でお願いします。

編集後記

■驚いたことがある。■韓国の折り紙界の事を調べていたら大変なことが分かった。■11月11日は日本折紙協会(NOA)が制定し、毎年行事を行ってきたおりの日。■それが韓国の新聞、中央日報によれば韓国折紙協会から分裂した紙文化財団が創立5周年となった2010年11月11日にこの日を「紙文化の日」と制定し、「折り紙世界化宣言」をしたというのだ。■その会場にNOA理事長、曾根理事が参加していた。■NOA理事長は祝辞も述べている。■どう理解したらいいのだろうか。■今年のNOA総会の前に開かれた理事会で、その件について質問したら理事長の逆鱗に触れてしまった。■そして現在、紙文化財団のホームページを見ると今年も11月11日に行事があるようだ。■紙文化財団の積極性、行動力には目を見はるものがある。■なんとか常識を持ったお付き合いができないものだろうか。(や)

日本折紙学会公式HP

折紙探偵団 <http://www.origami.gr.jp/>

折紙探偵団

2011年7月25日発行 第22巻2号 通巻128号
発行所/日本折紙学会

〒113-0001

東京都文京区白山1-33-8-216

Phone & Fax / 03-5684-6080

発行人/西川誠司

編集人/山口 真

編集スタッフ/神谷哲史、勝田恭平

デザイン/おりがみはうす

翻訳/立石浩一

発売元/おりがみはうす

●本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

定価635円(本体605円)

■ORIGAMITANTEIDAN / No.128 / Published on 25, July 2011 by Japan Origami Academic Society, 1-33-8-216
Hakusan Bunkyo-ku 113-0001 Tokyo JAPAN / Cover Photo: "Horned Owl" Produced by Yada Naoyuki / Photographed by Kamiya Satoshi / Publisher: Nishikawa Seiji / Editor in Chief: Yamaguchi Makoto / Editor: Kamiya Satoshi, Katsuta Kyohei / Editorial Design: ORIGAMI HOUSE / Translator: Tateishi Koichi

おりがみはうす商品案内

website = <http://www.origamihouse.jp/>

E-mail = info@origamihouse.jp

このページの商品の取扱いはいすべておりがみはうすです。

日本折紙学会とは別になります。

ATTENTION! : This advertisement is for Japan-internal use only.
For overseas shipment, please refer to the OrigamiHouse Web Site.

第17回折紙探偵団コンベンション 折り図集vol.17

予約受付中

日本折紙学会 編 / 2,000円 / 送料420円

B5判 / 全256頁 / 約50作品収録予定

2010年8月13日発売!

※13~14日はコンベンション参加者のみ購入可能

予約申し込み方法

申し込み方法は通常の通信販売方法(右下参照)と同様です。送料と本の代金をお送り下さい(送付先住所と商品名を明記のこと)。コンベンション終了後発送開始致します。

書籍名/著者・編者	価格(税込)	送料	内 容
神谷哲史作品集 神谷哲史 著 山口 真 編 立石浩一 訳	4,000円	国内一律 1冊 420円 (梱包込) ※ 複数冊は 異なります	B5判/全228頁/カラー口絵4頁/19作品収録 超複雑系折り紙の創作活動8年間の集大成。
西川誠司作品集 西川誠司 著 山口 真 編 立石浩一 訳	3,200円		B5判/全196頁/カラー口絵4頁/32作品収録 シンプルからコンプレックスまで幅広く楽しめる本
折紙図鑑「昆虫1」 川畑文昭・西川誠司 著 山口 真 編	3,100円		B5判/全196頁/カラー口絵4頁/17作品収録 '93~'94年の「昆虫戦争」で誕生した作品の記録
折紙図鑑「昆虫2」 ロバート・J・ラング 著 山口 真 編 立石浩一 訳	3,500円		B5判/全196頁/カラー口絵4頁/18作品収録 初心者お断り、世界で一番難しい昆虫折り紙の本
面~The Mask~ 布施知子 著 山口 真 編	3,300円		B5判/全200頁/全27作品カラー写真紹介 作者がユニットに出会う前の、お面だけの作品集
空想おりがみ 川畑文昭 著	2,900円		B5判/全180頁/カラー口絵4頁/18作品収録 1995年6月初版発行の恐竜と空想動物の本
エリック・ジョワゼル -折り紙のマジシャン- 山口 真 編著 立石浩一 訳	4,800円		B5判ハードカバー全144頁/カラー80頁 2010年に逝去したジョワゼル氏の作品写真集
第16回折紙探偵団 コンベンション 折り図集vol.16 日本折紙学会 編	2,000円		B5判/全256頁 国内・外から集まった秀作47作品を収録
第11回折紙探偵団 コンベンション 折り図集vol.11 日本折紙学会 編	2,000円		B5判/全256頁 国内・外から集まった秀作55作品を収録
第10回記念 折紙探偵団 国際コンベンション 折り図集vol.10 日本折紙学会 編	2,000円		B5判/全256頁 国内・外から集まった秀作50作品を収録

※第1回~第9回及び第12回~第15回の折り図集は全て絶版です

※書籍は郵便の「ゆうメール」で発送しております。送料には梱包材代が含まれています

商品名	送 料	内 容
折紙探偵団Tシャツ XS, S, M, L, 各サイズ 2,000円(税込)	国内一律 2着まで 500円	折紙探偵団のロゴが入ったTシャツ 色は黒のみで布は厚手 ※数に限りがありますので、ご注文の 際には在庫を確認してください。
恐竜柄おりがみ用紙 1,000円(税込)	国内一律 1~2セット 440円	35x35cm/10枚入/70kg の洋紙に細かい恐竜模様を印刷
恐竜柄おりがみ用紙 折り図つきセット 1,200円(税込)		恐竜柄おりがみ用紙+ ドラゴン(北條高史作)の折り図
『折紙探偵団』 専用ファイル 750円(税込)	1冊250円 2冊350円 3冊470円	変形B5判/箔押し(緑)ロゴ入り 雑誌『折紙探偵団』1年分(6冊) と、会員特別配布物が収納可能!

※定形外郵便で発送しております(書籍とは別発送)送料には梱包材代が含まれています

本ページに記載していない商品は、現在取り扱っておりません

ご送金頂いてもお送りできませんのでご注意ください

GALLERY ギャラリー おりがみはうす
〒113-0001 東京都文京区白山1-33-8-216
TEL:(03) 5684-6040 FAX:(03) 5684-6080
E-mail: info@origamihouse.jp
月~金 12時~15時 土・日・祝 10時~18時

折り紙用紙専門のオンラインショップ開店!
(株)トーヨーの商品を中心とした豊富な品揃えです。
<http://origamihouse.store-web.net/>
※本ページ商品は取り扱っておりません。ご注意ください

ORIGAMI Tシャツ



2,300円(税込)

送料:2着まで500円

左胸位置に[折紙-折鶴]の
ロゴが入ったTシャツ。背
面には大きく
[ORIGAMI]などの文字
が入っています。色は黒
のみで布は厚手です。S、
M、L、XL各サイズあり。

書籍の送料

書籍1冊の送料は**420円**

書籍2冊の送料は**530円**

上記以外の場合はお問い合わせください 書籍と紙製品は別発送となります

商品の申し込み方法

冊数と料金をよくお確かめの上ご注文ください。

先に**郵便振替**か**現金書留**で料金(商品価格+送料)をお
送り下さい。入金を確認後、商品を発送させて頂きます。ご希
望の商品名と連絡先の記入(郵便振替の場合は振替用紙の
「通信欄」に記入)をお忘れのない様お願いします。

郵便振替番号 **00120-9-715400**

加入者名 **おりがみはうす**

※折紙探偵団の購読申込みとは別の口座です。くれぐれもご注意ください。

※郵便振替用紙は郵便局備え付けのものをご利用ください。

※現金書留の場合は左記の住所へお送りください。

※商品のお届けは通常、送金から約1週間~10日です(お盆・年末年始等を除く)。

おりがみ風船で折ろう!たのしい牧場

アニまるッ!

¥200
(税抜き)

おりがみ



折って飾れる
背景台紙付き!

イヌ

ウシ

ブタ

ボール

ごはん

ウサギ

アルパカ



株式会社トーヨー

ホームページ <http://www.kidstoyo.co.jp>

●写真は印刷ですので実際の商品とは色は違う場合があります。
※表示価格には消費税は含まれておりません。※内容・デザインは一部変更になることがあります。
本社 〒120-0044東京都足立区千住緑町2-12-12 TEL03-3882-8161
大阪支店 / 名古屋営業所 / 福岡出張所 / 札幌出張所

日本折紙学会発行 定価 635円(本体605円)